

# 根岸西遺跡

主要地方道日立笠間線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成18年3月

茨城県高萩土木事務所  
財団法人 茨城県教育財團

茨城県教育財団文化財調査報告第261集

ね  
ぎし  
にし  
根 岸 西 遺 跡

主要地方道日立笠間線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成18年3月

茨城県高萩土木事務所  
財団法人 茨城県教育財団



遺跡遠景（南より）



第1号住居跡出土遺物（埋甕）

## 序

茨城県は長期的な展望のもと、産業・経済の発展に伴う広域流通機構の整備と、県全域にわたる調和のとれた発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めております。一般県道日立笠間線の整備事業も、その目的に添って県土の一体的な振興を図るために計画されたものであります。

このたび、茨城県高萩土木事務所は、日立市大久保地区において、日立笠間線の道路改良工事を決定致しました。この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である根岸西遺跡が所在します。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県高萩土木事務所から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け、平成16年7月から平成16年9月にかけて発掘調査を実施しました。

本書は、根岸西遺跡の調査成果を収録したもので、本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県高萩土木事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、日立市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、感謝申し上げます。

平成18年3月

財團法人 茨城県教育財團

理事長 稲葉節生

## 例　　言

- 1 本書は、茨城県高萩土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成16年度に発掘調査を実施した。茨城県日立市大久保町2470番地の2のほかに所在する根岸西遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調査	平成16年7月1日～平成16年9月30日
整理	平成17年7月1日～平成17年11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	江幡 良夫
主任調査員	大塚 雅昭
主任調査員	渡邊 浩実
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、主任調査員渡邊浩実が担当した。

## 凡　　例

1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸 = +62,120.0m, Y軸 = +70,120.0mの交点を基準点（A 1al）とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40m四方の大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々 10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c……j、西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A 1 al 区」、「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S X - 不明遺構 P - 柱穴 K - 搅乱

遺物 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品

土層 K - 搅乱

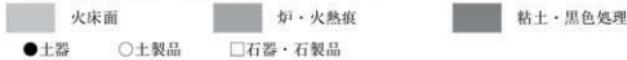
3 土層と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社）を使用した。

4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は250分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 現在値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。計測値の単位はm・cm・gで示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率、写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 土坑一覧表の深さについては、最深部の計測値を示した。

6 「主軸」は、竈（炉）を持つ竪穴住居跡については竈（炉）を通る軸線とし、他の遺構については、長軸（長径）を主軸とみなした。「主軸・長軸（長径）方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

抄 錄

# 目 次

序

例言

凡例

抄録

目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 土坑	34
2 平安時代の遺構と遺物	55
(1) 竪穴住居跡	55
(2) 土坑	64
3 時期不明遺構と遺物	66
(1) 竪穴住居跡	66
(2) 土坑	68
(3) 溝跡	80
(4) 不明遺構	83
(5) 遺構外出土遺物	83
第4節 まとめ	89

写真図版

第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県は、日立市大久保町において、主要地方道日立笠間線の道路改良事業を進めている。

平成11年10月21日、茨城県高萩土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道日立笠間線道路改良事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成15年4月30日、5月1日に現地踏査を、平成15年5月26～28日、6月17～19日にかけて試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成15年6月25日、茨城県教育委員会教育長から茨城県高萩土木事務所長あてに、事業地内に根岸西遺跡が所在する旨回答した。

平成15年7月10日、茨城県高萩土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、計画変更が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年9月11日、茨城県高萩土木事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成16年1月15日、茨城県高萩土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、主要地方道日立笠間線に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成16年1月23日、茨城県教育委員会委員長は、茨城県高萩土木事務所長あてに、根岸西遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県高萩土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成16年7月1日から平成16年9月30日まで、根岸西遺跡の発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調查経過

調査は、平成16年7月1日から平成16年9月30日まで実施した。以下調査の経過については、概要を表で記載する。

期間	7月	8月	9月
工程			
調査準備	●	●	●
表土除草	●	●	●
道標確認	●	●	●
道構調査		●	●
道物洗浄		●	●
注記作業		●	●
写真整理		●	●
補足調査		●	●
撤収			●

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

根岸西遺跡は、茨城県日立市大久保町2470番地の2ほかに所在している。

日立市は、茨城県の北東部に位置し、東は太平洋を望み、南北約25kmの海岸線がある。地形的に見ると、日立市は多賀山地、海岸台地、久慈川下流域低地、里川流域の4地域に区分することができる。多賀山地は、阿武隈高地の南端にあたり、古生代の花崗岩質岩石や変成岩で構成され、頂上部が比較的なだらかで、ドーム状の山地である。日立市の約3分の2を占める多賀山地は、高鈴山の623mを最高峰に、標高300m程度の高原状の山地である。

海岸台地は、太平洋に沿って南北に帯状に広がり、第三紀層の凝灰質砂質泥岩の基盤の上に、第四紀の洪積層と関東ローム層によって形成されている。台地の幅は東西1.5~3km、標高は多賀山地と接する西側で約120m、東端は約20mである。また、多賀山地から流出する宮田川・鮎川・桜川・大川・金沢川や、その支流によって開析され、谷津が樹枝状に発達した舌状の様相を示す台地が北から南へ連続している。また、久慈川下流域は、関東平野の最北部にある沖積低地で、広い水田地域である。

根岸西遺跡は、JR常磐線常陸多賀駅から西に1.5km、多賀山地東端の太平洋に面する桜川と大川に挟まれた標高69~80mの舌状の台地上に立地している。遺跡の北側と南側には、谷津が入り込んでいる。今回の調査区域は、台地の斜面部にあたり、現況は山林及び荒地である。

### 第2節 歴史的環境

当遺跡の所在する多賀山地東麓の台地から海岸台地にかけて、旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く所在している。ここでは、当遺跡周辺の主な遺跡について述べる。

旧石器時代の遺跡は、鹿野場遺跡<sup>1)</sup>〈22〉、大沼遺跡<sup>2)</sup>〈13〉、泉前遺跡<sup>3)</sup>〈14〉、宮脇A遺跡<sup>4)</sup>〈15〉、六ツヶ塚遺跡<sup>5)</sup>〈16〉などの調査例がある。鹿野場遺跡では、砾器、搔器、石刃、六ツヶ塚遺跡ではナイフ形石器、搔器などの遺物が出土している。

縄文時代の遺跡は、多賀山地東麓の台地及び山沿いの地域に多く所在している。草創期の遺跡としては、西大塚遺跡<sup>6)</sup>〈19〉などがあり、有舌頭器が発見されている<sup>7)</sup>。しかし、この時期の住居跡は全国的にみても発見例はきわめて少なく、市域でもまだ見つかっていない。早期の遺跡は、台地の上だけではなく、山の尾根上の平らなところからも確認されている。しかし、確認されている遺跡の数は少なく、鹿野場遺跡から鶴ヶ島台式～茅山式期の住居跡が確認されている程度である。前期になると、泉原遺跡<sup>8)</sup>〈12〉前原遺跡<sup>9)</sup>〈23〉のように、台地上に規模の大きな集落も形成されるようになった。泉原貝塚<sup>10)</sup>〈11〉の調査により、海水の砂泥底にすむハマグリ、アサリ、サルボウのほか、海水と淡水が入り混じる汽水域の砂泥底にすむヤマトシジミなどの貝殻が出土している。これらの貝の生息環境から、干潮の時、この入り江に干潟が出現したものと考えられる。中期に入ると、遺跡数が増加し、諏訪遺跡<sup>11)</sup>〈7〉、南高野貝塚<sup>12)</sup>〈17〉、上の内遺跡<sup>13)</sup>〈8〉など、調査例が多くなる。諏訪遺跡からは、多数のラスコ状土坑が検出され、阿玉台式や大木7b式などの土器とともに、石器や炭化したクルミなどが出土している。南高野貝塚からは、中～後期の土器のほか、骨角器や赤色顔料が発

布された貝輪などが出土している。上の内遺跡からは、緩傾斜面の調査区から住居跡129軒、土坑1,496基が確認されている。集落が形成された時期は、繩文中期後半（加曾利E1式期）から後期前半（堀之内2式期）である。以上のように、広い台地上に規模の大きな集落が営まれたことがわかる。このことは、この時期、生活が安定し定住生活が可能になったことを示すものと考えられる。遺跡数は、前期・中期と増えてきたが、後期後半から減りはじめ、晩期になると激減している。日立市内で見つかっている晩期の遺跡には、上の内遺跡などがある。

この他、隣接する遺跡としては岸根遺跡（2）、中丸遺跡（3）、十王堂遺跡（4）、宮の後遺跡<sup>13</sup>（5）、堀之内遺跡（6）がある。当遺跡より、北東250mの十王堂遺跡からは、ストーンサークル（環状列石）ではないかと推定される遺構が発見されている<sup>14</sup>。付近からは、堀之内式や加曾利B式などに属する土器が出土していることから、後期の遺跡ではないかと推定されている。さらに北西500mに位置している中丸遺跡は、調査が一部行われたが、早期及び弥生時代の遺物を確認するだけで、遺構を検出することはできなかった。

弥生時代の遺跡は、海岸台地上に点在しているが、その数は少ない。大沼遺跡から、中期の弥生土器が出土している。遺構は伴わず数点の破片が出土しているだけであるが、県内の弥生土器では最古のものに属する土器であるといわれている。

古墳時代の遺跡として、多数の古墳や横穴が確認されている。その多くは、海岸線に沿った地域に並ぶように分布している。古墳は、6世紀中葉の馬具が出土した西大塚古墳群<sup>15</sup>（18）などの調査例がある。横穴は、赤羽横穴墓群<sup>16</sup>（20）、千福寺下横穴墓群<sup>17</sup>（21）などの調査例がある。

奈良・平安時代の遺跡では、泉前遺跡があり、奈良時代の集落跡が確認されている。諏訪遺跡では、平安時代の住居跡が検出され、土師器の壺に「満」・「□家」・「具」と墨書きされたものが見られる。また、当遺跡の周辺には、窯跡が2か所確認されており、成沢窯跡（9）は須恵器窯跡、石内窯跡（10）は瓦窯跡であることが知られている。当時の日立地方は、久慈郡（高月郷、助川郷、高市郷）及び多珂郡（道口郷、伴部郷）に属し、9世紀初頭まで活発に行われていた蝦夷征討の交通路として重要な役割を担っていたものと思われる<sup>18</sup>。根岸西遺跡は、高月郷の西部に位置していると考えられる。

\*文中の（ ）内の番号は、第1図及び周辺遺跡一覧表の該当番号と同じである。

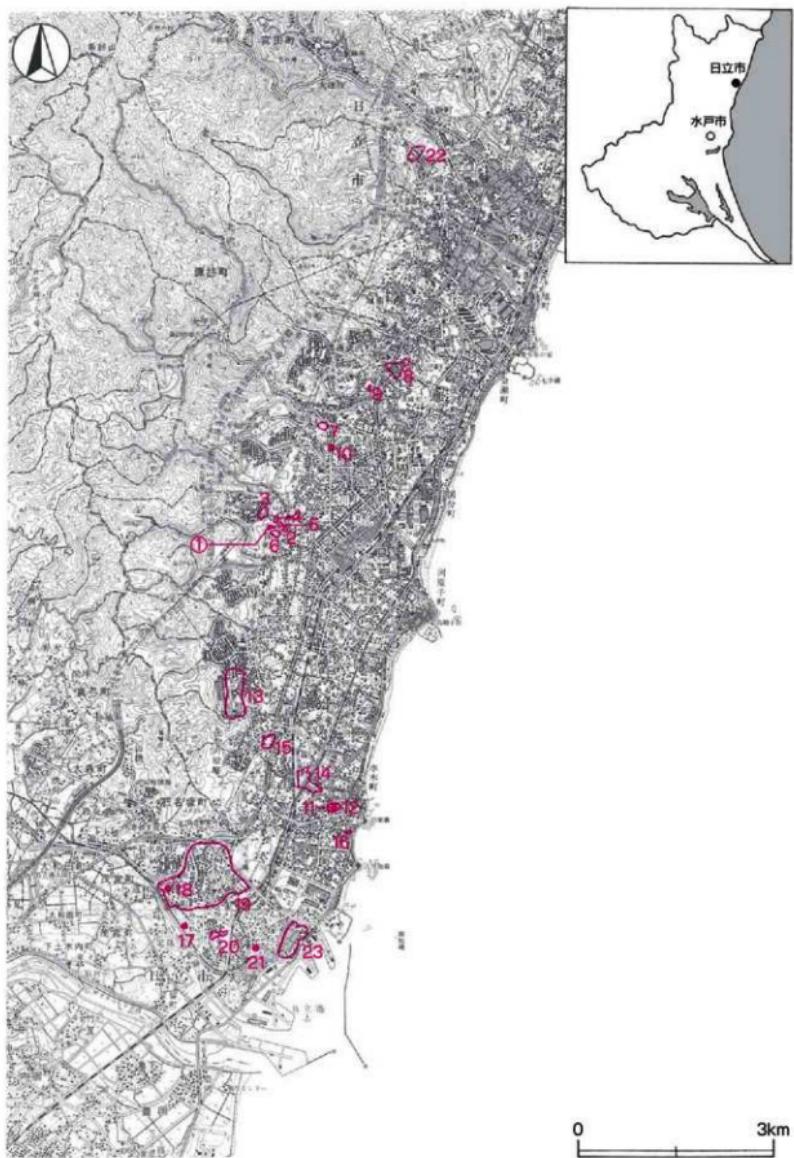
#### 註

- 1) 施志村育男ほか「日立市鹿野場遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第6集 日立市教育委員会 1979年3月
- 2) 川崎志郎ほか「日立市大沼遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第3集 日立市教育委員会 1978年12月
- 3) 住谷久江「泉前遺跡（二次）」「日立市文化財調査報告」第12集 日立市教育委員会 1982年11月
- 4) 荒井英樹・松田政基「日立市宮脇A遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第47集 日立市教育委員会 1997年3月
- 5) 鎌野 孝・横山裕平ほか「日立市六ツヶ塚遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第4集 日立市教育委員会 1978年3月
- 6) 日立市史編さん委員会「新修 日立市史 上巻」 日立市 1994年9月
- 7) 小川和博・鍛治文博「泉原遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第52集 日立市教育委員会 1999年3月
- 8) 大平達男・佐藤政則「泉原貝塚発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第45集 日立市教育委員会 1998年3月
- 9) 鈴木裕芳ほか「諏訪遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第7集 日立市教育委員会 1980年3月
- 10) 鈴木裕芳「南高野貝塚」「茨城県史料 考古資料編 先土器縄文時代」茨城県 昭和1974年
- 11) 松田政基・湯原勝美「上の内遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第46集 日立市教育委員会 1998年3月
- 12) 小川和博「上の内遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第61集 日立市教育委員会 2002年3月

- 13) 日立市教育委員会「宮の後遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第48集 日立市教育委員会 2001年3月  
 14) 谷瀬義彦「郷土ひたち 刨刊号」1960年  
 15) 大塚初重「西大塚古墳群」「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」茨城県 昭和1974年  
 16) 佐藤政則ほか「日立市赤羽横穴墓群発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第2集 日立市教育委員会 1977年10月  
 17) 佐藤政則ほか「久慈千福寺下横穴墓群」「日立市文化財調査報告」第14集 日立市教育委員会 1985年

表1 横岸西遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈世	中世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈世	中世
①	根岸西遺跡	○			○			13	大沼遺跡	○	○	○		○	
2	根岸遺跡	○						14	泉前遺跡	○	○	○	○	○	
3	中丸遺跡	○	○					15	宮脇A遺跡	○	○			○	
4	十王堂遺跡	○		○				16	六ツヶ塚遺跡	○					
5	宮の後遺跡	○		○				17	南高野貝塚		○				
6	堀内遺跡	○		○				18	西大塚古墳群				○		
7	諏訪遺跡	○		○				19	西大塚遺跡	○		○	○		
8	上の内遺跡	○	○					20	赤羽横穴墓群				○		
9	成沢窯跡			○				21	千福寺下横穴墓群				○	○	
10	石内窯跡			○				22	鹿野場遺跡	○	○			○	
11	泉原貝塚	○		○				23	前原遺跡	○			○	○	
12	泉原遺跡	○	○	○											



第1図 根岸西遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院「ひたち」1：50,000）



第2図 根岸西遺跡調査区設定図

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

根岸西遺跡は、日立市の南西部に位置し、阿武隈山系の南端の標高69~80mの台地斜面部に立地している。調査対象面積は3,700m<sup>2</sup>であり、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。

今回の調査で確認された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡13軒、土坑28基、平安時代の竪穴住居跡7軒、土坑2基、時期不明の竪穴住居跡2軒、土坑92基、溝8条、不明遺構1基が確認された。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に30箱出土しており、遺物の大半は縄文時代のものである。主な遺物は、竪穴住居跡から出土した縄文土器(鉢・深鉢・浅鉢・注口土器)、土師器(壺・椀・高台付椀・甕)、土製品(土鍤)、石器・石製品(石礫・磨石・砥石・凹石・石皿・敲石・石斧・石鍤・剥片)などである。

### 第2節 基本層序

調査区南側の西部(D2d1区)にテストピットを設定し、深さ1.5mまで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層は10層に分層された。土層の観察結果は以下の通りである。

第1層は暗褐色を呈する耕作土層で、層厚は23~49cmである。

第2層は黒色の表土層で、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を微量含んでいる。層厚は5~22cmである。

第3層は褐色のソフトローム層で、ロームブロックを少量含み、炭化物を微量含んでいる。層厚は5~30cmである。

第4層は褐色のハードローム層で、ローム粒子を中量含み、鹿沼バミスブロックを微量含む。粘性・締まりともに強く、層厚は12~20cmである。

第5層は明褐色のハードローム層で、ローム粒子を多量、砂粒・鹿沼バミスブロックを微量含む。締まりが強く、層厚は6~13cmである。

第6層は褐色で、第5層と第7層の中間的色彩のハードローム層で、ローム粒子・鉄分を含む粒子を微量含んでいる。締まりは強く、層厚は5~9cmである。

第7層は褐色のハードローム層で、ローム粒子を多量、鹿沼バミス粒子・鉄分を含むブロックを微量含んでいる。層厚は11~43cmである。

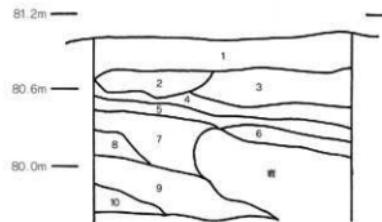
第8層は明褐色のハードローム層で、ローム粒子を多量、砂粒・鉄分を含む塊を微量含む。

粘性・締まりとも極めて強く、層厚は5~25cmである。

第9層は黄橙色の粘土層で、白色粘土・砂粒を微量含む。層厚は5~37cmである。

第10層は明赤褐色で、粘性はほとんどなく、締まりは強い。層厚は8~26cmである。

遺構は、第2・3層上面で確認できた。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

確認された遺構は、竪穴住居跡13軒、土坑28基である。これらの遺構は、標高69~79mの台地斜面部に位置しており、時期は中期後半から後期前半にわたっている。以下、それぞれの遺構と遺物について記述する。ただし、土坑については、遺構の残存状況や遺物の出土状況が良好なものについて解説を加え、それ以外のものは実測図と一覧表で示す。

##### (1) 竪穴住居跡

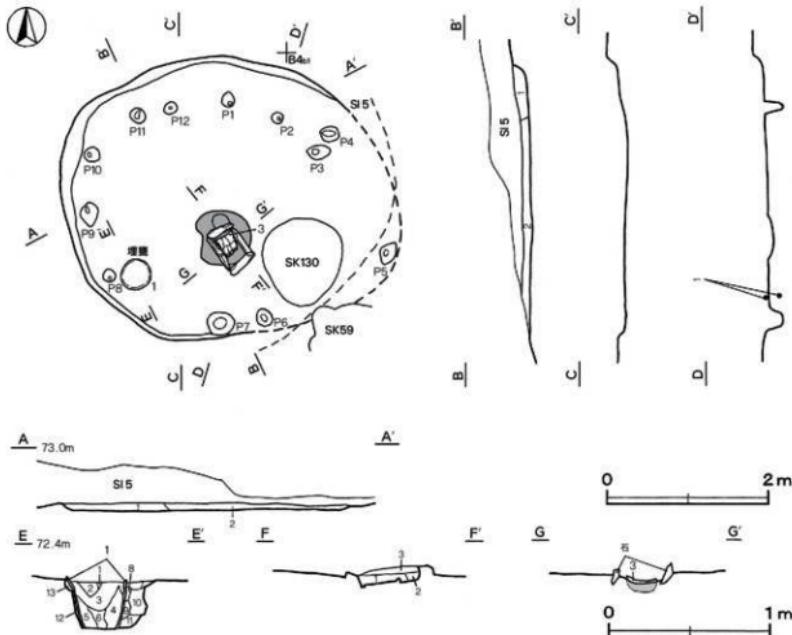
###### 第1号住居跡（第4~8図）

位置 調査区北部のB3 b0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第19号住居跡を掘り込み、第5号住居、第59・130号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.35m、短径3.55mの楕円形と推定され、主軸方向はN-65°-Wである。壁高は最大21cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

床 ほぼ平坦であり、締まりがなく軟弱である。



第4図 第1号住居跡実測図

**炉** 中央部の南寄りに位置し、長軸58cm、短軸38cmの長方形で、石圓炉である。炉の長軸方向はN-32°Wである。構造は、長さ15~44cmの扁平な砂質変岩の中疊を四方向から垂直に立てて組み、その間に細縦を内側から充填し補強している。また炉床には深鉢が横位に埋設されている。掘り方は長径72cm、短径70cmの円形で、床面を12cmほど皿状に掘りくぼめている。

#### 炉土層解説

1 黑褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	3 黑褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	ロームブロック微量		

**ピット** 12か所。深さ10~37cmで、規模や配置から柱穴と考えられる。

**覆土** 2層からなり、ロームブロックや炭化粒子を含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黑褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	2 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
-------	------------------	--------	----------------

**遺物出土状況** 繩文土器片1,162点（口縁部69、胴部1,072、底部21）、石器1点（凹石）が、床面や覆土下層にかけて出土している。3は石圓炉の火床から横位で出土している。2・4・5、TP 1~5はいずれも覆土中から出土している。

**埋甕** 1の深鉢は南西部の壁際から出土した埋甕である。口縁部と底部を打ち欠き、胴部のみ埋設してある。埋甕内の土層は6層、埋甕外の土層は7層である。土層はともにロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

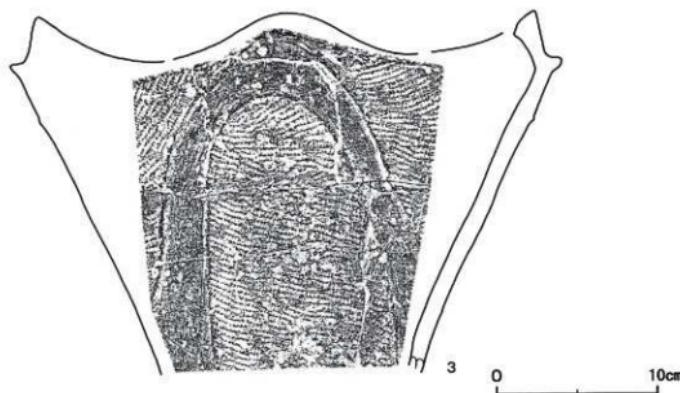
#### 埋甕内土層解説

1 黑色	ロームブロック・焼土粒子微量	4 黒色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	5 黒色	ローム粒子少量
3 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	6 黒色	ローム粒子・焼土粒子微量

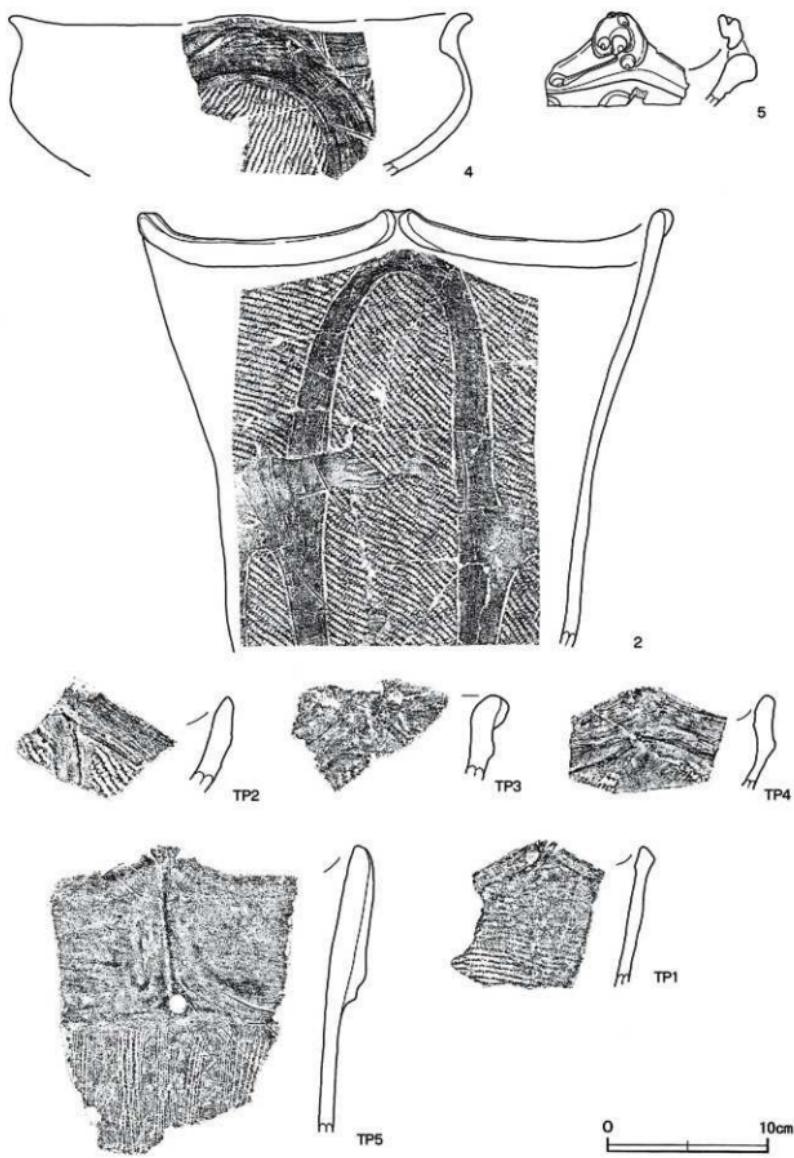
#### 埋甕外土層解説

7 黑褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 黑色	ローム粒子中量
8 黒色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12 黒色	ロームブロック微量
9 黒色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 黒色	ロームブロック少量
10 黒色	ローム粒子微量		

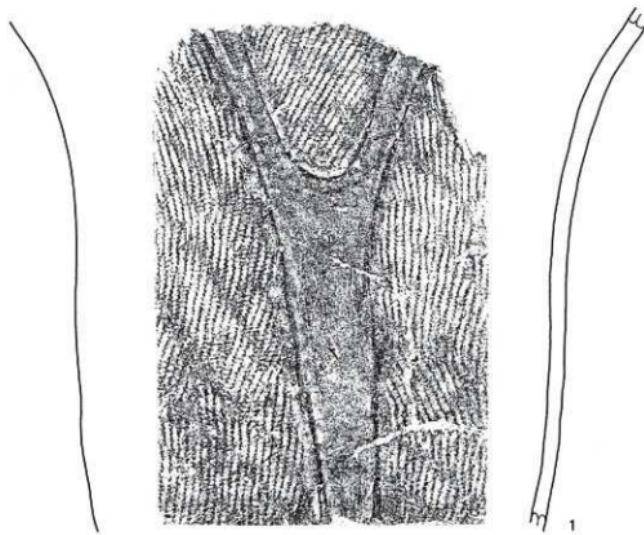
**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



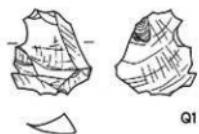
第5図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



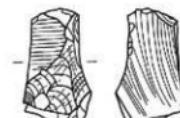
第6図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)



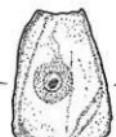
1



Q1

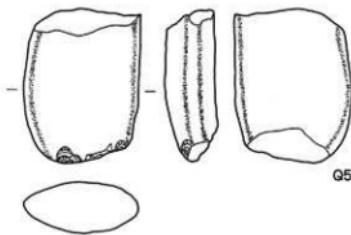


Q2

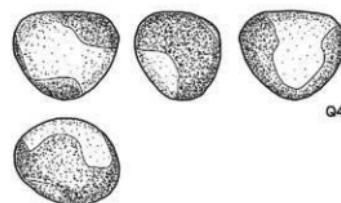


Q3

0 2cm



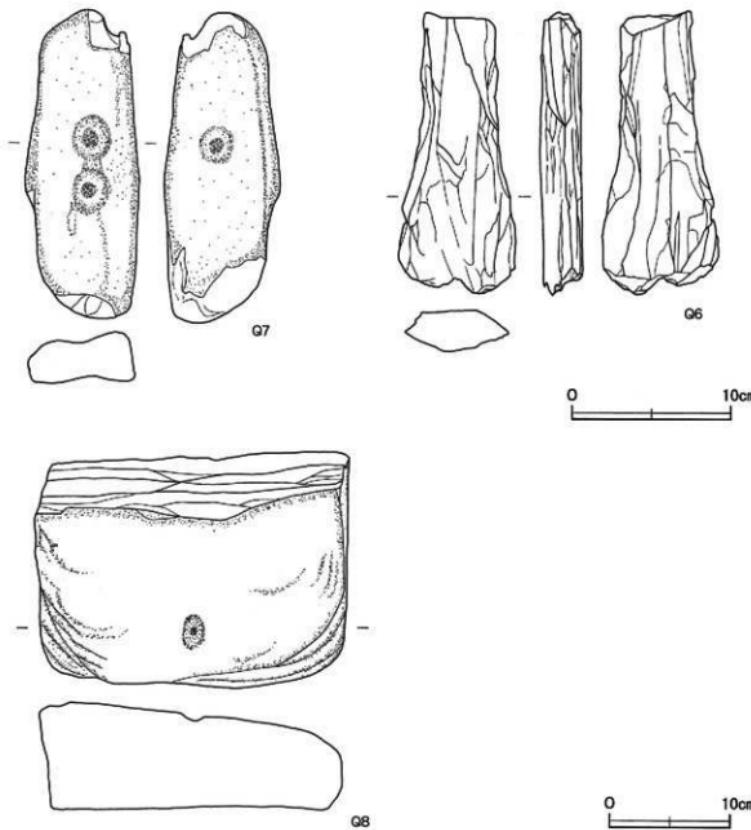
Q5



Q4

0 10cm

第7図 第1号住居跡出土遺物実測図(3)



第8図 第1号住居跡出土遺物実測図(4)

第1号住居跡出土遺物観察表（第5～8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考
									内面	外側		
1	繩文土器	深鉢	—	(32.4)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部及び底部は欠損。剥離部は、逆U字状の微隆起線により無文部と繩文部を区画。地文にLRの單綱文を施している。	床下	30% PL.9 埋甃	
2	繩文土器	深鉢	[31.9]	(27.3)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部は小波状口縁を呈し、波頭部は双頭となる。口縁部は幅狭の無文帶を形成している。文様は沈綱により抽出し、波頭部を起点とする逆U字状文とU字状文を入り組ませている。区画内には、RLの單綱文を施している。	覆土中	40% PL.9	
3	繩文土器	深鉢	[30.4]	(22.1)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部は隆起带を伴う無文帶。波頭部から突起を伴う逆U字状の隆起綫で文様を構成。地文にLRの單綱文を施している。口縁部及び内面は、火熱を受け器面が渦巻している。	炉内	5%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
4	縄文土器	深鉢	[27.9]	(100)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	胴部は内壁で立ち上がり、口唇部は丸味を持って肥厚する。波頂部から逆U字状の微隆起縦で文様を構成。地文にRLの單節縄文を施している。	覆土中	10%
5	縄文土器	深鉢	—	(37)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	波状口縁部に円形斜突文と沈線を施している。	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP1	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母・輝	にぶい橙	普通	波状口縁を有し、胴部にRLの單節縄文を施している。	覆土中	
TP2	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	波状口縁を有し、平行する微隆帯で文様を区画し、RLの單節縄文を地文としている。	覆土中	
TP3	縄文土器	深鉢	石英・長石	にぶい橙	普通	小波状口縁を呈し、波頂部は反頭となる。曲線の隆帯で区画し縄文を施している。	覆土中	PL12
TP4	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部に無文帶を有し、地文に縄文を施す。崩滅により調整不明。	覆土中	
TP5	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母・輝	明褐	普通	波頂部より逆T字型に隆帯を貼付。交点には押印文を施し、下部は圓筒条文を施している。	覆土中	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q1	洞 片	1.8	1.6	0.4	0.67	黑曜石	不定船の洞片を素材としている 表面は多方向からの剥離痕からなる	覆土中	PL14
Q2	石 核	2.5	1.4	0.9	3.36	黑曜石	正面両側に理面を有している。両面には微細な剥離が見られる上下及び裏面にも剥離が認められる	覆土中	PL14
Q3	凹 石	8.4	6.2	1.2	85.7	綠色片岩	表面に1か所穿孔	覆土中	PL16
Q4	磨 石	5.5	6.6	2.4	20.80	砂岩	一面を研磨面に使用	覆土中	PL16
Q5	磨製石斧	9.5	7.2	3.2	354.0	綠色片岩	大半削損 下端に敲打痕	覆土中	PL15
Q6	打製石斧	17.6	7.4	2.7	407.0	千枚岩	下端に敲打痕	覆土中	PL15
Q7	凹 石	19.2	7.3	3.2	605.0	綠色片岩	表面に2か所、裏面に1か所穿孔	覆土中	PL16
Q8	凹 石	19.8	26.2	8.9	8,630.0	綠色片岩	表面に1か所穿孔	覆土中	

## 第2号住居跡（第9図）

位置 調査区北部のB4c2区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径4.95m、短径4.65mの円形と推定され、主軸方向はN-0°である。壁高は最大で40cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認できなかった。

床 東に緩やかに傾斜している。締まりがなく軟弱である。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径30cm、短径20cmの梢円形を呈し、床面を皿状に掘りくぼめて炉床とした地床炉である。

ピット 6か所。深さ8~23cmで、規模及び配置から柱穴と考えられる。

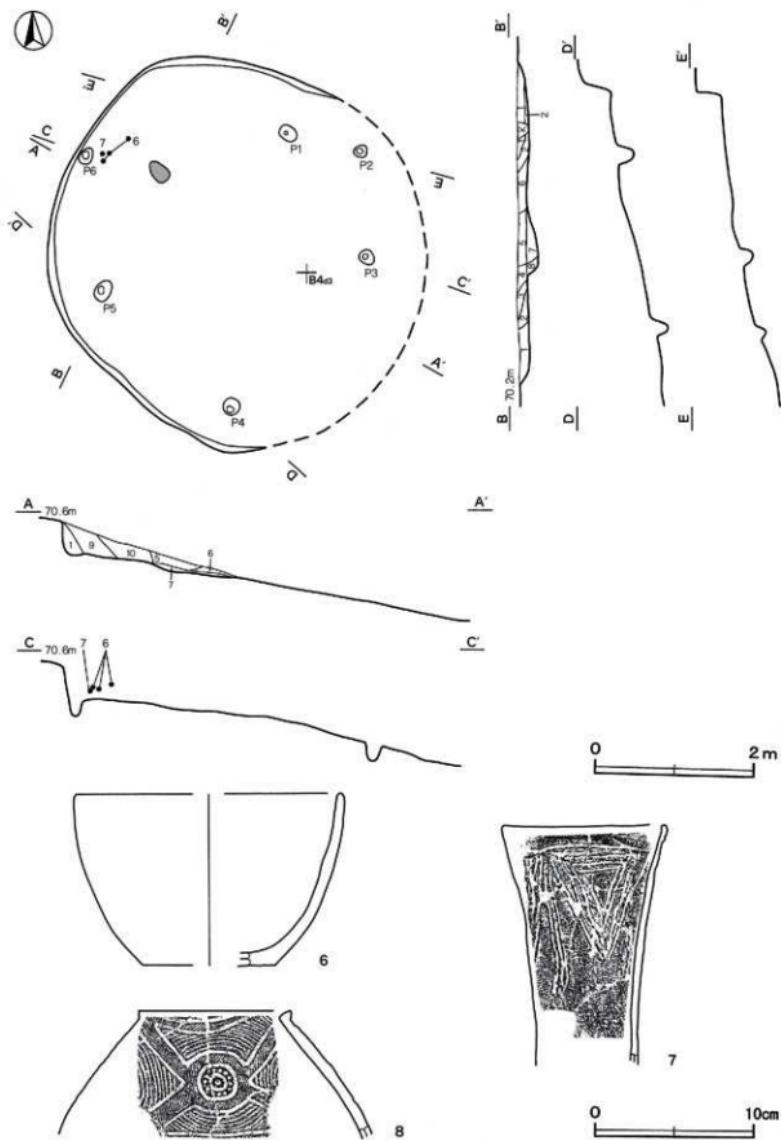
覆土 10層からなり、ロームブロック及び焼土の不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

### 土層解説

1 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 黑 褐 色	燒土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 黑 褐 色	ロームブロック微量	7 楊 茶 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黑 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 嫩 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
4 黑 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 黑 褐 色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
5 黑 褐 色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 黑 褐 色	燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片132点（口縁部9、胴部120、底部3）が出土している。6は口縁部から底部にかけての破片、7は口縁部から胴部にかけての破片で、北西部の覆土中層、8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第9図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第9図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
6	縄文土器	浅鉢	[164]	10.8	[8.4]	石英・長石・ 雲母	浅黄褐	普通	胴部は無文である。	中層	40% PL9
7	縄文土器	深鉢	10.2	(15.0)	—	石英・長石・ 赤色粒子	褐灰	普通	口縁部は垂直に立ち上がり、外側には沈線を巡らしている。胴部の文様は、沈線で隔てられ、逆三角形をモチーフに、五角形から成っている。縁の沈線と、列点記によって区画を分けている。地文には縄文が彫文されている。	中層	40% PL9
8	縄文土器	浅鉢	[9.6]	(8.1)	—	石英・長石・雲 母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部は外傾している。胴部は、沈線で区画し、区画内を沈線と縄文で充填している。	覆土中	10%

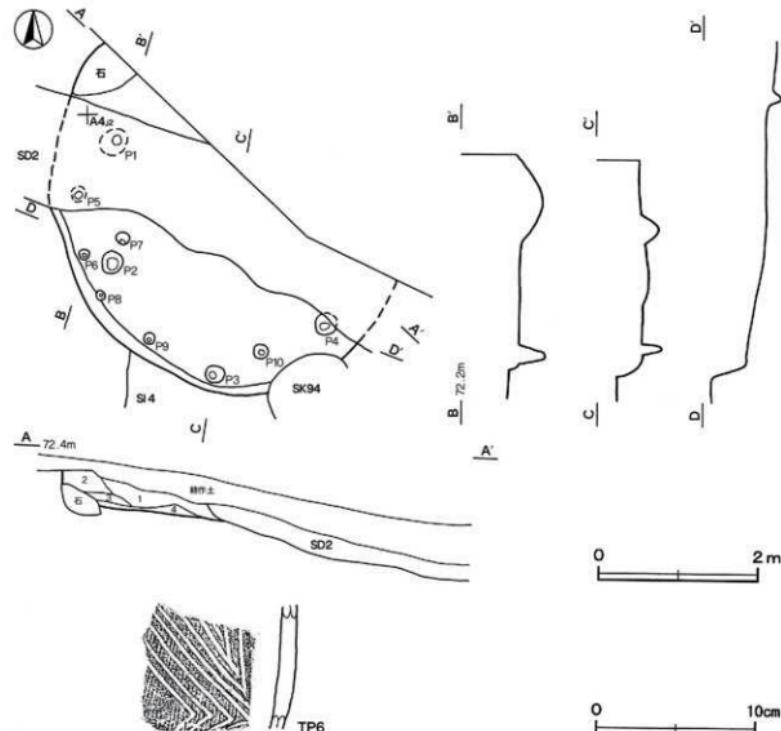
第3号住居跡（第10図）

位置 調査区北部のA 4 j2区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み、第94号土坑、第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びている。確認された範囲は長径4.80m、短径2.60mの円形又は梢円形と推定され、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は最大45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが、東にやや傾斜している。縞まりがなく軟弱である。



第10図 第3号住居跡・出土遺物実測図

**ピット** 10か所。深さ17~43cmで、その規模や配置から柱穴と考えられる。

**覆土** 4層からなり。ロームブロック及び焼土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック微量	3 黒褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 糙文土器片30点（口縁部3、胴部26、底部1）が出土している。TP 6は北西部寄りの覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 6	糙文土器	深鉢	石英・長石・雲母	灰褐色	普通	地文にRLの単節繩文を施し、直・曲線の沈継で文様を描出している。	覆土中	PL12

**第4号住居跡（第11図）**

**位置** 調査区北部のB 4 a2区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第3号住居、第94・109・137号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認された範囲は長径3.70m、短径3.40mの円形又は楕円形と推定され、主軸方向はN-72°-Wである。壁高は最大で6cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

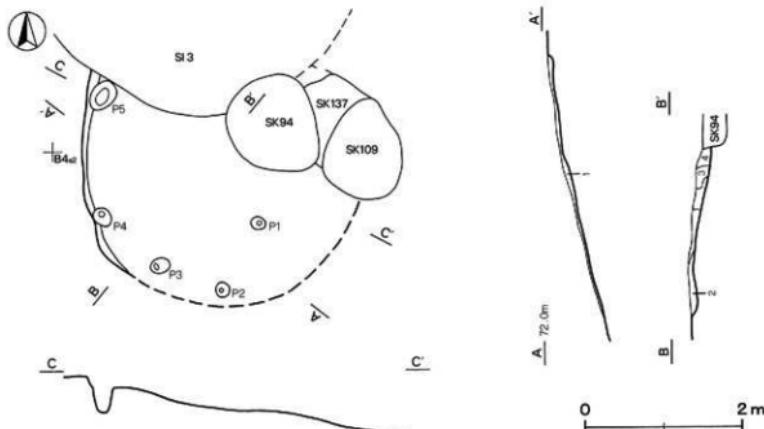
**床** 東にやや傾斜している。縮まりがなく軟弱である。

**ピット** 5か所。深さ16~31cmで、規模や配置から柱穴と考えられる。

**覆土** 4層からなり。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	3 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量



第11図 第4号住居跡実測図

遺物出土状況 繩文土器片26点（口縁部6、胴部20）が出土している。遺物はすべて細片である。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。

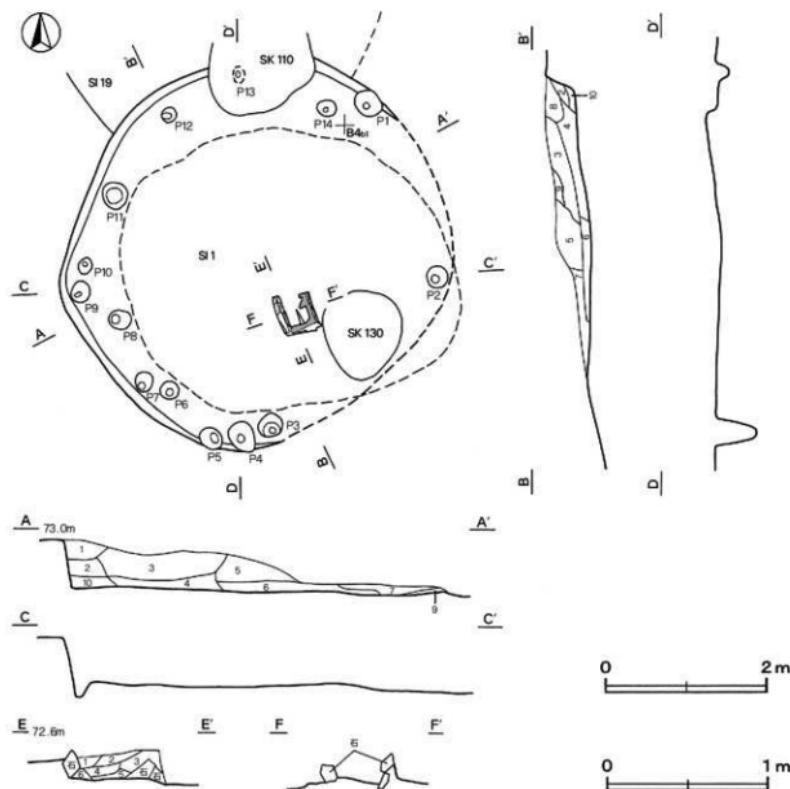
#### 第5号住居跡（第12・13図）

位置 調査区北部のB3b0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第1・19号住居跡を掘り込み、第110・130号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認された範囲は長径4.70m、短径4.51mの円形と推定され、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は最大32cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

床 中央部から東側に、緩やかに傾斜している。締まりがなく軟弱である。



第12図 第5号住居跡実測図

**炉** 南東寄りに位置し、床面を14cm掘りくぼめている。40~47cmの自然石をコの字型に組み、北西側に口を開けた状態の石壠炉である。炉石には、火熱を受けた根痕が確認できる。

#### 炉土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5 極暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**ピット** 14か所。深さ8~23cmで、規模や配置から柱穴と考えられる。

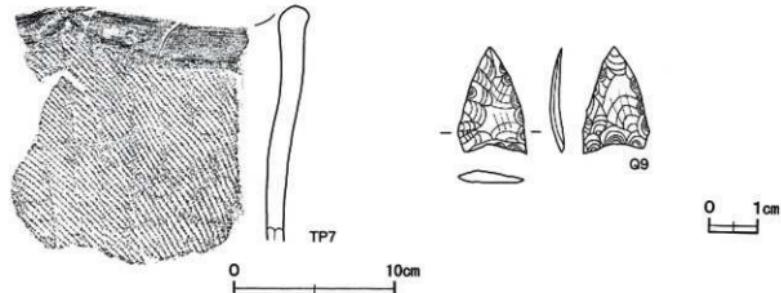
**覆土** 10層からなり、ロームブロックや焼土を含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	9 暗褐色	焼土ブロック少量。ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 檻文土器片24点（口縁部4、胴部16、底部4）、石器1（石鎚）が出土している。TP7、Q9はいずれも北東部の壁際の覆土中から出土している。

**所見** 炉は、第1号住居跡の約1/4の真上から検出された。第1号住居跡の建て替えとして第5号住居が建てられた可能性が考えられる。時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP7	柵文土器	深鉢	石英・長石・赤色粒子	明赤褐色	普通		口縁部に陰帶を這わし、無文帯を構成。地文にRLの単筋柵文を施文している。	覆土中	10% PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q9	石鎚	22	14	0.3	0.73	馬鹿	基部中央は済入	覆土中	PL14

#### 第7号住居跡（第14・15図）

**位置** 調査区北部のA30区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第8号住居、第1・2号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認された範囲は長径4.13m、短径3.65mの楕円形と推定され、主軸方向はN-38°Wである。壁高は最大で36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦であるが、東にやや傾斜している。締まりがなく軟弱である。

**炉** 中央部に位置し、長径48cm、短径44cmの円形で、床面を18cmほど皿状に掘りくぼめた地床炉である。また、炉の西側に火熱痕のある自然石が確認された。炉石として使用されたものと考えられる。

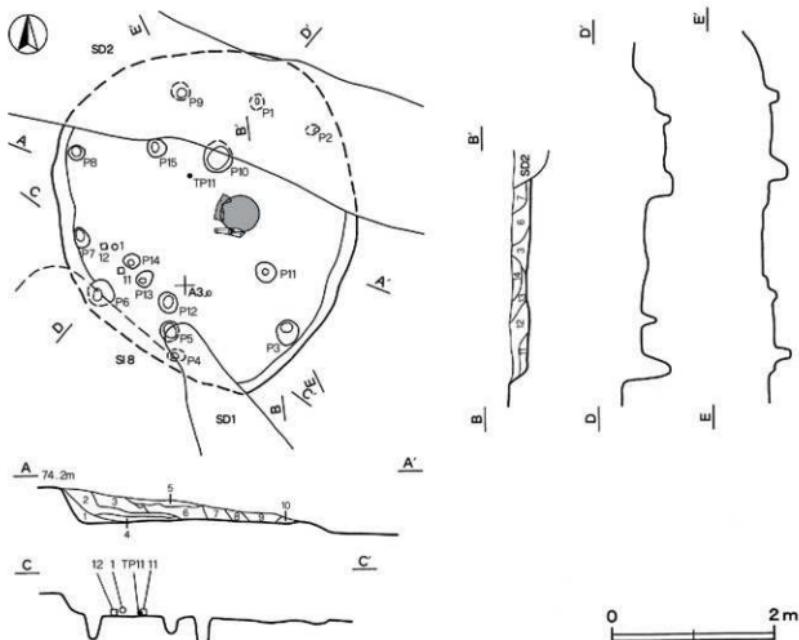
ビット 15か所。深さ12~37cmで、規模及び配置から柱穴と考えられる。

覆土 14層からなり、ロームブロック及び焼土を含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

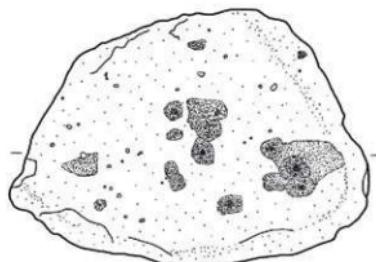
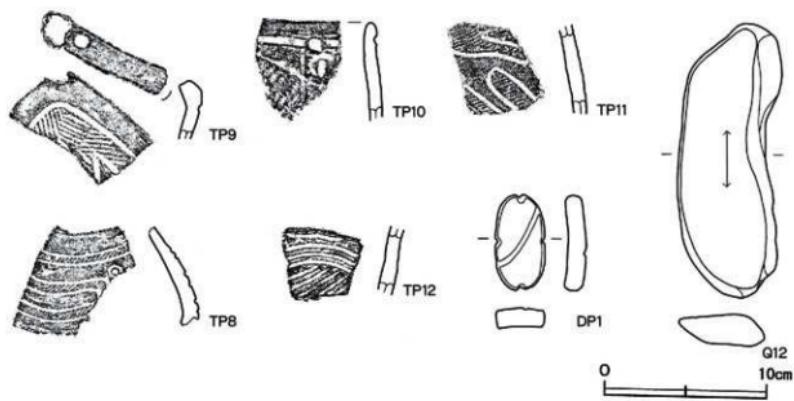
土層解説							
1	黒 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8	暗 色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		
2	黒 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗 色	ロームブロック・焼土粒子微量		
3	暗 暗 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗 色	ロームブロック・炭化粒子微量		
4	黒 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	暗 色	ロームブロック少量		
5	黒 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗 色	ローム粒子・炭化粒子微量		
6	黒 色	ロームブロック・炭化粒子微量	13	黑 暗 色	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		
7	黒 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量	14	黑 暗 色	ロームブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 純文土器片91点(口縁部6、胴部83、底部2)、石器2点(凹石、砥石)、土製品1点(土錐)が出土している。TP11は中央部の北寄りの床面、Q11・12、DP1は西部の覆土下層、TP8~10・I2は覆土中から出土している。

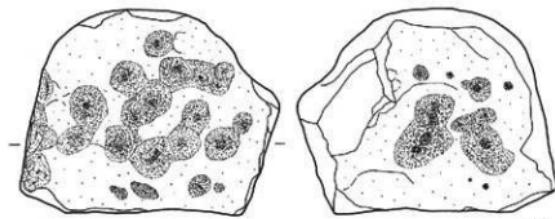
所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



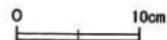
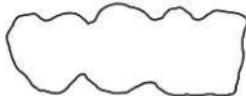
第14図 第7号住居跡実測図



Q10



Q11



第15図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP8	縄文土器	浅鉢	石英・長石・雲母	にぶい黄 橙	普通	地文にRLの單節繩文を施し、沈線で無文帯を区画している。無文帯には刺突文を施文している。	覆土中	PL12
TP9	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に刺突文を施文する。口縁部は沈線で無文帯を区画し、地文にRLの單節繩文を施文している。	覆土中	PL12
TP10	縄文土器	深鉢	石英・長石	にぶい黄 橙	普通	口縁部に沈線を施し、刺突文と繩文を構成している。	覆土中	PL12
TP11	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	地文にRLの單節繩文を施文。曲線の沈線で無文帯を区画し、刺突文を施文と文様を構成している。	床面	
TP12	縄文土器	深鉢	石英・長石	にぶい褐	普通	地文にRLの單節繩文を施文し、曲線の沈線を描出している。	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DPI	土器片錠	59	30	1.3	26.2	土製	各辺部研磨 4方向研削による矧み	下層	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	門石	292	209	4.6	2890.0	角礫	表面に6か所穿孔	覆土中	PL16
Q11	門石	168	21.0	7.6	2850.0	砂質片岩	表面に18か所、裏面に12か所穿孔	下層	PL16
Q12	砥石	168	6.5	2.0	318.0	砂質片岩	底面1面	下層	PL16

## 第10号住居跡（第16図）

位置 調査区北部のB3a9区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第8・19号住居、第103・111・120号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.45m、短径3.85mの楕円形と推定され、主軸方向はN-44°-Eである。壁高は最大20cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認できなかった。

床 東に傾斜している。締まりがなく軟弱である。

炉 中央部に位置し、長軸84cm、短軸50cmの長方形で石開炉である。炉の長軸方向はN-46°-Wである。構造は長さ25~54cmの砂質変岩の中窓を、四方向から垂直に立てて組まれている。炉床は火熱を受けて赤変しているが、硬化は見られない。掘り方は長径87cm、短径64cmの楕円形で、床面を25cm皿状に掘りくぼめている。

## 炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量	5	暗褐色	燒上ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	6	黒褐色	燒上ブロック・ローム粒子微量
3	暗褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子微量	7	暗褐色	燒土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック微量			

ピット 9か所。深さ15~20cmで、配置や規模から柱穴と考えられる。

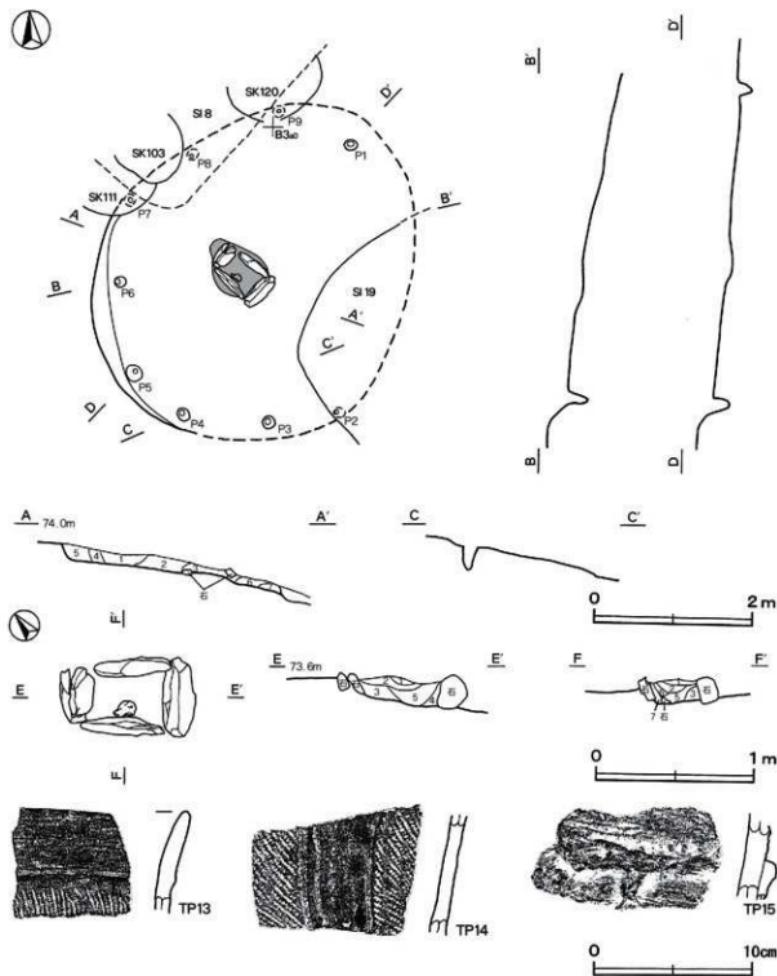
覆土 7層からなり。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	5	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片105点（口縁部8、胴部93、底部4）が出土している。TP13~15は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第16図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP13	繩文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に微隆帯を這らし、無文帯を有する。下部にRLの単節繩文を施文している。	覆土中	
TP14	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	地文にRLの単節繩文を施文し、微隆帯によって無文帯を区画している。	覆土中	
TP15	繩文土器	深鉢	石英・長石・塵	橙	普通	縦帶をT字状に貼り付けている。	覆土中	PL12

### 第11号住居跡（第17・18図）

**位置** 調査区南部のD 2 g1区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第91号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径4.35m、短径3.97mの円形と推定され、主軸方向はN-34°-Wである。壁高は最大35cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

**床** 平坦であるが、東方向にやや傾斜している。締まりがなく軟弱である。

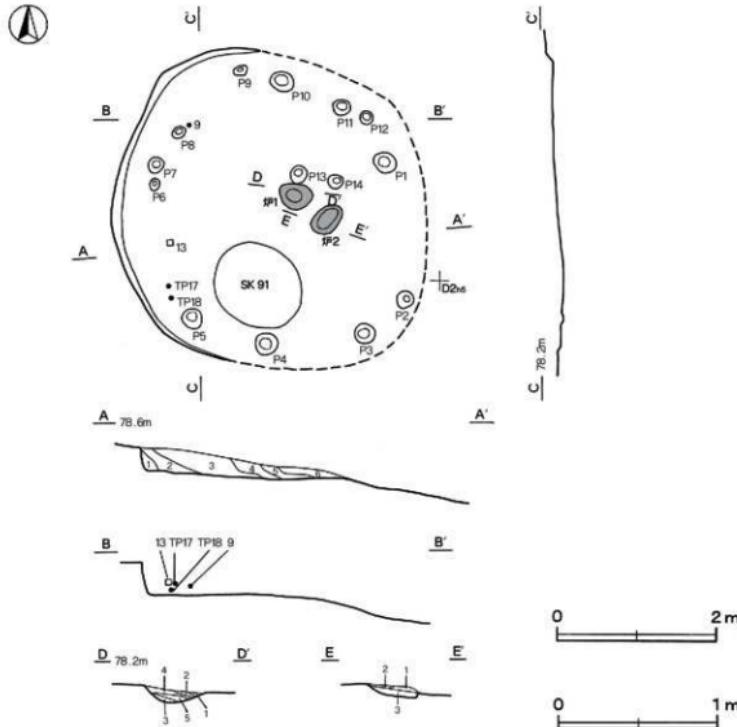
**炉** 2か所。炉1は中央部に位置し、長径44cm、短径30cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は東寄りに位置し、長径42cm、短径34cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。いずれも炉床は、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉1 土層解説

1 暗赤褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量	4 暗赤褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	燒土ブロック、炭化粒子微量	5 黒褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗赤褐色	燒土ブロック微量		

#### 炉2 土層解説

1 桐暗赤褐色	燒土ブロック微量	3 暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	燒土粒子少量、ロームブロック微量		



第17図 第11号住居跡実測図

ピット 14か所。深さ10~28cmで、その配置や規模から柱穴と考えられる。

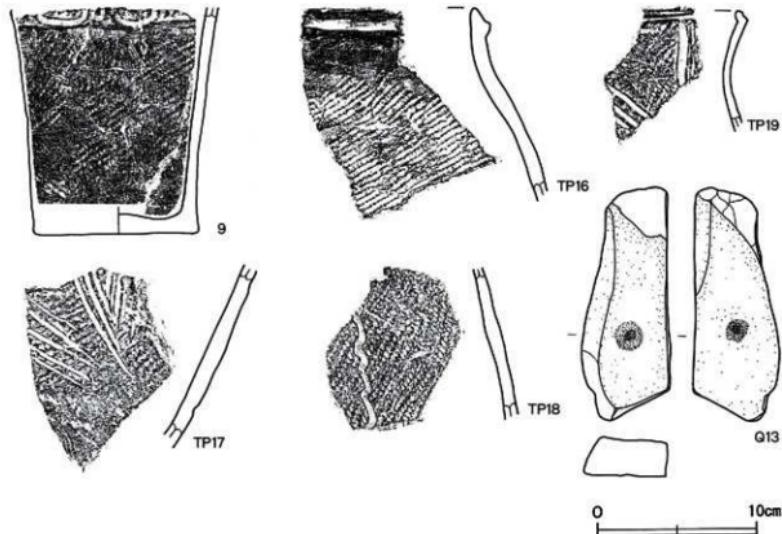
覆土 6層からなり。ロームブロックや焼土を含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	5 極暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム中ブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 繩文土器片58点(口縁部7、胴部48、底部3)。石器1点(凹石)が出土している。遺物の多くは西部の覆土中層から出土している。9は北西部、TP17、Q13は南西部の覆土中層、TP18は南西部の覆土下層、TP16・19は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第18図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
9	繩文土器	深鉢	—	(140)	103	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	胴部中央に微隆帯を這らす。上位は沈線で文様を構成し、下位は地文に繩文を施している。	中層	20% PL9

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP16	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい黄 橙	普通	口縁部は垂直に立ち上がり、浅い沈線を施す。口縁部は繩文を施り消して無文帯にし、地文にRLの単節繩文を施文している。	覆土中	PL12
TP17	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	橙	普通	地文に繩文を施し、沈線で文様を構成している。	中層	PL12
TP18	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄 橙	普通	地文にRLの単節繩文を施し、継続の波状沈線を描出している。	下層	PL12
TP19	繩文土器	深鉢	長石・雲母・砂粒	黒褐	普通	口縁部は内傾し、沈線を這らしている。地文に繩文を施し、沈線を描出。	覆土中	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	微	出土位置	備考
Q13	円 石	145	56	2.5	304.0	緑色片岩	表面に1か所、裏面に1か所穿孔		中層	PL17

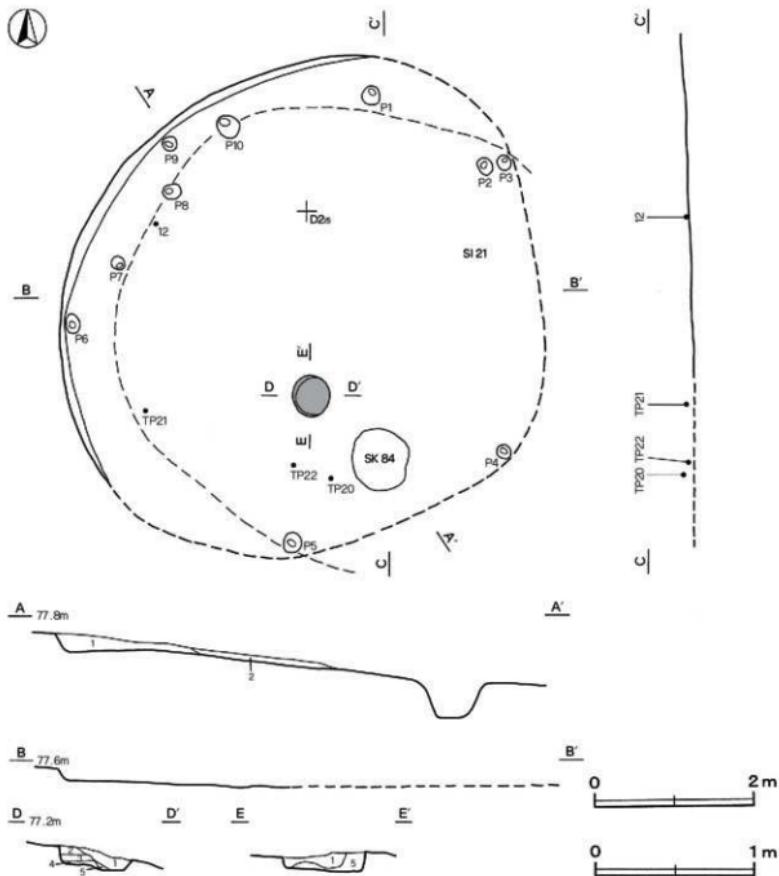
### 第12号住居跡（第19・20図）

位置 調査区南部のD25区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込み、第84号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径6.50m、短径6.00mの円形と推定され、主軸方向はN-17°Wである。壁高は最大22cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかつた。

床 平坦であるが、東にやや傾斜する。縫まりがなく軟弱である。



第19図 第12号住居跡実測図

**炉** 南寄りに位置し、長径52cm、短径45cmの楕円形で、床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉である。

**炉土層解説**

- |        |               |         |               |
|--------|---------------|---------|---------------|
| 1 暗赤褐色 | 燒土ブロック少量      | 4 極暗赤褐色 | 燒土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 燒土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色  | 燒土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 黒褐色  | 燒土ブロック・炭化粒子微量 |         |               |

**ピット** 10か所。深さ3~38cmで、規模や配置から柱穴と考えられる。

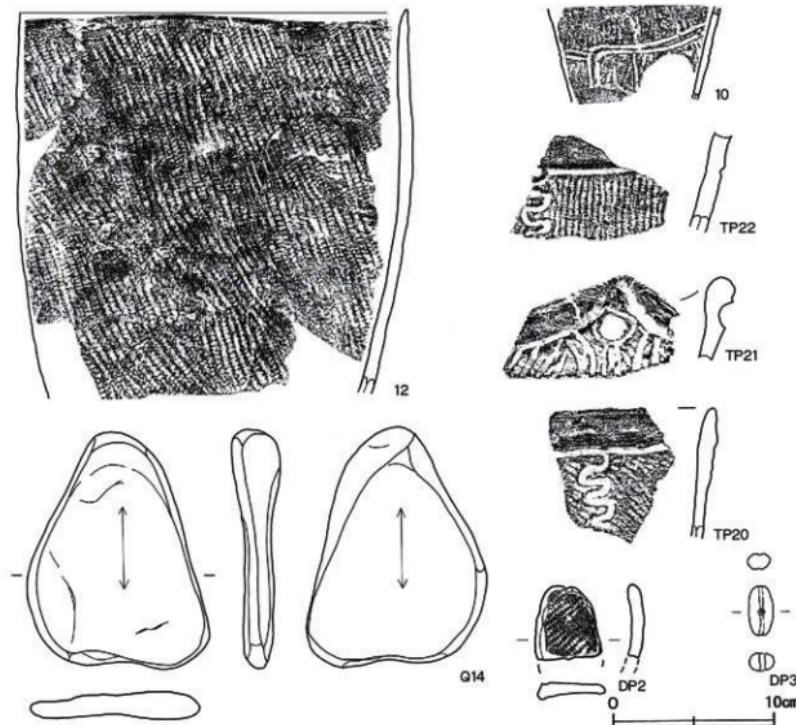
**覆土** 2層からなり。ロームブロックの堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |        |                |       |                      |
|--------|----------------|-------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量 |
|--------|----------------|-------|----------------------|

**遺物出土状況** 糸文土器片111点(口縁部20、胴部89、底部2)、石器1点(砥石)、土製品2点(土器片鉢・有孔土鉢)が出土している。12は北西部、TP22は南部の床面、TP20は南部、TP21は西部の覆土下層、10、DP2・3は覆土中から出土している。

**所見** 炉は、第21号住居跡の真上から検出された。第21号住居跡の建て替えとして第12号住居が建てられた可能性が考えられる。時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第20図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	地文に横文を施す。縦・横に沈線2本を施し、区画内外の横文を崩り消している。	覆土中	5% PL9
12	縄文土器	深鉢	24.0	(23.9)	—	石英・長石・雲母	褐	普通	地文にL.Rの単線縦文を施文している。	床面	80% PL10

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に沈線を混らせ、無文帶を形成している。胴部は縦文を地文とし、縦位の波状沈線文を描出している。	下層	PL12
TP21	縄文土器	深鉢	石英・長石	灰褐	普通	波状口縁の底面部に押圧文を施文し、その周囲に沈線を混らす。底面部より沈線を施し、無文帶を形成する。胴部は幾本もの沈線で文様を構成している。	下層	PL12
TP22	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部に沈線と沈紋を混らせ、無文帶を形成している。沈線の下位にはRLの単線縦文を地文とし、縦位の波状沈線を施文している。	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	土器片跡	(4.7)	4.2	1.2	220	土製	各辺部研磨 半分が破損のため端部研磨による削みを確認 表面にはRLの単線縦文を施文	覆土中	PL14
DP3	有孔土器	3.1	1.5	1.1	476	土製	長軸方向に溝を混らし、中央部を穿孔	覆土中	PL14

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	砾 石	15.0	11.3	3.0	478.0	砂岩	平面2面	覆土中	PL16

## 第15号住居跡（第21・22図）

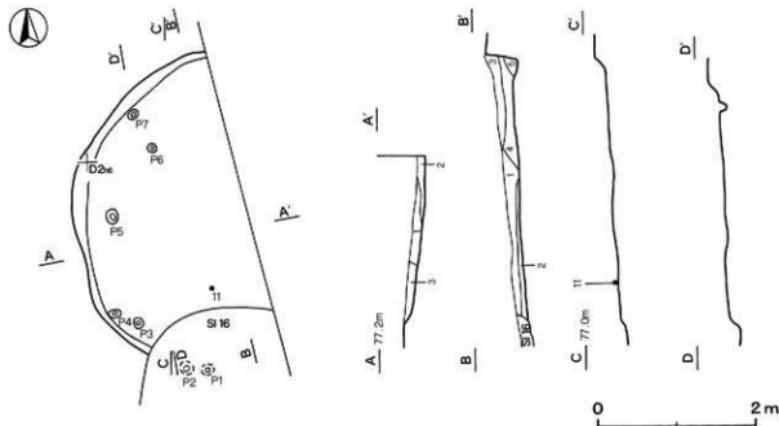
位置 調査区南部のD 2 b6区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第16号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東部は調査区外に伸びている。確認された範囲は長径3.30m、短径2.10mで、円形又は梢円形と推定され、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は最大40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦であるが、東に傾斜している。締まりがなく軟弱である。

ピット 7か所。深さ12~37cmで、規模や配置から柱穴と考えられる。



第21図 第15号住居跡実測図

**覆土** 5層からなり。ロームブロック及び焼土粒子を含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 繩文土器片21点（口縁部1、胴部20）が出土している。IIは南部の床面、TP23は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第22図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
II	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	隆起により把手を作出。沈縞によるC字状文を施文し、口唇部には指突文と沈縞を施文。口唇部下端には沈縞を這らし、地文にRLの単節縄文を施文している。	床面	10%
TP23	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい褐色	普通	沈縞を施し、区画を形成。押圧文や地文にLRの単節縄文を施文している。	覆土中				

第16号住居跡（第23図）

**位置** 調査区南部のD 2 h6区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第15号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東部は調査区外に延びている。確認された範囲は長径3.82m、短径1.75mで、円形又は梢円形と推定され、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は最大23cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦であるが、東にやや傾斜している。縮まりがなく軟弱である。

**ピット** 4か所、深さ14~20cmで、配置や形状から柱穴と考えられる。

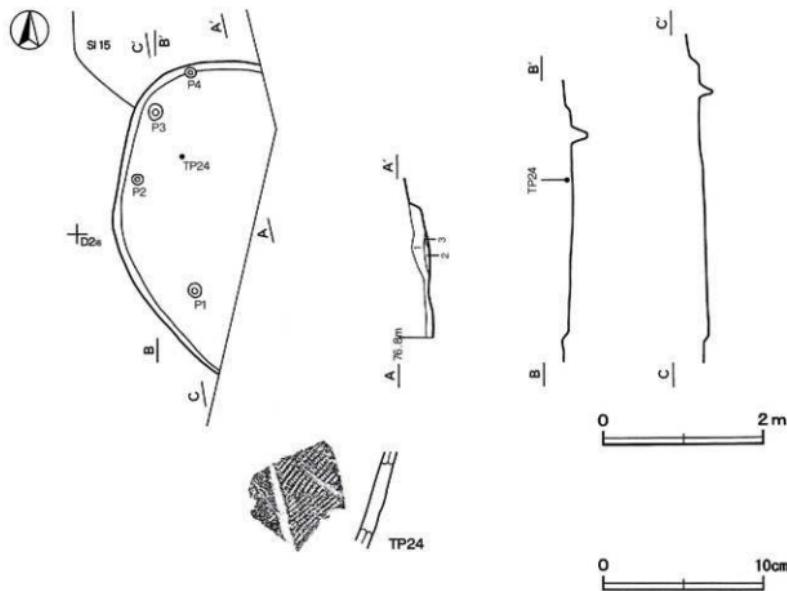
**覆土** 3層からなり。ロームブロック及び焼土ブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	3 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片15点（口縁部2、胴部13）が出土している。TP24は北西部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第23図 第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP24	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	褐	普通	縦に沈線を施し、地文にRLの半周繩文を施文している。	中層	

第19号住居跡（第24図）

位置 調査区北部のB3a0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込み、第1・5号住居、第110号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.10m、短径3.27mの円形又は楕円形と推定され、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は最大16cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認できなかった。

床 東側に傾斜している。締まりがなく軟弱である。

炉 中央部に位置し、長径28cm、短径26cmの楕円形で、床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。

#### 炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	3	灰褐色	焼土ブロック中量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量			

ピット 12か所。深さ12-27cmで、規模や形状から柱穴と考えられる。

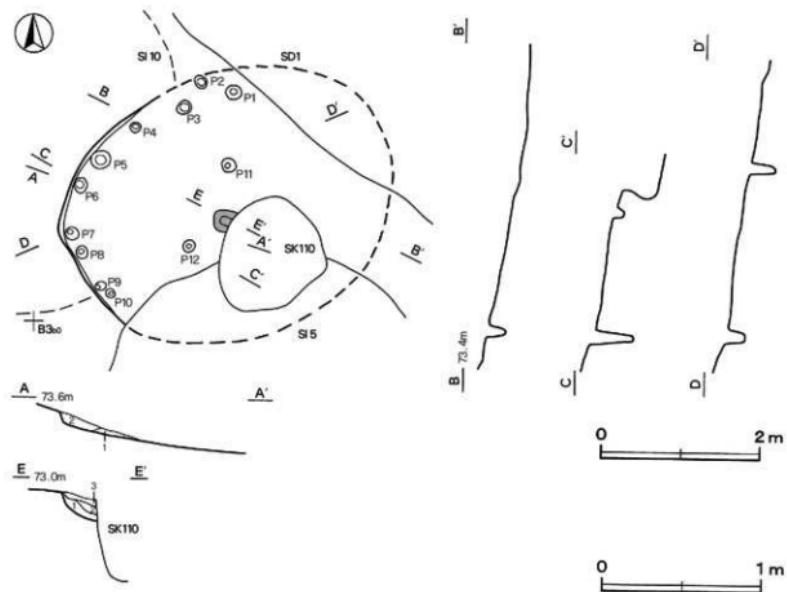
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量	2	極暗褐色	ロームブロック微量
---	-----	---------	---	------	-----------

**遺物出土状況** 繩文土器片11点（口縁部1、胴部10）が出土している。土器はすべて細片であり、図示することはできなかったが、西部の覆土下層から多く出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第24図 第19号住居跡実測図

#### 第21号住居跡（第25～27回）

**位置** 調査区南部のD 25区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第12号住居、第84号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径6.20m、短径5.60mの楕円形と推定され、主軸方向はN-37°Wである。壁高は最大30cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

**床** 東にやや傾斜する。締まりがなく軟弱である。

**炉** 南西寄りに炉1、中央部に炉2、やや東寄りに炉3が確認された。炉1は一辺50cmのコの字形に自然石を組み、南東部に口を開けた石開炉である。炉床は床面を8cmほど掘りくぼめている。炉2は径60cmの円形で、床面を14cm掘りくぼめた地床炉である。炉3は長径52cm、短径45cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめた地床炉である。

##### 炉1 土層解説

1 暗赤褐色	燒土ブロック中量
2 極暗赤褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量

3 暗赤褐色 燒土粒子少量、炭化粒子微量

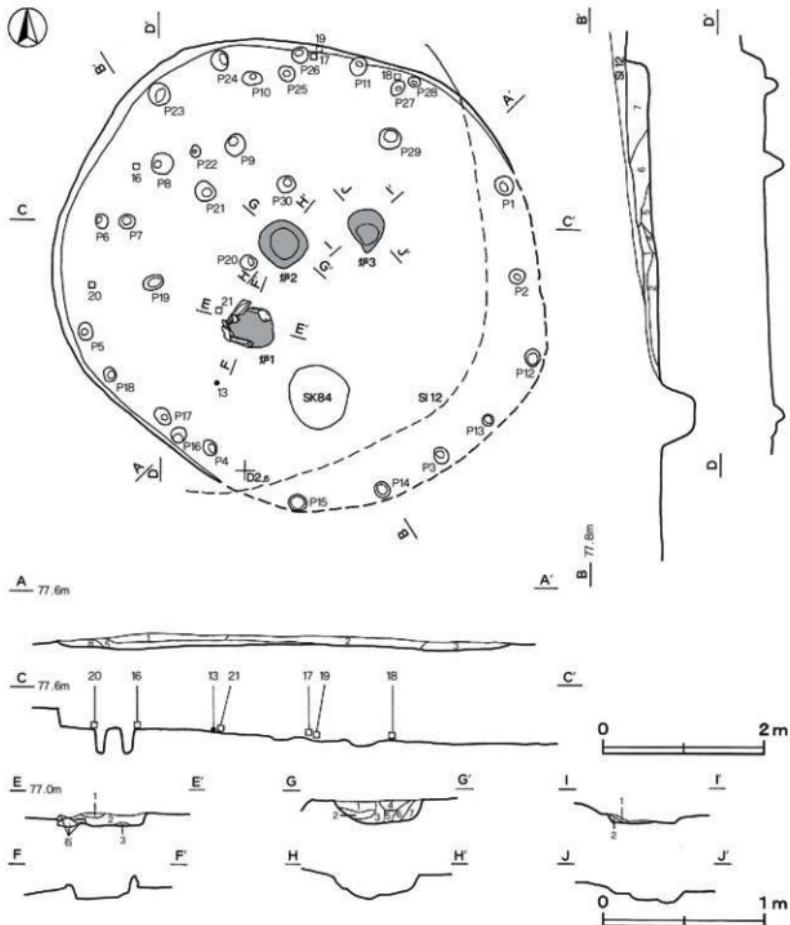
炉 2 土層解説

- |         |                 |        |                     |
|---------|-----------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色   | 燒土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 燒土粒子、炭化粒子微量         |
| 2 黒褐色   | 燒土ブロック、炭化粒子微量   | 6 黒褐色  | 燒土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 燒土ブロック、炭化粒子微量   | 7 黒褐色  | ロームブロック・炭化物、燒土粒子微量  |
| 4 黒褐色   | 燒土粒子、炭化粒子微量     |        |                     |

炉 3 土層解説

- |        |                     |        |                 |
|--------|---------------------|--------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量 | 2 暗赤褐色 | 燒土ブロック少量、炭化粒子微量 |
|--------|---------------------|--------|-----------------|

ピット 30か所。P 1～P 11は深さ22～52cmで、規模や配置から主柱穴と考えられ、P 12～P 30は深さ5～18cmで補助柱穴と考えられる。



第25図 第21号住居跡実測図

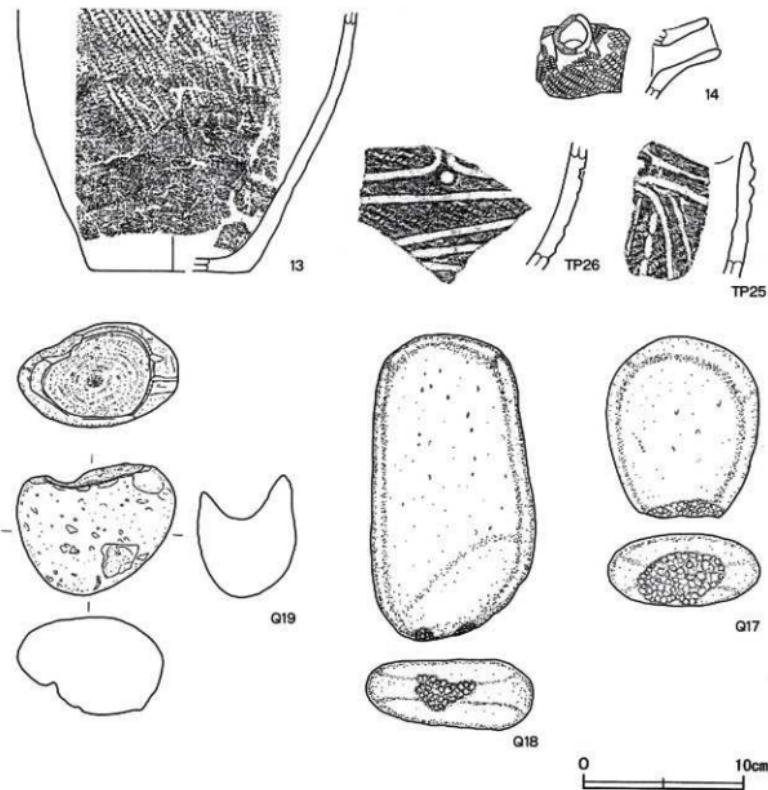
**覆土** 8層からなり。ロームブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

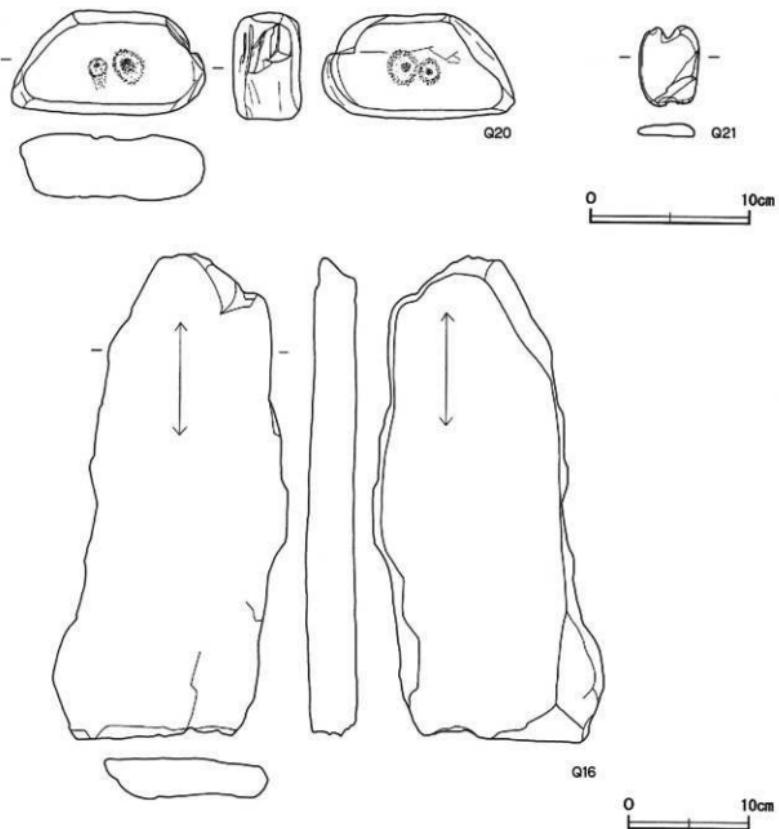
1 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 にびい赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 裸文土器片85点(口縁部11、胴部70、底部4)、石器10点(石錘、凹石2、敲石、砥石4、磨石2)が出土している。I3は炉1の南側、Q16は北西部、Q18は北東部壁際、Q20は西部、Q21は炉1の北西の床面から出土している。Q17・19は北部の下層から、14、TP25・26は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第26図 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第27図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)

第21号住居跡出土遺物観察表（第26・27図）

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
13	縄文土器	深鉢	—	(16.1)	9.8	石英・長石・雲母	にぶい赤 橙	普通	地文にLRの単節縄文を施している。	床面	30% PL10
14	縄文土器	皿口鉢	—	(5.1)	—	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	地文にRLの単節縄文を施している。	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP25	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母 鐵	灰褐	普通	口縁部に2本の沈縄を施し、沈縄の間には円形浮文を施す。胴部は 縄文を地文とし、沈縄と列点文で文様を構成している。	覆土中	PL12
TP26	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい黄 橙	普通	地文上に、刺突文と曲線的な沈縄文を施して文様を構成している。	覆土中	PL13

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	40.7	19.4	3.5	4,460.0	陶器	底面2面	床面	
Q17	敲打石	(113)	9.5	4.4	802.0	砂質片岩	下端部に敲打痕、又火熱を受け赤変	下層	PL17
Q18	敲打石	18.9	10.4	4.4	1,350.0	砂質片岩	下端部に敲打痕、又火熱を受け赤変	底面	PL16
Q19	円石	8.3	9.9	6.5	363.0	軽石	一部を大きくくぼめる	下層	PL17
Q20	円石	6.2	12.0	4.3	540.0	緑色片岩	表面に2か所、裏面に2か所穿孔	床面	PL17
Q21	石錐	5.1	3.6	0.9	20.9	緑色片岩	長軸方向に上下に調整	床面	PL14

## (2) 土坑

### 第1号土坑（第28図）

位置 調査区南部のB3c0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第58号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.09m、短径0.97mの梢円形、長径方向はN-43°Wである。深さは40cmで、底面はほぼ平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

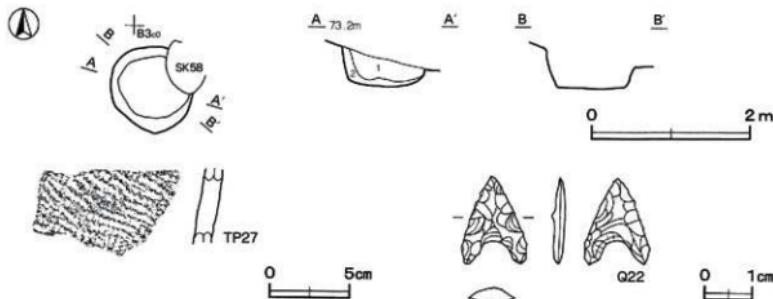
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色 壊化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 繩文土器片6点（胴部5、底部1）、石器1点（石錐）が出土している。TP27とQ22はともに覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期以前と考えられる。



第28図 第1号土坑・出土遺物実測図

### 第1号土坑出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	表面が磨滅している。	覆土中	80%
Q22	石錐	1.9	1.4	0.3	0.47	安山岩	基部中央は大きく溝入	覆土中 PL14

### 第16号土坑（第29図）

位置 調査区北部のB 3 b7区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第4号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.12m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-37°-Wである。深さは46cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

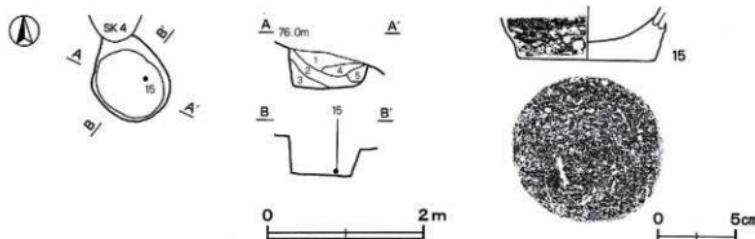
覆土 5層からなり、全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 極暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 繩文土器片1点（底部）が出土している。15は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第29図 第16号土坑・出土遺物実測図

### 第16号土坑出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
15	縄文土器	深鉢	—	(34)	87	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	磨滅がひどく、調整不明。	底面	5%

### 第18号土坑（第30図）

位置 調査区南部のB 3 c9区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第17号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.60m、短径1.48mの円形で、長径方向はN-0°である。深さは77cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

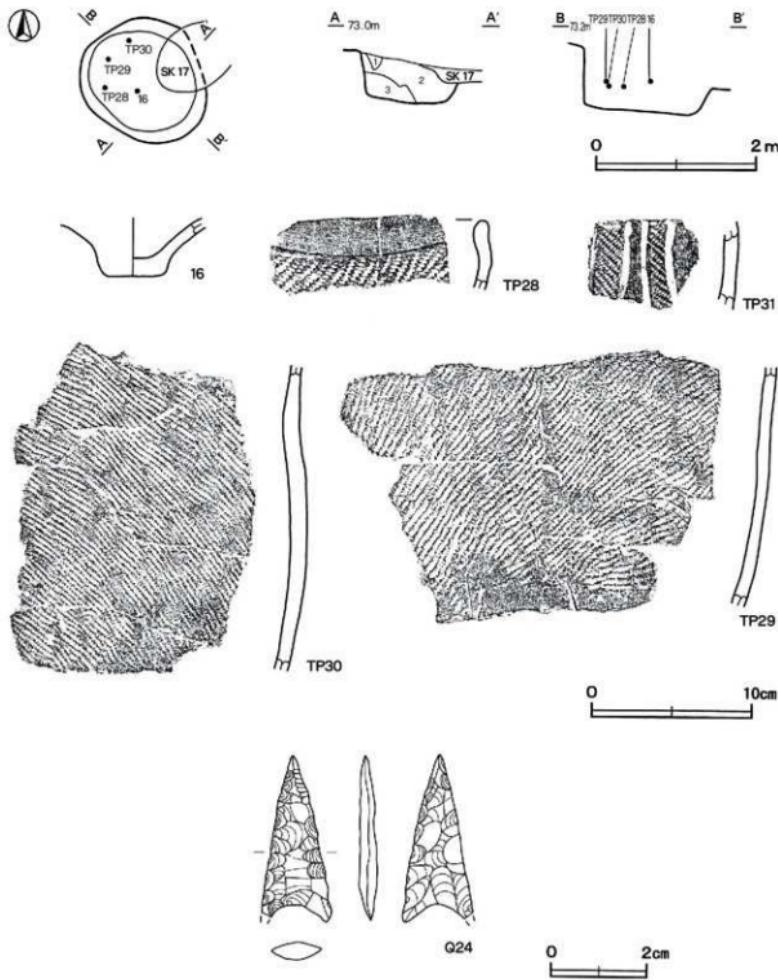
覆土 3層からなり、全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	3 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 縄文土器片64点（口縁部4、胴部59、底部1）、石製品1点（石錐）が出土している。16は中央部の覆土上層、TP28~30は西寄りの覆土中層、TP31、Q24は覆土中より出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第30図 第18号土坑・出土遺物実測図

第18号土坑出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
16	繩文土器	深鉢	—	(3.6)	3.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	無文。	上層	5%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP28	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部に微隆帯を這らし、無文帶を有する。下部にLRの單節繩文を施文している。	中層	
TP29	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	地文にRLの單節繩文を施文している。	中層	
TP30	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	地文にRLの單節繩文を施文している。	中層	
TP31	繩文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	地文にRLの單節繩文を施文し、沈線で無文帶を区画し、区画内の網文を削り消している。	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q 24	石 砺	35	15	0.4	1.24	瑪瑙	基部中央は済入	覆土中	PL14

### 第19号土坑（第31・32図）

位置 調査区南部のB 3 c0区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.70m、短径0.42mの不定形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは17cmで、底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

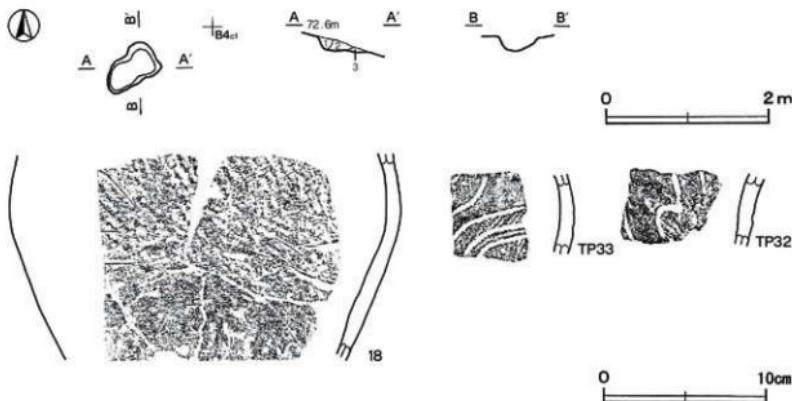
#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 白褐色 ロームブロック・炭化物微量

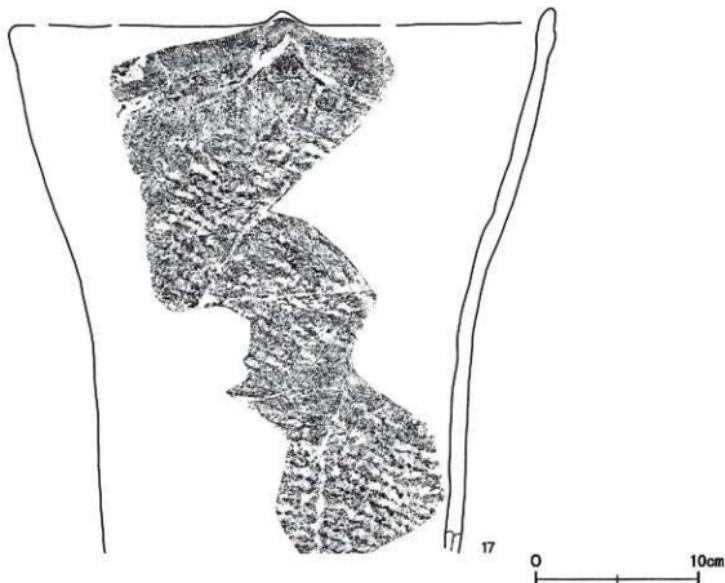
3 喙褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片44点（口縁部2、胴部42）が出土している。17・18、TP32・33は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第31図 第19号土坑・出土遺物実測図



第32図 第19号土坑出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第31・32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
17	縄文土器	深鉢	[32.9]	(33.1)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	波状口縁を有し、波頭部下端より沈線を巡らす。地文にRLの單節縄文を施文している。	覆土中	20% PL10
18	縄文土器	深鉢	—	(12.6)	—	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	地文に縄文を施文する。磨滅により施文不明。	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP32	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	明褐色	普通	地文にRLの單節縄文を施文。曲線の沈線で無文帯を区画する。	覆土中	
TP33	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	地文にRLの單節縄文を施文。曲線の沈線で無文帯を区画する。	覆土中	

第22号土坑（第33図）

位置 調査区南部のB 3 c8区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.56m、短径1.24mの楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは38cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

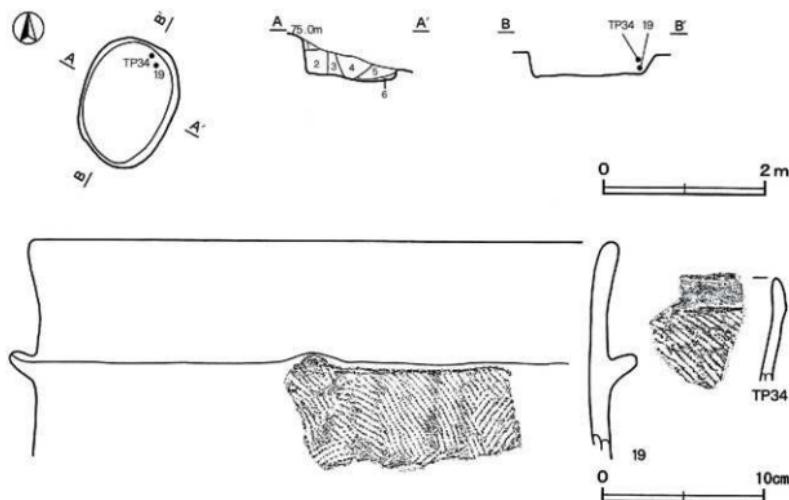
覆土 6層からなり、全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 繩文土器片 8点（口縁部2、胴部6）が出土している。19は北壁際の覆土下層、TP34は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第33図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	長径	高さ	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴		出土位置	備 考
									口縁部無文帯の下端を環状の突起を付した隆舌で区画する。胴部にRLの單節繩文を施文している。			
19	縄文土器	深鉢	[35.6]	(13.4)	—	石英・長石・ 雲母	にいぶい黄 褐色	普通			下層	5%
TP34	縄文土器	深鉢	石英・長石	赤褐	普通	口縁部に微隆帯を這らし、無文帯を形成する。地文にRLの単節繩文を施文している。				上層		

第23号土坑（第34図）

**位置** 調査区南部のB 3 b7区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第7号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.25m、短径1.13mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。深さは65cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

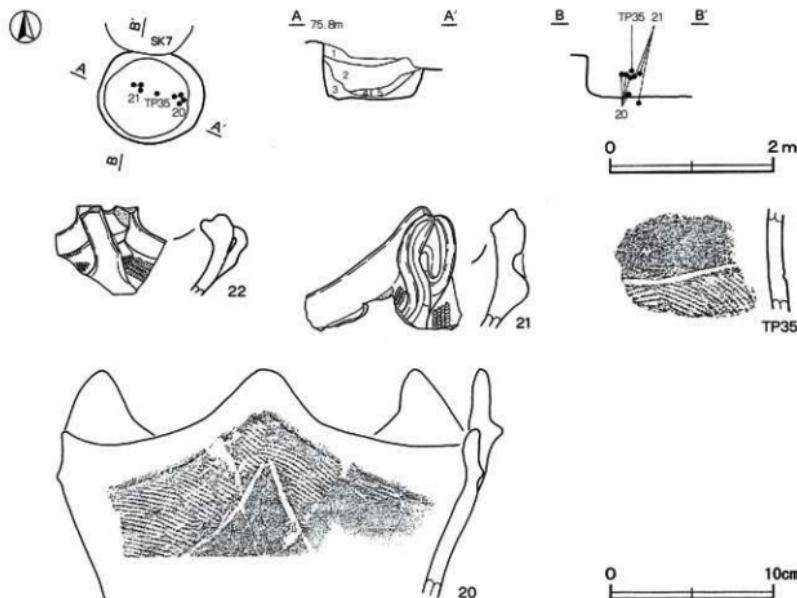
**覆土** 5層からなり、4・5層の不規則な堆積状況や、全体にロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	4 黒褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 繩文土器片97点（口縁部16、胴部79、底部2）が出土している。20・21は中央部の覆土中層から底面にかけて、TP35は覆土中層、22は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第34図 第23号土坑・出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
20	繩文土器	深鉢	[25.1]	(13.9)	—	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	波状口縁を呈し、口円部に陰帶を差し、地文にRLの單節繩文を施している。波頂部下端より斜位に沈縫を描出し、無文帯を形成する。	中層～底面	10% PL10
21	繩文土器	深鉢	—	(7.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	—	口縁部無文帯に貼付文を施し、沈縫を描出している。	中層～底面	5%
22	繩文土器	深鉢	—	(5.4)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙子	普通	波頂部の先端に口縁部の無文帯・繩文帯から駆け上がる4本の粘土柱を拂り合わせた把手。地文にRLの單節繩文を施している。	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP35	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	地文に繩文を施し、沈縫で区画している。	中層	

第40号土坑（第35図）

位置 調査区南部のB 3 c9区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.14m、短径1.37mの楕円形で、長径方向はN-63°Wである。深さは55cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

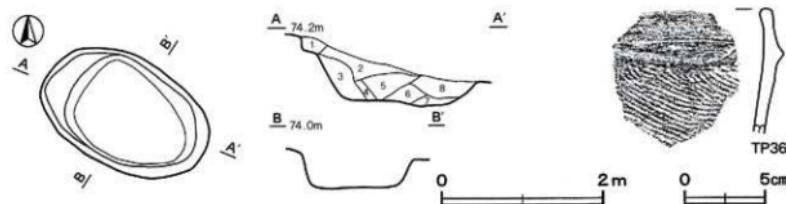
**覆土** 8層からなり。全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック微量	5	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	7	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量

**遺物出土状況** 糸文土器片1点(口縁部)が出土している。TP36は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第35図 第40号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表(第35図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP36	糸文土器	深鉢	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁部には陰帯を這らし、無文帯を形成する。地文にLRの単節繩文を施文している。	覆土中	

**第42号土坑(第36図)**

**位置** 調査区南部のB3c6区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.84m、短径1.34mの梢円形で、長径方向はN-67°Wである。深さは30cmで、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

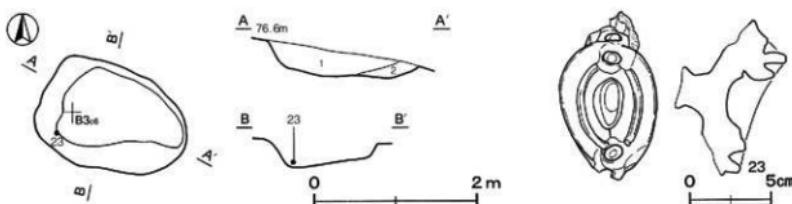
**覆土** 2層からなり。ロームブロックの堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	2	褐色	ロームブロック・炭化物微量
---	-----	----------------	---	----	---------------

**遺物出土状況** 糸文土器片13点(口縁部1、胴部12)、混入と考えられる土師器片2点も出土している。23は南西の壁際覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第36図 第42号土坑・出土遺物実測図

第42号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
23	繩文土器	深鉢	(10.3)	6.0	6.8	石英・長石・雲母	褐	普通	円形刺突文及び沈線を有するO字状文の把手片。	下層	5%

## 第49号土坑（第37図）

位置 調査区南部のB 4 c4区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.60m、短径1.09mの梢円形で、長径方向はN-67°-Eである。深さは29cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

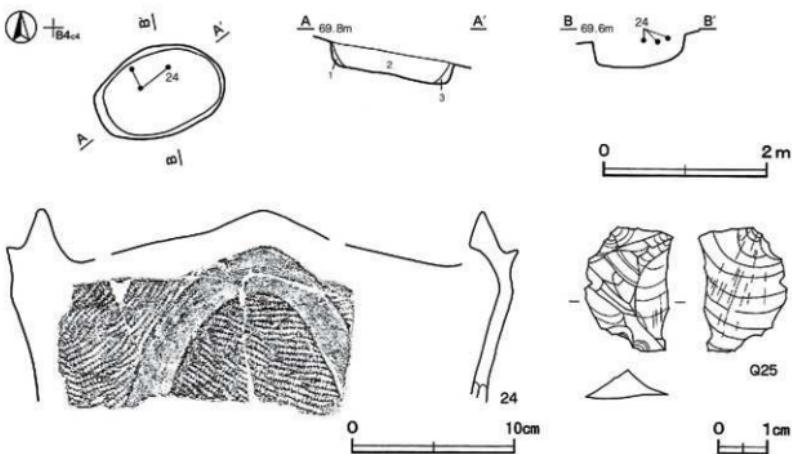
覆土 3層からなり。ロームブロックや炭化粒子の堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 繩文土器片5点（口縁部3、胴部2）、石器1点（剥片）が出土している。24は覆土上層、Q25は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第37図 第49号土坑・出土遺物実測図

第49号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
24	繩文土器	深鉢	[27.0]	(11.7)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	褐	普通	口縁部は隆起帯を作り無文帶。波頭部から突起を作り逆U字状の隆起縞で文様を構成。地文にRL。区画内にLRの単節繩文を施している。	上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	剥片	26	18	0.6	2.42	黑曜石	不定形の剥片を素材にしている 表面は多方向からの剥離痕からなる	覆土中	PL14

### 第52号土坑（第38図）

位置 調査区南部のB 4 al区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第77号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.56m、短径1.04mの不整楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。深さは32cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

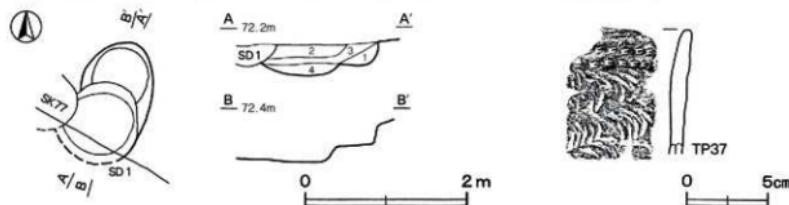
覆土 4層からなり。ロームブロックを含むが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	3 黒褐色	ロームブロック・燒土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片8点（口縁部1、胴部7）が出土している。TP37は覆土中から出土している。

所見 時期は、暗褐色を基調とした土層が、他の土坑と類似していることから繩文時代と考えられる。



第38図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	石英・長石	明赤褐色	普通	貝殻状文と半載竹管による施文を連続して行う。	覆土中	PL13

### 第54号土坑（第39・40図）

位置 調査区南部のB 4 d2区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.45m、短径1.24mの楕円形で、長径方向はN-60°-Wである。深さは18cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

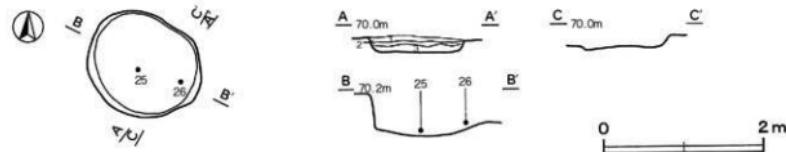
覆土 3層からなり。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

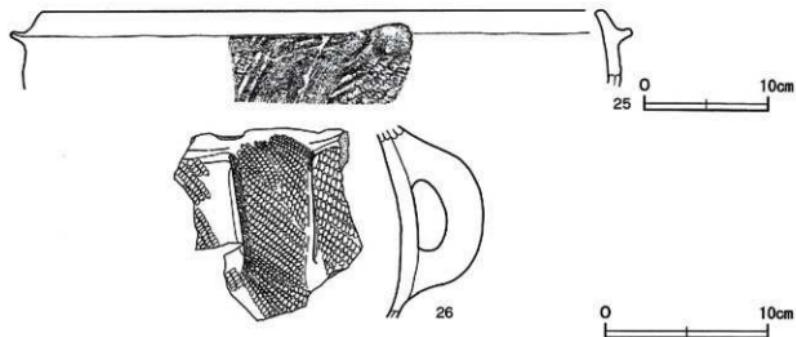
1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片29点（口縁部3、胴部25、底部1）が出土している。他に混入した土器片1点も出土している。25・26は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第39図 第54号土坑実測図



第40図 第54号土坑出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
25	繩文土器	深鉢	[45.0]	(62)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部に幾帯を這らし、地文にLRの單節繩文を施文している。	下層	5%
26	繩文土器	広口壺	—	(117)	—	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	横状把手を有し、LRの單節繩文を施文している。	下層	5%

#### 第91号土坑（第41図）

位置 調査区南部のD 2 b4区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.15m、短径1.02mの楕円形で、長径方向はN-61°-Wである。深さは32cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

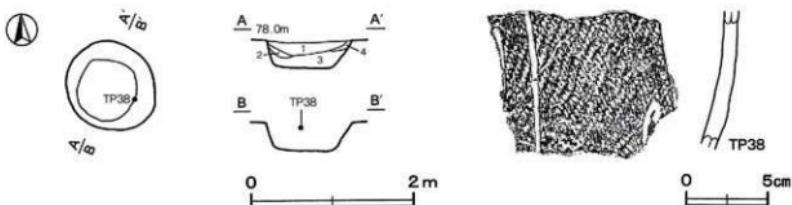
覆土 4層からなり、ロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片12点（口縁部1、胴部11）が出土している。TP38は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第41図 第91号土坑・出土遺物実測図

第91号土坑出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	燒成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP38	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	地文にRLの單節繩文を施し、沈線で文様を描出している。	上層	

第95号土坑（第42図）

位置 調査区南部のE 2 a4区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.87m、短径0.90mの長楕円形で、長径方向はN-37° Eである。深さは35cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

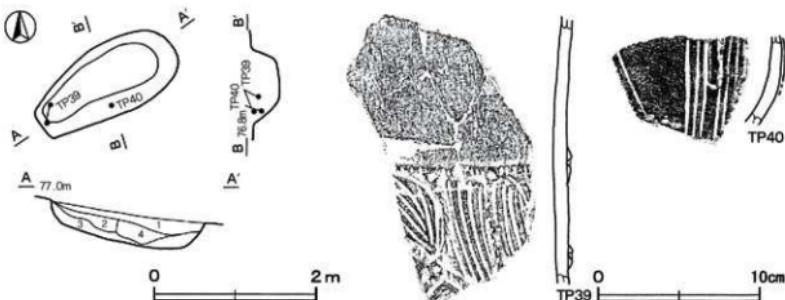
覆土 4層からなり。ロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	3 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片31点（口縁部3、胴部28）が出土している。TP39・40は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第42図 第95号土坑・出土遺物実測図

第95号土坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	燒成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP39	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	墻面にキザミ目を施し、胴部文様帯を区画。上部は無文。下部は墻帶と沈線で刻文文を施文している。	上層	PL13
TP40	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	橙	普通	数本の沈線に平行して微隆帯を巡らしている。	上層	PL13

第103号土坑（第43図）

位置 調査区南部のB 3 a9区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第10号住居跡、第11号土坑を掘り込み、第8号住居に掘り込まれている。

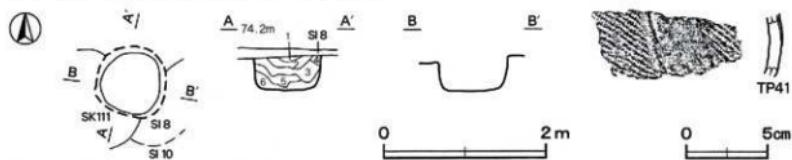
規模と形状 長径0.92m、短径0.90mの円形で、長径方向はN-0°である。深さは50cmで、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 6層からなり。ロームブロックを含み不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

1 暗赤褐色	燒土粒子中量、ロームブロック微量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 繩文土器片20点（口縁部1、胴部19）が出土している。TP41は覆土中から出土している。  
**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第43図 第103号土坑・出土遺物実測図

第103号土坑出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP41	縄文土器	深鉢	長石・雲母		にぼい褐色	普通	地文にRLの単節縄文を施し、側縁部で無文帯を形成する。	覆土中	

第104号土坑（第44図）

**位置** 調査区北部のA 3 h9区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径2.30m、短径1.36mの不定形で、長径方向はN-30°-Eである。深さは30cmで、底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

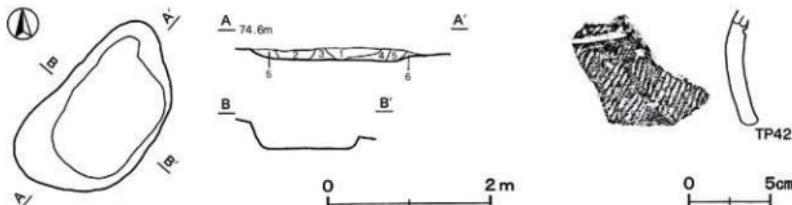
**覆土** 6層からなり、ロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	4	黒褐色	ローム中ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量	6	暗褐色	ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片7点（胴部）が出土している。TP42は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第44図 第104号土坑・出土遺物実測図

第104号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	灰褐色	普通		地文にRLの単節縄文を施し、沈線と斜突文で文様を構成している。	覆土中	

### 第105号土坑（第45図）

位置 調査区南部のD 2 g3区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.48m、短径0.47mの円形で、長径方向はN - 0°である。深さは15cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり。ローム粒子や炭化粒子の堆積状況から人為堆積と考えられる。

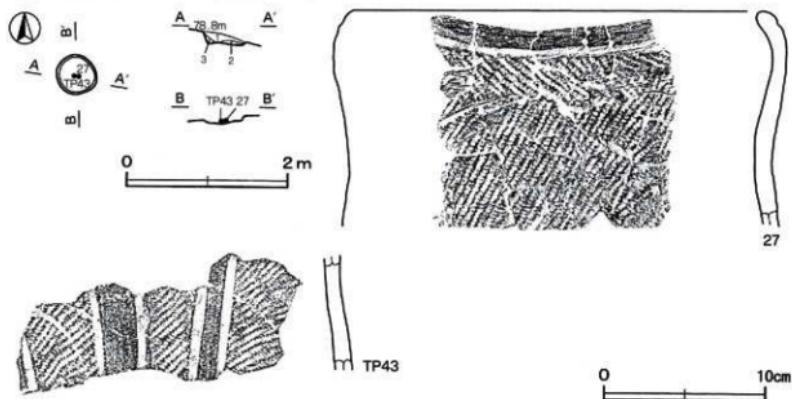
#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
2 暗赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量

3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
-------	----------------

遺物出土状況 純文土器片35点（口縁部1、胴部33、底部1）が出土している。27、TP43はともに中央部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第45図 第105号土坑・出土遺物実測図

### 第105号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
27	純文土器	深鉢	[25.0]	(13.2)	—	長石	にぶい黄 褐	普通	口唇部下端に沈縫を施し、地文にLRの単節純文を施文している。	底面	20% PL10

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP43	純文土器	深鉢	石英、長石、雲母、 赤色粒子	にぶい橙	普通	地文にLRの単節純文を施文し、沈縫無文帶を形成する。	底面	

### 第107号土坑（第46図）

位置 調査区南部のA 3 g3区で、台地の斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.67m、短径0.65mの円形で、長径方向はN - 0°である。深さは40cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。

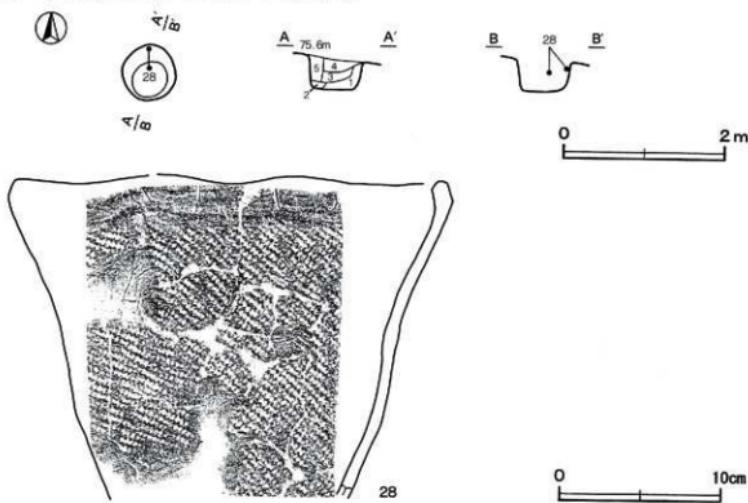
**覆土** 5層からなり。全体にロームブロックを含み不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4 極暗褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	5 褐色	ロームブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子微量		

**遺物出土状況** 繩文土器片27点（口縁部2、胴部25）が出土している。28は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第46図 第107号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
28	縄文土器	深鉢	[26.2]	(19.9)	—	石英・長石・ 雲母	にぼい粒	普通	口縁部下端に、沈線を這らし、地文に縄文を施している。	上層	30% PL10

**第111号土坑（第47図）**

**位置** 調査区南部のB 3 a9区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第10号住居跡を掘り込み、第8号住居、第103号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.35m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。深さは23cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

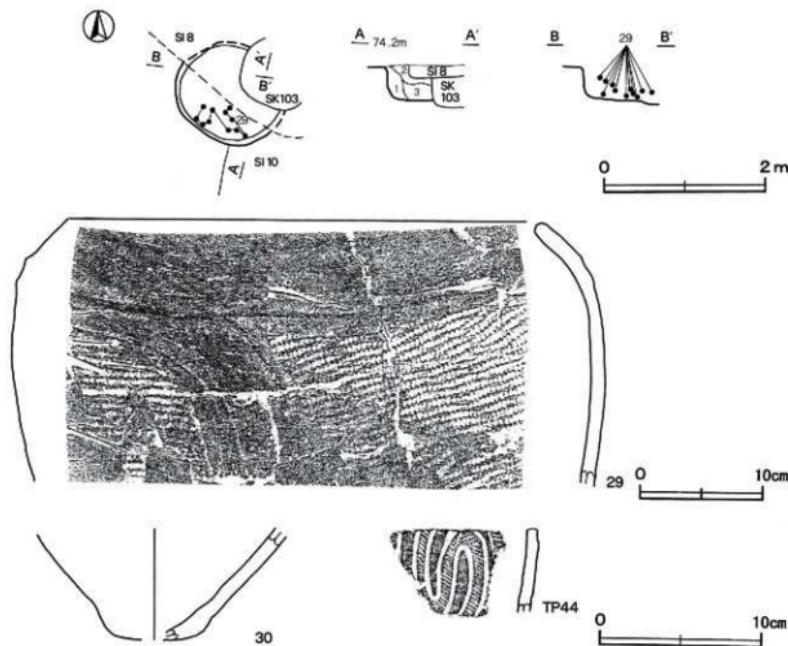
**覆土** 3層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ローム粒子微量	3 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 繩文土器片38点（口縁部8、胴部27、底部3）が出土している。29は覆土中層から底面にかけて、30、TP44は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。



第47図 第111号土坑・出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
29	繩文土器	鉢	[39.0]	(21.6)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁部下端に、微隆起帯を這らし、地文にRLの半筋 繩文を施している。胴部には逆U字状に微隆起帯 を這らし、無文帯を抽出している。	中層～ 底面	20% PL11
30	繩文土器	深鉢	—	(6.9)	5.7	石英・長石	にぶい黄褐色	普通	胴部には繩文が施文されているが、磨滅がひどい。	覆土中	20% PL11

番号	種別	器種	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP44	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	地文にRLの半筋繩文を施文し、沈縫で無文帯を区画している。	覆土中	

第112号土坑（第48図）

位置 調査区南部のB 4 b2区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.53m、短径0.43mの楕円形で、長径方向はN-62°Wである。深さは17cmで、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

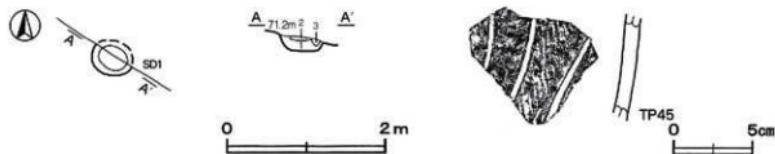
**覆土** 3層からなり。ロームブロックや炭化物を含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 土化物中量。焼土ブロック少量、ローム粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 糸文土器片7点(胴部)が出土している。TP45は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第48図 第112号土坑・出土遺物実測図

第112号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP45	糸文土器	深鉢	石英・長石・紫母・赤色粒子・鐵	にぶい橙	普通	地文に糸文を施し、沈雜で無文帯を区画している。	覆土中	

**第114号土坑（第49図）**

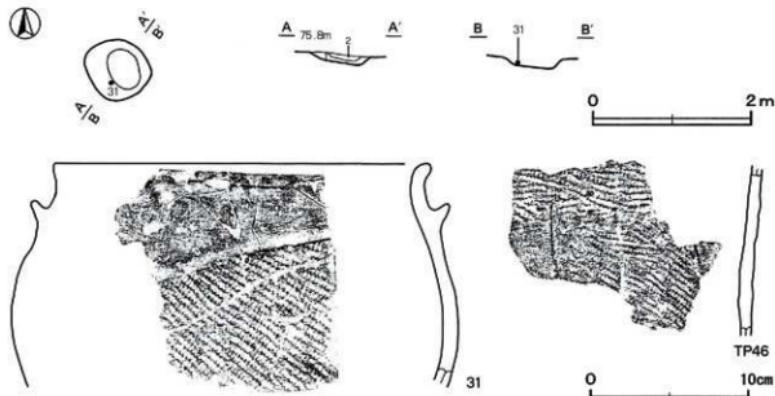
**位置** 調査区南部のA 317区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.83m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。深さは35cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 土化物微量  
 2 極暗褐色 土化物少量



第49図 第114号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 繩文土器片72点（口縁部3、胴部69）が出土している。31は床面、TP46は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。

第114号土坑出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
31	繩文土器	深鉢	[23.2]	(14.0)	—	石英・長石・雲母	赤褐色	普通	口縁部に突起を有した隆帯を這らし文様を描出。地文にLRの単節繩文を施文している。	床面	20% PL11
TP46	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母	に赤い黄褐色	普通	地文にLRの単節繩文を施文し、微隆帯で無文帶を形成する。	覆土中				

### 第131号土坑（第50図）

**位置** 調査区南部のA 4 j1区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.00m、短径0.80mの梢円形で、長径方向はN-33°-Wである。深さは56cmで、底面は平坦で、壁は内湧して立ち上がっている。

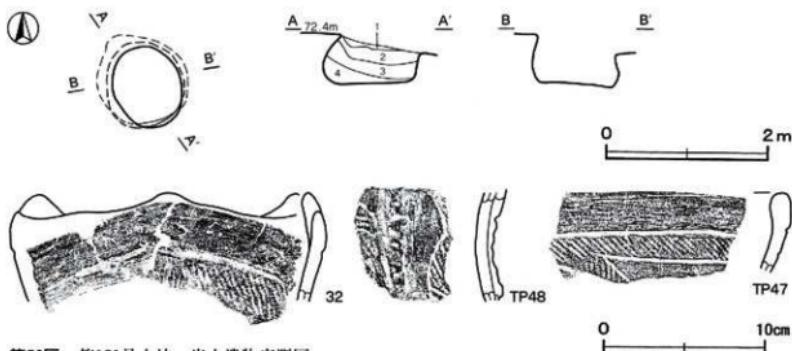
**覆土** 4層からなり、レンズ状の堆積状況であるが、ロームブロックや炭化粒子を含む堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	3 暗褐色	炭化物少量、ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片23点（口縁部5、胴部18）が出土している。32、TP47・48は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



第50図 第131号土坑・出土遺物実測図

第131号土坑出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
32	繩文土器	深鉢	[18.4]	(6.6)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	波状1縁を有し、口縁部下端に沈縫を這らし、無文帶を区画。胴部には繩文を施文している。	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎 土	色 調	燒成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP47	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい赤 黒	普通	口縁部に沈縦を施し無文帯を構成。地文にLRの単節縄文を施している。	覆土中	PL13
TP48	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	橙	普通	押正文を有する陰帶を懸垂させている。また、沈縦で区画された内側に縄文を施している。	覆土中	PL13

### 第137号土坑（第51図）

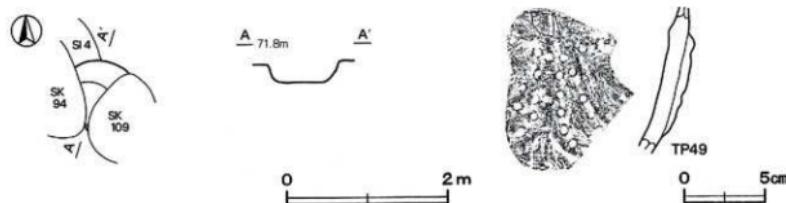
位置 調査区南部のA 4j2区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み、第94・109号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.80m、短径0.47mの不定形で、長径方向はN-45°-Eである。深さは20cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況 縄文土器片21点（口縁部4、胴部17）が出土している。TP49は覆土中から出土しており、他の遺物は細片である。

所見 時期は、重複関係や出土土器から後期前半以降と考えられる。



第51図 第137号土坑・出土遺物実測図

### 第137号土坑出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	燒成	文 様 の 特 徴	出土位置	備 考
TP49	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい赤 黒	普通	陰帶に沿って刺突文を施している。	覆土中	PL13

### その他の土坑（第52図）

#### 第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック微量

#### 第59号土坑土層解説

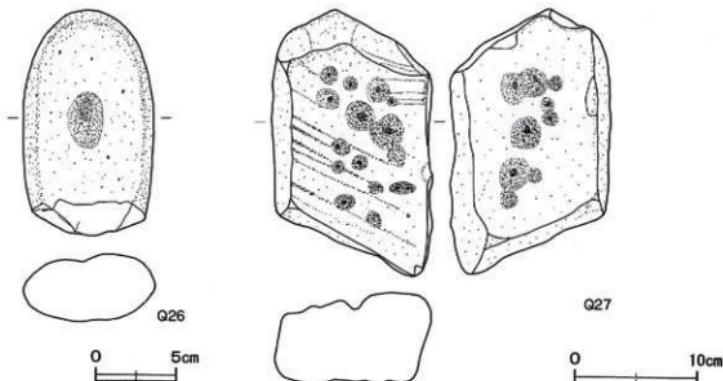
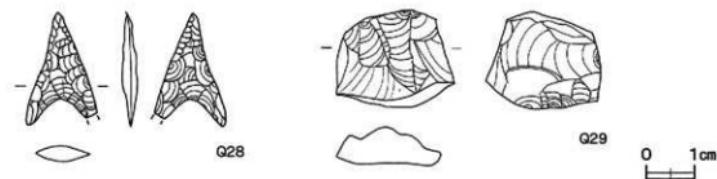
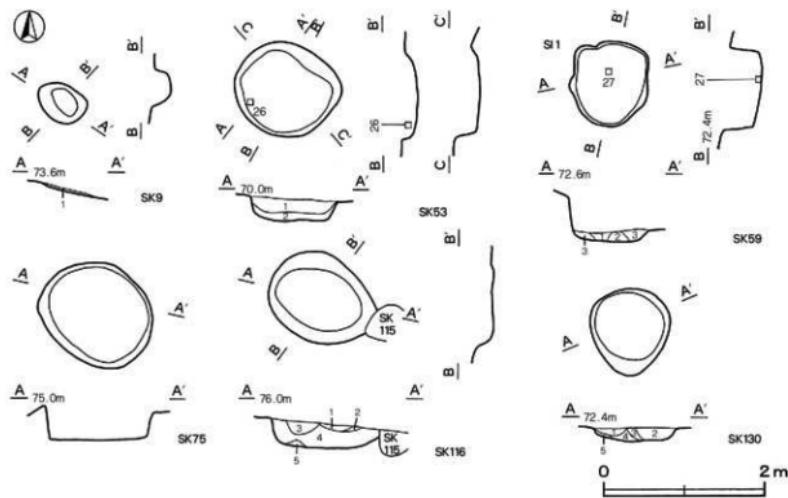
- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黑褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 地上ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ローム粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量  
5 暗褐色 ローム粒子微量

#### 第130号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
3 黑褐色 ローム粒子・砂粒微量  
4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
5 黑褐色 ロームブロック微量



第52図 その他の土坑・出土遺物実測図

第53号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土地点	備考
Q26	円石	139	8.1	4.1	674.0	角礫	表面に1か所穿孔	底面	PL17

第59号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土地点	備考
Q27	円石	21.9	13.0	7.4	2870.0	緑色片岩	表面に15か所穿孔 表面に9か所穿孔	底面	PL17

第75号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土地点	備考
Q28	石器	23	1.5	0.3	0.32	瑪瑙	基部中央は大きく済入	覆土中	PL14

第116号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土地点	備考
Q29	石核	21	2.5	0.8	4.20	黒曜石	不定形の調片を素材にしている 表裏面ともに多方向からの剥離痕からなる	覆土中	PL14

表2 繩文時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	壁清 主柱穴 出入口 ビット 蓄藏穴 炉	内 部 施 設	覆土	主な出土 遺物	時 期	備 考 (III→IV)	
1	B 3b0	N-65°-W	【梢円形】	[4.35] × 3.55	21	平坦	—	12	—	—	1	人為 深跡、調片、石核、磨石、石斧 SK59+130	
2	B 4c2	N-0°	【円形】	[4.95] × [4.65]	40	平坦	—	6	—	—	1	人為 深跡、浅跡 後期前半	
3	A 4j2	N-23°-W	【梢円形】	[4.80] × [2.60]	45	平坦	—	10	—	—	—	人為 深跡 後期前半	
4	B 4a2	N-72°-W	【梢円形】	[3.70] × [3.40]	6	平坦	—	6	—	—	—	人為 深跡 後期前半	
5	B 3b0	N-23°-E	【円形】	[4.70] × [4.51]	32	平坦	—	14	—	—	1	人為 深跡、石器 中期後半	
7	A 3i0	N-38°-W	【梢円形】	4.13 × [3.65]	36	平坦	—	15	—	—	1	人為 深跡、浅跡、凹石、砾石、土器 後期前半	
10	B 3a9	N-44°-E	【梢円形】	[4.45] × [3.85]	20	平坦	—	9	—	—	1	人為 深跡 中期後半	
11	D 2g4	N-34°-W	【梢円形】	[4.35] × [3.97]	35	平坦	—	14	—	—	2	人為 深跡、凹石 後期前半	
12	D 2i5	N-17°-W	【円形】	[6.50] × [6.00]	22	平坦	—	10	—	—	1	人為 深跡、砾石、土器 後期前半	
15	D 2h6	N-17°-W	【梢円形】	(3.30) × (2.10)	40	平坦	—	7	—	—	—	人為 深跡 後期前半	
16	D 2h6	N-27°-W	【梢円形】	3.82 × (1.75)	23	平坦	—	4	—	—	—	人為 深跡 後期前半	
19	B 3a0	N-47°-W	【梢円形】	[4.10] × [3.27]	16	平坦	—	12	—	—	1	自然 深跡 中期後半	
21	D 2i5	N-37°-W	【梢円形】	[6.20] × 5.60	30	平坦	—	11	—	19	—	3	人為 深跡、井口土器、砾石、凹石、石斧 後期前半
												本跡→SI12→SK8	

表3 楩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規格		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	B 3 e0	N -43° - W	椭円形	1.09 × 0.97	40	外傾	平坦	自然	深跡、石礫	本跡→SK58
9	A 3 j0	N -60° - W	椭円形	0.60 × 0.45	22	外傾	圓状	自然	深跡	
16	B 3 b7	N -37° - W	椭円形	1.12 × 0.94	46	垂直	平坦	人為	深跡	本跡→SK4
18	B 3 c9	—	円形	1.60 × 1.48	77	垂直	平坦	人為	深跡、石礫	本跡→SK17
19	B 3 e0	N -32° - E	不定形	0.70 × 0.42	17	緩斜	圓状	人為	深跡	
22	B 3 c8	N -20° - E	椭円形	1.56 × 1.24	38	垂直	平坦	人為	深跡	
23	B 3 b7	N -75° - W	椭円形	1.25 × 1.13	65	外傾	平坦	人為	深跡	本跡→SK 7
40	B 3 c9	N -63° - W	椭円形	2.14 × 1.37	55	外傾	平坦	人為	深跡	
42	B 3 c6	N -67° - W	椭円形	1.84 × 1.34	30	緩斜	平坦	人為	深跡	
49	B 4 c1	N -67° - E	椭円形	1.60 × 1.09	29	垂直	平坦	人為	深跡、洞片	
52	B 4 a1	N -26° - W	不整椭円形	1.56 × 1.04	32	外傾	圓状	自然	深跡	本跡→SK77→SD1
53	B 4 d1	—	円形	1.20 × 1.12	27	外傾	平坦	自然	深跡、門石	
54	B 4 d2	N -60° - W	椭円形	1.45 × 1.24	18	外傾	平坦	自然	深跡、広口壺	
59	B 4 b1	N -12° - W	椭円形	1.04 × 0.93	45	垂直	平坦	人為	深跡、四石	SI1→本跡
75	A 3 j8	N -29° - W	椭円形	1.47 × 1.17	40	外傾	平坦	—	深跡、石礫	
91	D 2 b4	N -61° - W	椭円形	1.15 × 1.02	32	外傾	平坦	人為	深跡	
95	E 2 a4	N -37° - E	長楕円形	1.87 × 0.90	35	外傾	平坦	人為	深跡	
103	B 3 a9	—	円形	0.92 × 0.90	50	垂直	平坦	人為	深跡	SI10→SK111→本跡→SI8
104	A 3 b9	N -30° - E	不定形	2.30 × 1.36	30	緩斜	平坦	人為	深跡	
105	D 2 g3	—	円形	0.48 × 0.47	15	外傾	平坦	人為	深跡	
107	A 3 i8	—	円形	0.67 × 0.65	40	垂直	平坦	人為	深跡	
111	B 3 a9	N -55° - W	椭円形	1.35 × 1.16	23	外傾	平坦	自然	鉢、深跡	SI10→本跡→SK103→SI8
112	B 4 b2	N -62° - W	椭円形	0.53 × 0.43	17	外傾	圓状	人為	深跡	本跡→SD1
114	A 3 i7	N -65° - W	椭円形	0.83 × 0.75	35	外傾	平坦	自然	深跡	
116	A 3 i7	N -65° - W	椭円形	(1.30) × 1.04	32	外傾	平坦	人為	深跡、石核	本跡→SK115
130	B 4 b1	N -8° - W	椭円形	1.07 × 0.98	18	外傾	平坦	人為	深跡	
131	A 4 j1	N -33° - W	椭円形	1.00 × 0.80	56	フラスコ形	平坦	人為	深跡	
137	A 4 j2	N -45° - E	不定形	0.80 × (0.47)	20	外傾	平坦	—	深跡	SI4→本跡→SK94・109

## 2 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された遺構は、堅穴住居跡7軒、土坑2基である。これらの遺構は、標高70m以上の台地の斜面部に立地しており、時期は10世紀前半と考えられる。以下、それぞれの遺構の特徴と遺物について記載していく。

### (1) 堅穴住居跡

#### 第8号住居跡（第53図）

位置 調査区北部のA 3 j9区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第7・10号住居跡、第103・111号土坑を掘り込み、第48・71~73・120号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 残存するのは、竈と西部の壁のみである。竈とピットの配置から、長軸4.04m、短軸4.02mの方形と推定され、主軸方向はN -49° - Wである。壁高は最大4cmで、外傾して立ち上がっている。東部は、削平さ

れており、確認されなかった。

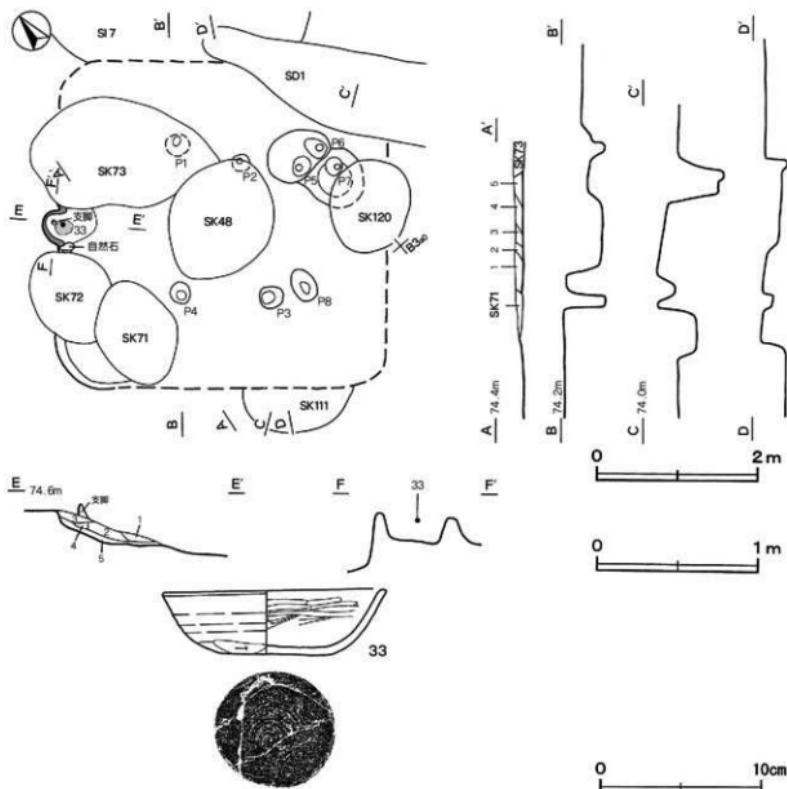
床 ほとんど確認できなかった。

窓 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙出部まで65cm、袖部幅50cmである。袖部は紗質粘土で構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変しているが硬化はしていない。煙道部は壁外に20cm 三角形状に掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。左袖部の位置から、袖部の心材として使われていたと思われる自然石が出土している。

#### 遺土層解説

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	4 閑 色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック少量	5 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子微量		

ピット 8か所。P 1～P 4は、深さ20～24cmで、配置や規模から主柱穴と考えられる。P 5～P 8は、深さ8～20cmで、配置や規模から補助柱穴と考えられる。



第53図 第8号住居跡・出土遺物実測図

**覆土** 5層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片8点(坏5、甕3)、石製品1点(支脚)が出土している。また、流れ込みと考えられる繩文土器片35点、須恵器片1点も出土している。33は竈内の覆土中層から支脚を閉むように、割れた状態で出土している。竈の中央部からは、石製の支脚が立った状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表(第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
33	土師器	坏	138	42	66	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体外部面クロナデ 下端手持ちヘラ削り 内部へラ削き調整 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整 内面部火熱を受け器面剥落	竈内	90% PLII

**第13号住居跡(第54・55図)**

**位置** 調査区南部のD1g0区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第20・22号住居跡を掘り込み、第23号住居に掘り込まれている。

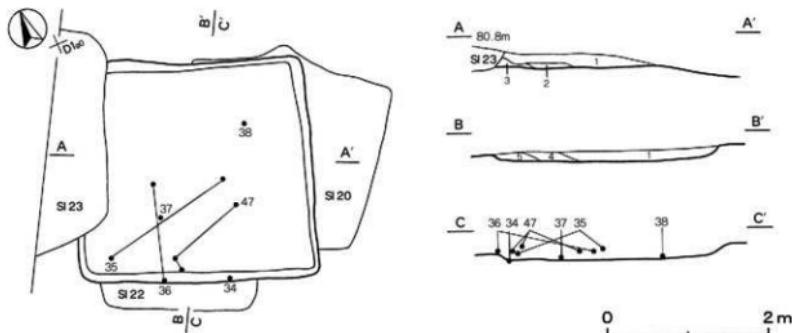
**規模と形状** 長軸2.98m、短軸2.78mの方形で、主軸方向はN-68°Wである。壁高は最高13cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 東にやや傾斜している。締まりがなく軟弱である。

**覆土** 5層からなり、レンズ状の堆積であるがロームブロックを含む不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

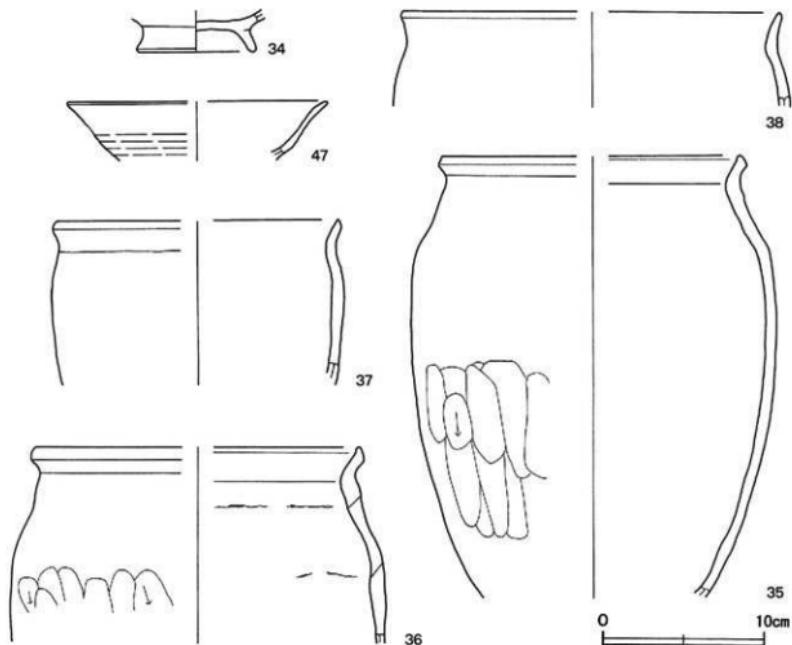
1 褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量		



第54図 第13号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片147点（環23、高台付碗3、甕121）が出土している。34は南部の壁際、37は中央部、38は北東部の、いずれも覆土下層から出土している。35・36・47は南西部の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第55図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
47	土師器	壺	[16.0]	(3.6)	—	石英・長石・雲母	明赤陶	普通	体部外面ロクロナデ 内外面火熱を受け器面剥落 調整不明	覆土上層	30%	
34	土師器	高台付	—	(2.5)	7.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り 高台貼り付け後ナデ調整	覆土下層	20%	
35	土師器	甕	[18.4]	(27.3)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 口縁部内外面横ナデ 内面火熱を受け器面剥落 調整不明	覆土上層	30% PLII	
36	土師器	甕	[19.8]	(12.1)	—	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 口縁部内外面横ナデ	覆土上層	10%	
37	土師器	甕	[17.4]	(10.1)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内外面横ナデ	覆土下層	10%	
38	土師器	甕	[23.2]	(5.8)	—	石英・長石・雲母	明褐	普通	口縁部内外面横ナデ	覆土下層	5%	

#### 第14号住居跡（第56図）

**位置** 調査区南部のC 2 j3区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 確認されたのは長軸1.35m、短軸2.89mで、方形又は長方形と推定され、主軸方向はN-74°-Wである。壁高は最大20cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

**床** 平坦で、締まりがなく軟弱である。

**窓** 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙出部まで70cmである。袖部は床面と同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りこぼめられ、火床面は焼土粒子・炭化粒子が見られるだけである。

煙道部は、壁外へ15cmほど三角形状に掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

##### 遺土層解説

1 黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	3 極暗赤褐色	焼土中ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	4 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量

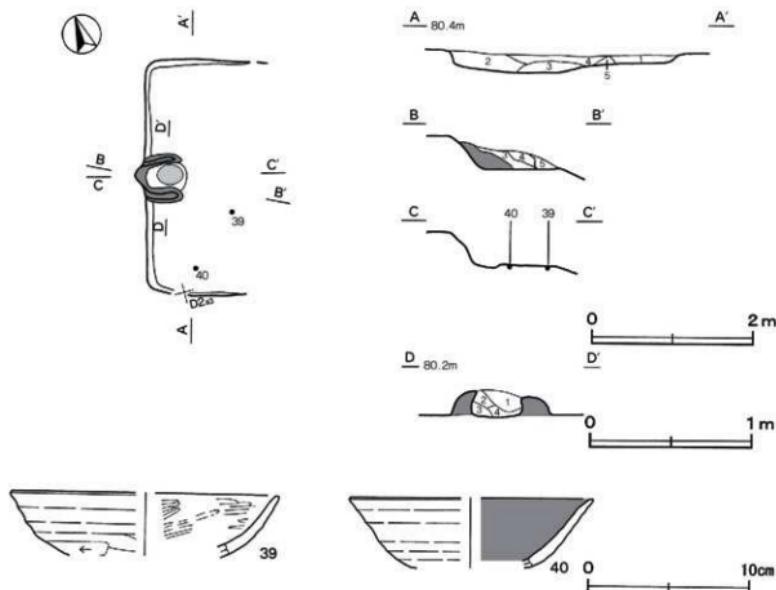
**覆土** 5層からなり、ロームブロックや炭化物の不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	4 にぶい褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土器片42点（坏5、壺37）が出土している。また、流れ込みと考えられる绳文土器片3点が出土している。39は中央部、40は南西部のいずれも床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第56図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
39	土師器	壺	[164]	(39)	—	石英・雲母 普通	にぶい黄 橙	普通	体部外面クロナデ 下端手持ちヘラ削り 体部内面 面ヘラ削き	床面	10%
40	土師器	壺	[148]	(43)	—	石英・長石・雲 母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面クロナデ 体部内面黑色処理 体部内面 火熱を受け器面溶落 調整不明	床面	10%

## 第17号住居跡（第57・58図）

位置 調査区南部のD 2 a2区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びている。確認されたのは長軸3.78m、短軸1.70mで、方形又は長方形と推定され、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は最高12cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認されなかった。

床 東にやや傾斜している。縮まりがなく軟弱である。

竈 北壁に位置している。西側は未調査ではあるが、確認できた状況から規模を推定すると、焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅が130cm、壁外への掘り込みは20cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

## 竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	粘土粒子少量、燒土粒子微量
2 黒褐色	粘土粒子少量、燒土粒子・砂粒微量	4 暗褐色	燒土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

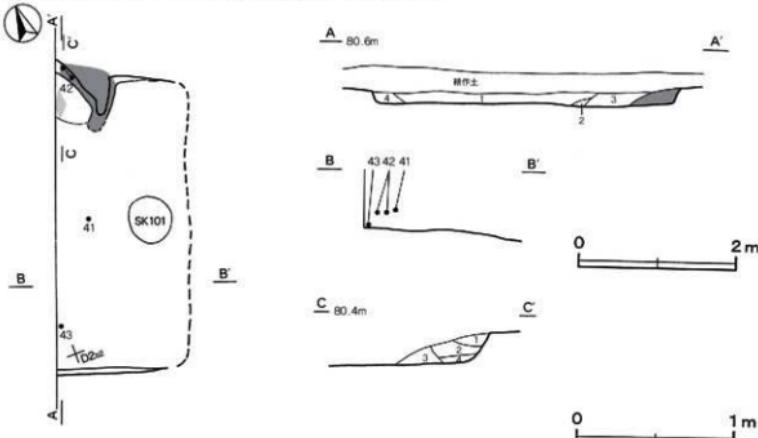
覆土 4層からなり、ロームや燒土の不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

## 土層解説

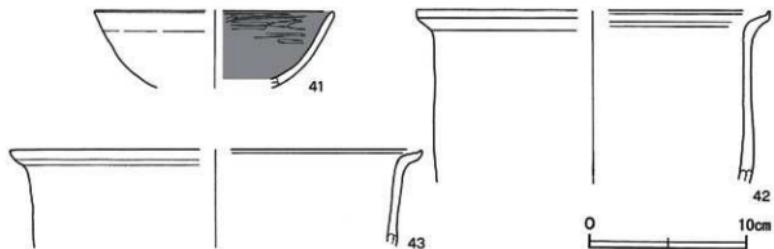
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	燒土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	燒土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片42点（壺6、高台付楕2、甌34）が出土している。また、流れ込みと考えられる繩文土器片1点も出土している。41は中央部の覆土上層、42は窓内、43は南部中央の床面から出土している。

所見 時期は、出土している土器から10世紀前半と考えられる。



第57図 第17号住居跡実測図



第58図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
41	土 器 器	坏	[15.0]	(4.8)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面クロナデ 体部内面ヘラ削き後黒色処理	覆土上層	10%
42	土 器 器	甕	[22.2]	(10.8)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ	甕内	10%
43	土 器 器	甕	[26.0]	(6.1)	—	石英・長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ	床面	10%

第20号住居跡（第59・60図）

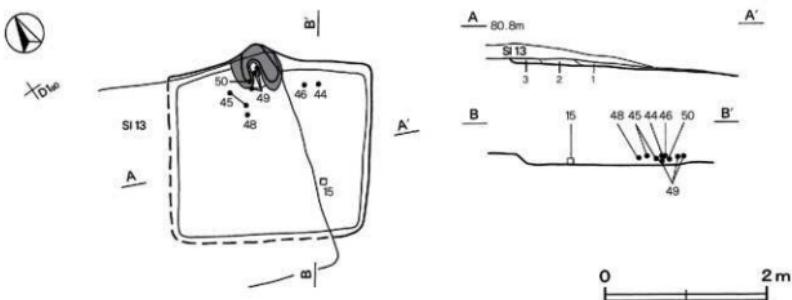
位置 調査区南部のD 1 g0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第22号住居跡を掘り込み、第13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.48m、短軸2.17mの方形で、主軸方向はN-34°Eである。壁高は最大12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で締まりがなく、軟弱である。

竈 北壁の中央部に位置している。第13号住居に掘り込まれ、袖部の下部のみ確認された。確認できる規模は、袖部幅60cm、火床面幅10cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。



第59図 第20号住居跡実測図

**覆土** 3層からなり。ロームブロックや焼土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

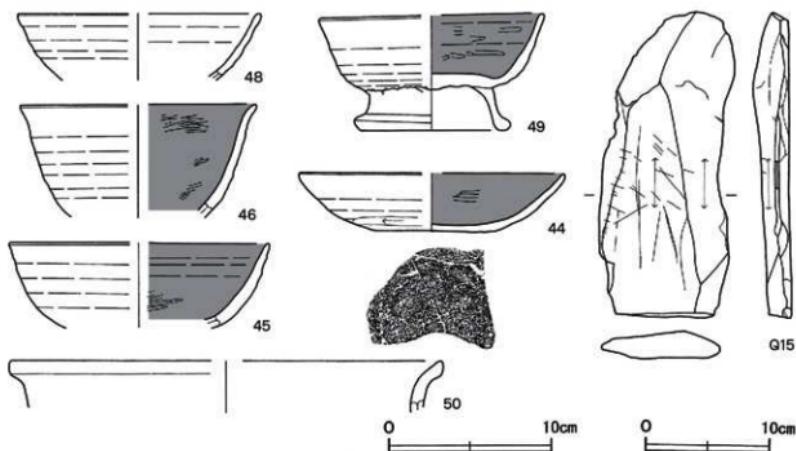
**土層解説**

- |   |     |                    |   |    |                |
|---|-----|--------------------|---|----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色  | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |   |    |                |

**遺物出土状況** 土師器片61点(坏21、高台付掩1、甕39)、須恵器片1点、石器1点(砥石)が出土している。

44・46は竈右側の壁際、45・48は竈の手前のいずれも覆土上層から出土している。49・50は竈内、Q15は南東部床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第60図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
44	土師器	坏	[16.2]	3.6	6.8	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 下邊手持ちヘラ削り 体部内面ヘラ削き後黒色処理 底部回転ヘラ切り 体部内外火熱を受け一部器面剥落 調整不明	覆土上層	20%
48	土師器	坏	[14.8]	(4.0)	—	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面火熱を受け器面剥落	覆土上層	20%
45	土師器	碗	[15.8]	(5.2)	—	石英・長石	橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ削き後黒色処理	覆土上層	40%
46	土師器	碗	[14.4]	(6.9)	—	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ削き後黒色処理	覆土上層	20%
49	土師器	高台付	[13.6]	7.1	8.7	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ削き後黒色処理 高台貼り付け	竈内	50% PL11
50	土師器	甕	[26.4]	(3.2)	—	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面ヨコナデ	竈内	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	砥石	24.9	11.0	2.3	838.0	緑色片岩	砥面は表面2面、側面1面	床面	PL17

### 第22号住居跡（第61図）

**位置** 調査区南部のD 1 g0区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第13・20・23号住居を掘り込んでいる。

**規模と形状** 確認された範囲は長軸1.94m、短軸0.34mで、方形又は長方形と推定され、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は最大25cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 東に緩やかに傾斜している。締まりがなく軟弱である。

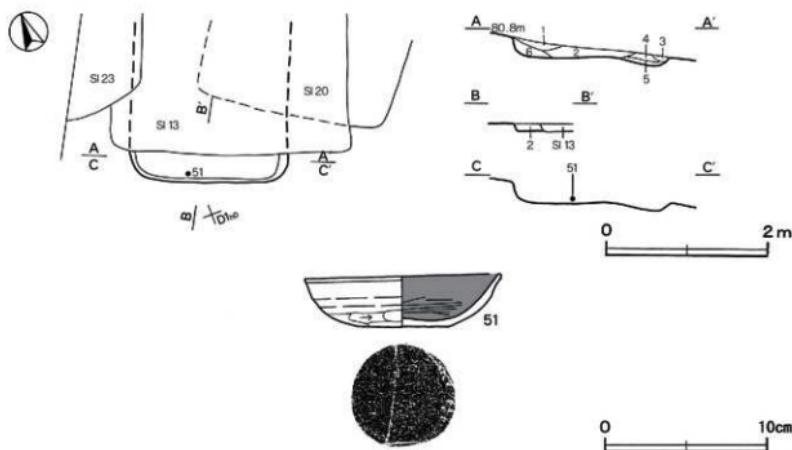
**覆土** 6層からなり、ロームブロックや焼土の不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック、炭化物、焼土粒子微量	4	褐色	ロームブロック、炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック、炭化物、ローム粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子、炭化粒子少量、粘土粒子微量	6	褐色	ロームブロック、炭化物、粘土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片6点（环）が出土している。51は南部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土器から10世紀前半と考えられる。



第61図 第22号住居跡・出土遺物実測図

### 第22号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
51	土師器	环	12.1	3.3	5.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面クロナデ 下端手持ちヘラ削り 体部内面ヘラ削き後黒色処理 底部削輪ヘラ切り後ナデ	覆土下層	90% PLII

### 第23号住居跡（第62図）

**位置** 調査区南部のD 1 g9区で、台地の斜面部に位置している。

**重複関係** 第13・22号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びている。確認された範囲は長軸2.80m、短軸0.80mで、方形又は長方形と

推定され、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は最大30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、縮まりがなく軟弱である。

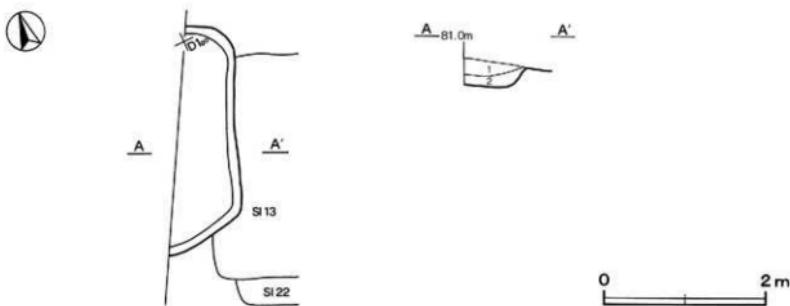
覆土 2層からなり、ロームブロックや炭化物の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 2 黑褐色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量

遺物出土状況 土器片4点(壺1、甕3)が出土している。遺物はすべて細片である。

所見 時期は、出土している土器が細片のため明確ではないが、第13号住居跡を掘り込んでいることから10世紀前半以降と考えられる。



第62図 第23号住居跡実測図

(2) 土坑

第101号土坑 (第63図)

位置 調査区南部のD 2 a1区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第17号住居跡を掘り込んでいる。

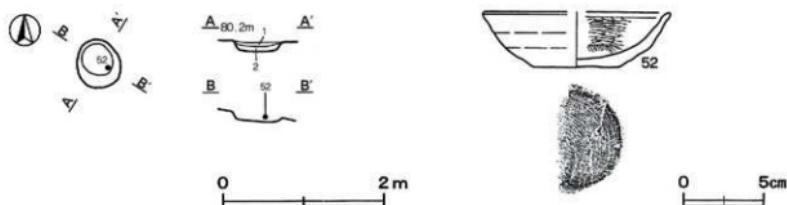
規模と形状 長径0.59m、短径0.55mの円形である。深さは10cmで、底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物微量

2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量



第63図 第101号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片16点（坏2、甕14）が出土している。また、流れ込みと考えられる繩文土器片3点も出土している。52は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。

第101号土坑出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
52	土師器	坏	[11.6]	3.4	[5.4]	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面クロナデ 体部内面ヘラ磨き 底部回転 手切り	覆土上層	50% PL.12

第123号土坑（第64図）

**位置** 調査区南部のD 2 al区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.65m、短径0.46mの楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは20cmで、底面はほぼ平坦で壁は直立している。

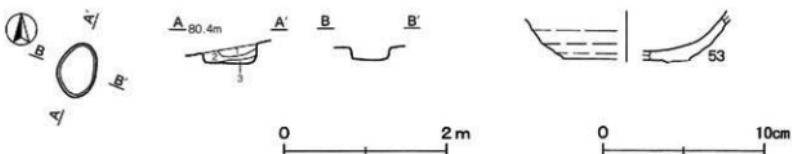
**覆土** 3層からなり、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗赤褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量	3 黒色	燒土粒子微量
2 黒褐色	燒土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片8点（高台付坏1、甕7）が出土している。53は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第64図 第123号土坑・出土遺物実測図

第123号土坑出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
53	土師器	高台付	—	(3.2)	—	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面クロナデ 内面磨滅のため調整不明 胎部剥離	覆土中	15%

表4 平安時代住居跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	幾 條(m) (長軸×短軸)	壁 高(cm)	床 面	壁 溝	内 部 施 設			覆 土	主な出土 遺物	時 期	備 考 (II→新)	
								主軸大	玄入口	ドット	前室大	通			
8	A 3.9	N-49°-W	[方形]	[4.01] × [4.02]	4	—	—	4	—	4	—	1	自然	土師器(环、甕)、石器製品(火鉢)、10世紀前半	
13	D 1.0	N-68°-W	方形	2.98 × 2.78	13	傾斜	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(环、高台付)	SI-OB-71-73-10.30
14	C 2.0	N-74°-W	[方形]	[1.33] × [2.89]	20	平坦	—	—	—	—	—	1	人為	土師器(环、甕)	10世紀前半
17	D 2.2	N-20°-E	[方形]	3.78 × [1.70]	12	傾斜	—	—	—	—	—	1	人為	土師器(环、高台付)	10世紀前半
20	D 1.0	N-34°-E	方形	2.48 × 2.17	12	平坦	—	—	—	—	—	1	人為	土師器(环、高台付)	10世紀前半
22	D 1.0	N-24°-E	[方形]	1.94 × [0.34]	25	傾斜	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(环)	SI-22→SI-13→SI-20-23
23	D 1.0	N-24°-E	[方形]	2.80 × [0.80]	30	平坦	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(环、甕)	10世紀前半
														SI-22→SI-13→本跡	

表5 平安時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考
				長径(輪)×短径(輪)(m)	深さ(cm)					
101	D 2 a1	—	円形	0.59×0.55	10	緩斜	平坦	自然	土器類(壺、甌)	新田開発(旧→新)
123	D 2 a1	N-20°-W	椭円形	0.65×0.46	20	垂直	平坦	自然	土器類(高台付陶、甌)	SI17→本跡

## 3 時期不明の遺構と遺物

今回の調査で確認された遺構は、時期不明の竪穴住居跡2軒、土坑92基、溝8条、不明遺構1基である。

遺構は調査区域内の全域に点在している。以下確認された遺構の特徴と遺物について記述する。

## (1) 竪穴住居跡

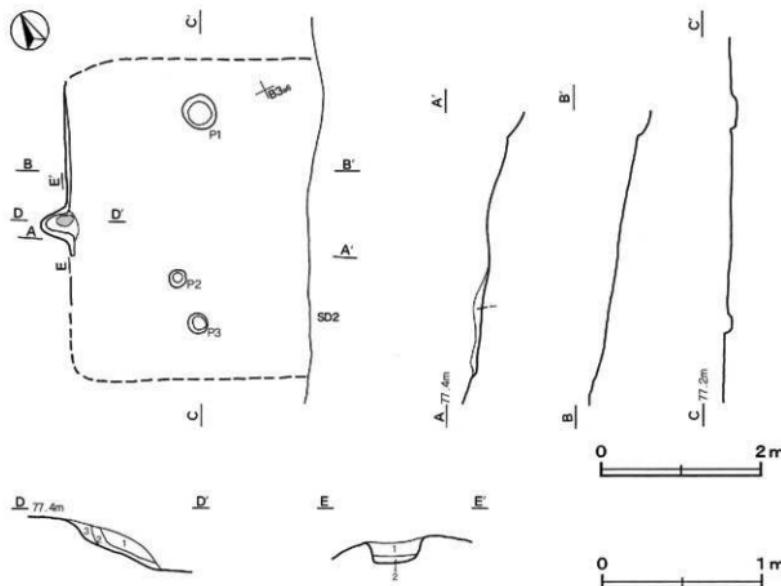
## 第6号住居跡（第65図）

位置 調査区北部のB3a5区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認されたのは長軸2.95m、短軸3.97mで、方形と推定される。主軸方向はN-65°-Wである。壁高は最大4cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認できなかった。

床 東側にかけてはやや傾斜している。締まりがなく軟弱である。



第65図 第6号住居跡実測図

**竈** 西壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで48cmである。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面は焼土・炭化粒子が確認できる程度で硬化はしていない。煙道部は壁外に37cm三角形状に掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

- 1 無 色 烧土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 烧土粒子多量

- 3 暗赤褐色 烧土ブロック微量

**ピット** 3か所。P1は径が50cm、深さ8cmで性格は不明である。P2・P3は深さ14~25cmで、規模と配置から柱穴であると考えられる。

**覆土** 単一層で、覆土が薄いため堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 流れ込みと考えられる繩文土器片15点（胴部）が出土している。

**所見** 本跡に伴う出土土器はなく、竈があることから古墳時代後期以降と考えられる。

### 第18号住居跡（第66図）

**位置** 調査区南部のD2j3区で、台地の斜面部に位置している。

**規模と形状** 残存しているのは竈と北側の壁のみである。確認されたのは長軸1.40m、短軸1.96mで、方形と推定される。主軸方向はN-25°-Eである。壁高は最大25cmで、外傾して立ち上がっている。東部は削平されており、確認できなかった。

**床** 平坦で、縮まりがなく軟弱である。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで90cmである。火床部は床面を浅く掘りくぼめ、火床面は赤変しているが硬化はしていない。煙道部は壁外へ60cm三角形状に掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

#### 竈土層解説

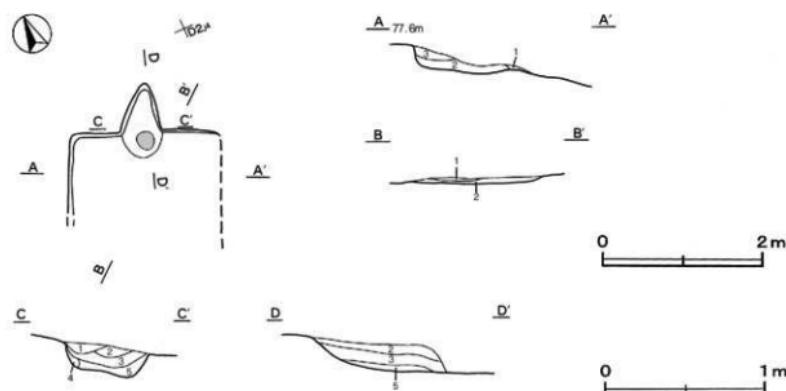
- 1 暗赤褐色 烧土ブロック・炭化物・ローム粒子微量

- 2 暗赤褐色 烧土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

- 3 暗赤褐色 烧土ブロック微量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量

- 4 無 色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量

- 5 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量



第66図 第18号住居跡実測図

**覆土** 3層からなり。ロームブロックや炭化粒子の堆積状況から人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 流れ込みと考えられる縄文土器片11点が出土している。

**所見** 本跡に伴う出土土器はなく、竈があることから古墳時代後期とを考えられる。

表6 時期不明住居跡一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	幅(長軸×短軸)	奥高(cm)	床面	壁構	内 部 施 設	覆土	主な出土遺物	時 期	備 ( 旧 → 新 )
6	B 3 a5	N - 65° - W	[方形]	(2.95) × [3.97]	4	平坦	—	—	3	—	1	—
18	D 2 j3	N - 25° - E	[方形]	(1.40) × [1.96]	25	平坦	—	—	—	—	1	—

(2) 土坑

時期及び性格不明の土坑を、実測図（第67～73図）及び一覧表で掲載する。

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 4 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第24号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 桃褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

- 2 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

- 3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第28号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 2 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

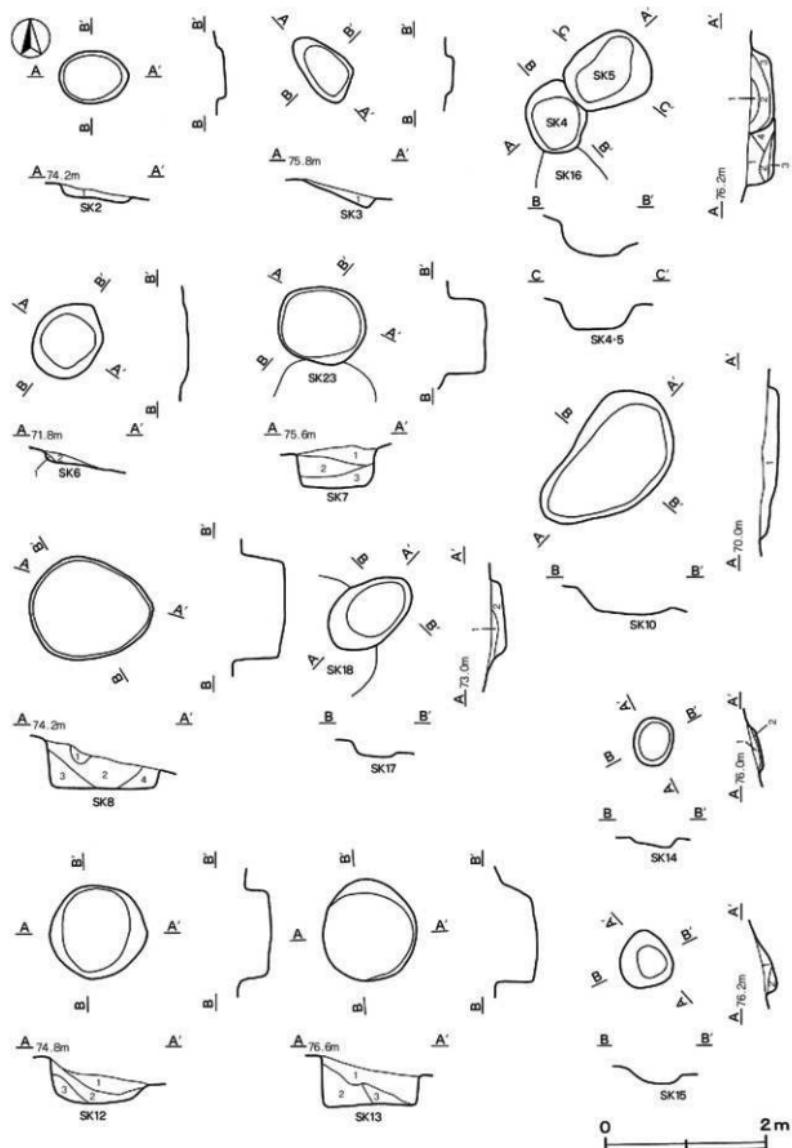
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第30号土坑土層解説

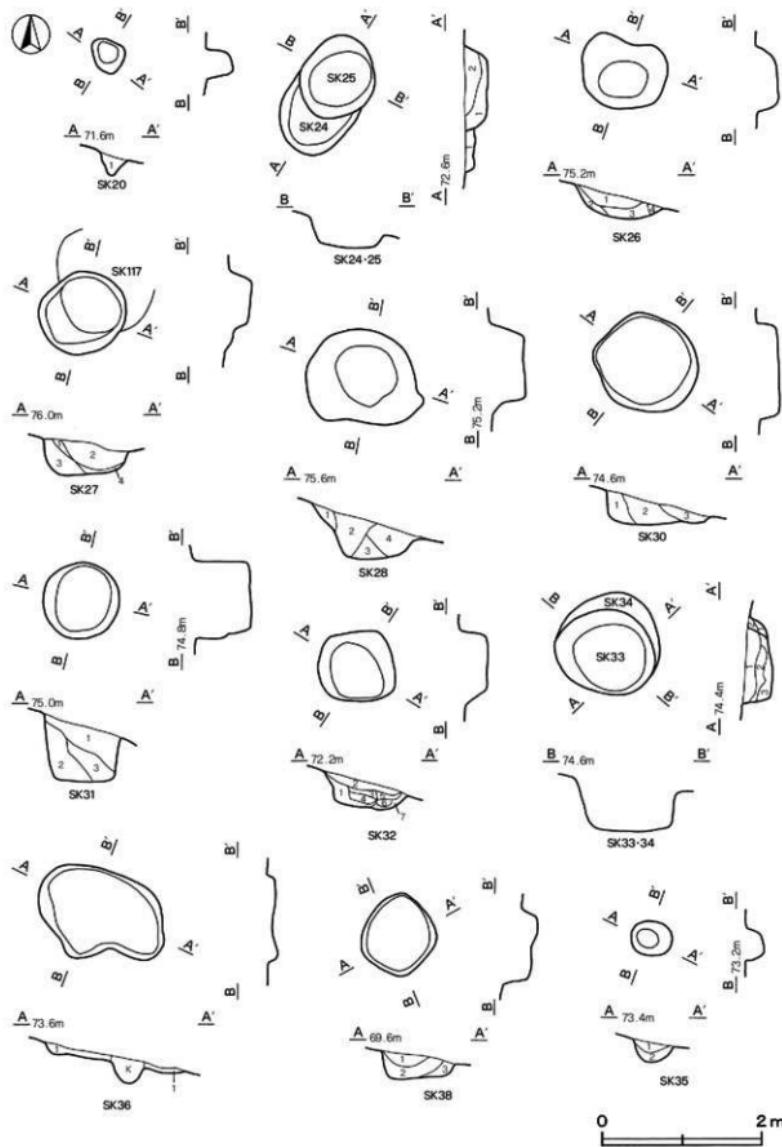
- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量

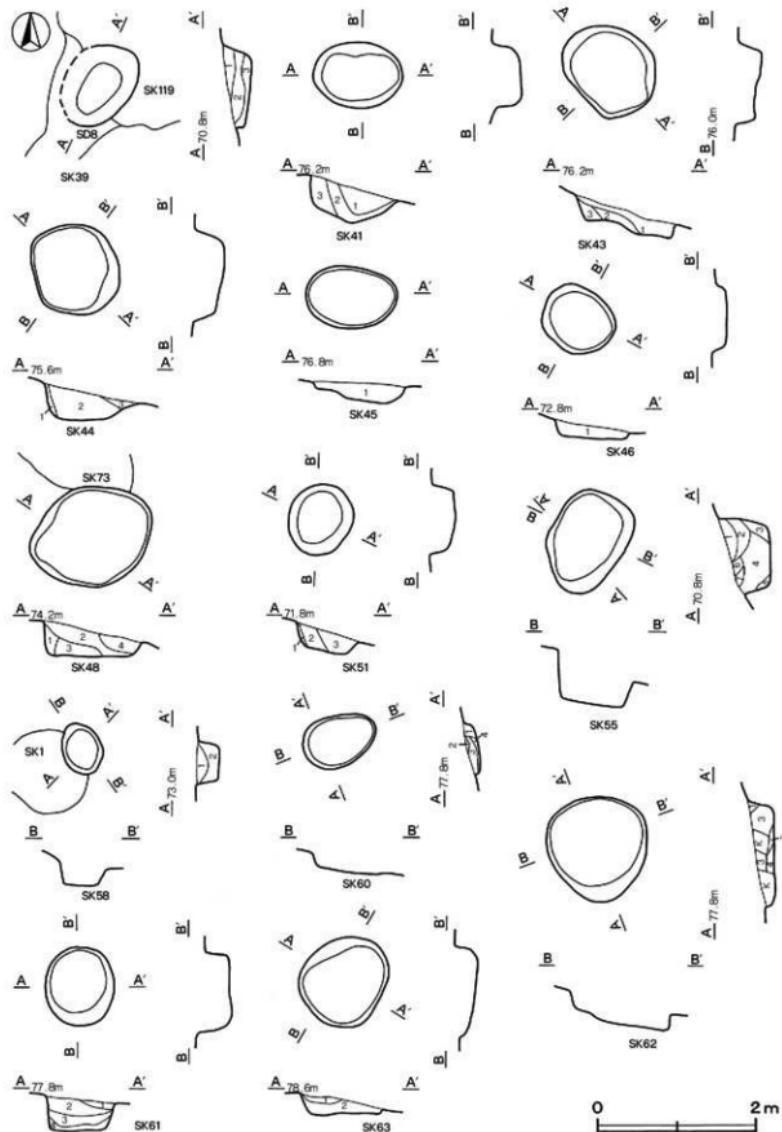
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



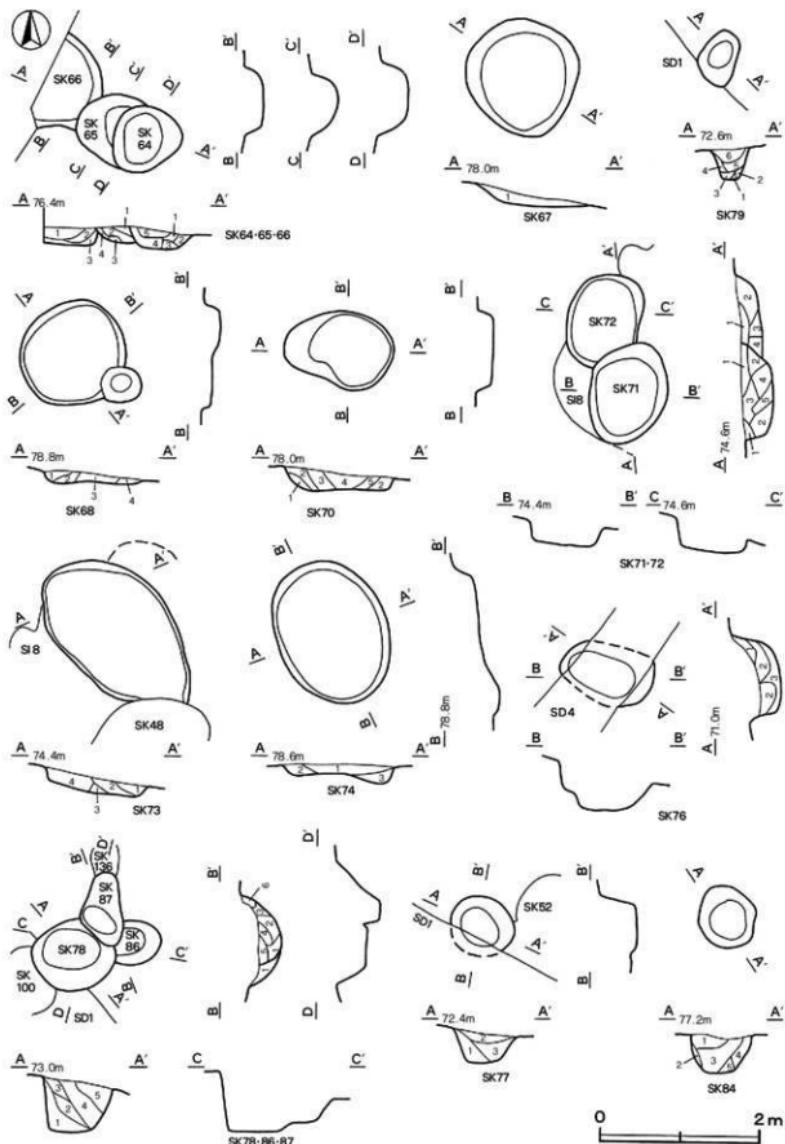
第67図 時期不明土坑実測図(1)



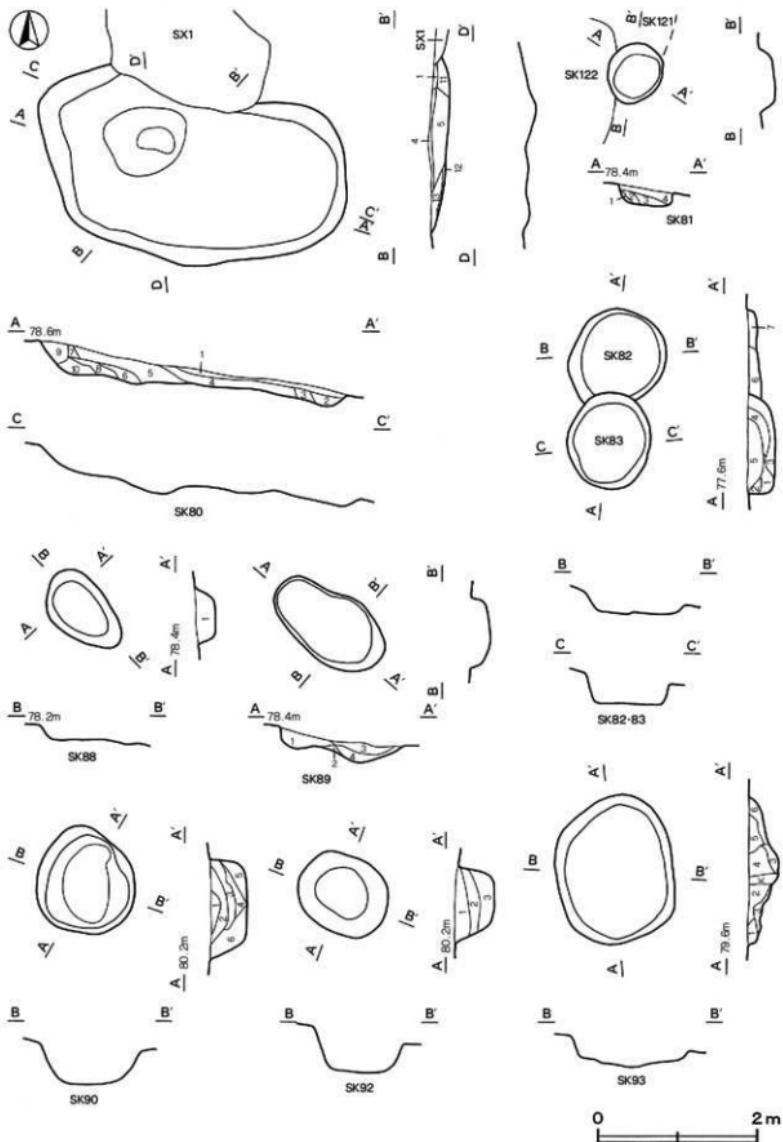
第68図 時期不明土坑実測図(2)



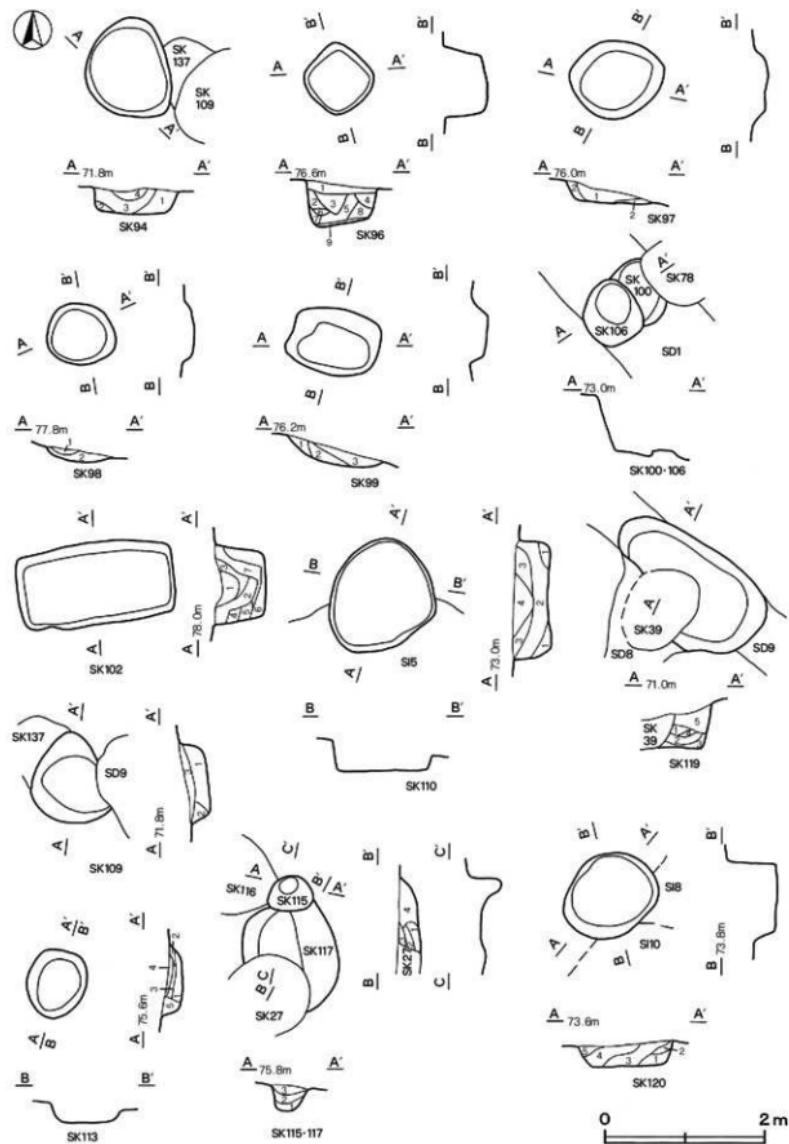
第69図 時期不明土坑実測図(3)



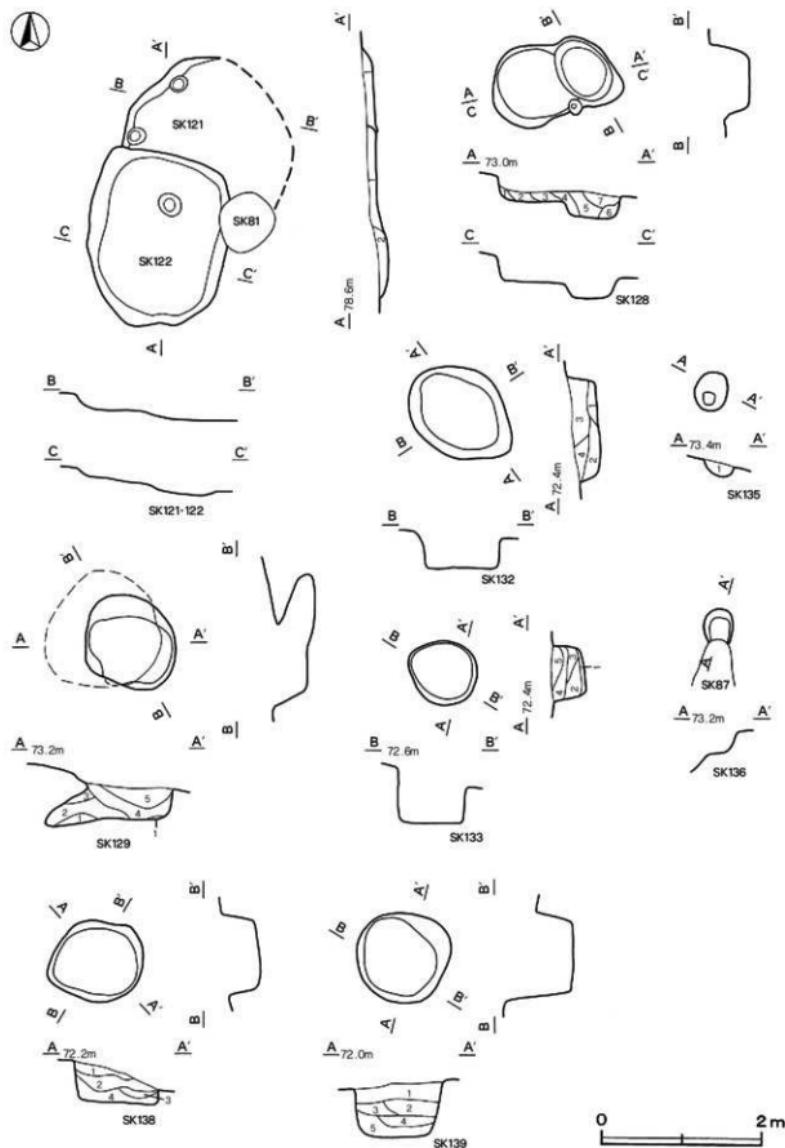
第70図 時期不明土坑実測図(4)



第71図 時期不明土坑実測図(5)



第72図 時期不明土坑実測図(6)



第73図 時期不明土坑実測図(7)

### 第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ローム粒子少量・炭化物微量

### 第32号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量  
5 暗褐色 烧土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量  
6 黑褐色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量  
7 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

### 第33号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量  
2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ローム中ブロック微量

### 第34号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第35号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第36号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

### 第38号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量  
2 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量

### 第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量

### 第41号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

### 第43号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量・燒土粒子微量  
3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第44号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

### 第46号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量

### 第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量

### 第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子少量・炭化物・燒土粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第55号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子少量・ローム粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
4 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
5 暗褐色 ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量  
6 極暗褐色 ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量  
7 暗褐色 ロームブロック微量

### 第58号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量

### 第60号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

### 第61号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ローム粒子微量  
3 黑褐色 ローム粒子少量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

### 第62号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量

### 第63号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量

### 第64号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化物・ローム粒子微量  
2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 極暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量  
4 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

### 第66号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
3 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

### 第67号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック微量  
3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
4 海褐色 ロームブロック微量

### 第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
4 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第71号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
5 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量

### 第72号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化物・燒土ブロック微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

### 第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
4 黑褐色 燃土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第74号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ローム粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量

#### 第76号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック少量  
3 黑褐色 ロームブロック微量

#### 第77号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第78号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 海褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量  
4 暗褐色 土物・ロームブロック微量  
5 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第79号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ローム粒子微量  
3 楊暗褐色 ロームブロック微量  
4 楊暗褐色 ローム粒子微量  
5 暗褐色 ロームブロック微量  
6 暗褐色 ローム粒子微量

#### 第80号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
3 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
4 黑褐色 ローム粒子少量  
5 暗褐色 ローム粒子少量  
6 褐褐色 砂粒少量・ローム粒子微量  
7 暗褐色 ロームブロック少量  
8 暗褐色 ローム粒子少量  
9 褐褐色 ロームブロック・砂粒微量  
10 暗褐色 ロームブロック微量  
11 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
12 暗褐色 土物・炭化粒子微量  
13 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第81号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第82・83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 烧土粒子中量・ローム粒子微量  
2 褐褐色 ロームブロック微量  
3 褐褐色 ローム粒子少量・粘土ブロック微量  
4 褐褐色 ローム粒子・烧土粒子微量  
5 褐褐色 ローム粒子少量・烧土粒子・炭化粒子微量  
6 褐褐色 ローム粒子少量  
7 褐褐色 ローム粒子微量

#### 第84号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 黑褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 ローム粒子少量  
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

#### 第85号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

#### 第87号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 ロームブロック微量  
5 黑褐色 ローム粒子少量  
6 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第88号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

#### 第89号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 黑褐色 ローム粒子少量  
4 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第90号土坑土層解説

- 1 海褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量  
3 海褐色 ローム粒子少量  
4 黑褐色 ロームブロック微量  
5 暗褐色 ロームブロック微量  
6 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第92号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量

#### 第93号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量  
3 海褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量  
5 黑褐色 ロームブロック微量  
6 海褐色 ロームブロック微量・炭化粒子微量

#### 第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ローム粒子微量  
3 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
4 暗褐色 ローム粒子微量

#### 第96号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量・炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
5 黑褐色 ロームブロック微量  
6 暗褐色 ロームブロック微量  
7 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量  
8 黑褐色 ローム粒子微量  
9 海褐色 ロームブロック微量

#### 第97号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子中量・ローム粒子・燒土粒子微量  
2 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック・燒土ブロック微量

#### 第98号土坑土層解説

- 1 黑褐色 炭化粒子中量・ロームブロック微量  
2 黑褐色 炭化粒子少量・ロームブロック微量

#### 第99号土坑土層解説

- 1 海褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 海褐色 ロームブロック微量・炭化物微量

#### 第102号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量  
2 黑褐色 ロームブロック微量  
3 黑褐色 ローム粒子微量  
4 黑褐色 ロームブロック微量  
5 黑褐色 ロームブロック微量  
6 黑褐色 ローム粒子少量  
7 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量

#### 第109号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
2 楊暗褐色 ロームブロック少量  
3 黑褐色 ローム粒子微量

#### 第110号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量  
2 黑褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック微量  
4 黑褐色 ローム粒子微量

**第113号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック微量  
 5 黒褐色 ローム粒子微量

**第115号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量  
 2 極暗褐色 ロームブロック微量  
 3 極暗褐色 ローム粒子微量

**第117号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化物・燒土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 3 黑褐色 ロームブロック微量  
 4 暗褐色 ローム粒子・燒土粒子微量

**第119号土坑土層解説**

- 1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 3 褐色 ロームブロック微量  
 4 暗褐色 ローム粒子微量  
 5 黑褐色 ローム粒子微量

**第120号土坑土層解説**

- 1 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
 2 褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム中ブロック・炭化物微量  
 4 黑褐色 ローム粒子微量  
 5 黑褐色 ローム粒子・燒土ブロック・炭化物微量

**第121号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック微量

**第122号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック微量

**第126号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子少量  
 4 暗褐色 ロームブロック微量  
 5 暗褐色 ローム粒子微量  
 6 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
 7 暗褐色 ロームブロック微量

**第129号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
 2 黑褐色 ロームブロック少量  
 3 黑褐色 ロームブロック微量  
 4 黑褐色 ローム粒子微量  
 5 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第132号土坑土層解説**

- 1 黑褐色 ロームブロック少量・燒土粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック微量  
 3 黑褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量・燒土粒子微量

**第133号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量  
 2 黑褐色 ローム粒子微量  
 3 黑褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子微量  
 5 暗褐色 燃土ブロック・ローム粒子微量

**第135号土坑土層解説**

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量

**第138号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 4 褐色 ロームブロック微量

**第139号土坑土層解説**

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化物微量  
 2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック少量  
 5 黑褐色 ロームブロック微量

表7 時期不明土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(輪)×短径(輪)(m)	深さ(cm)					
2	B 3 a9	N - 85° - E	椭円形	0.87 × 0.52	12	外傾	平坦	自然	—	
3	B 3 d6	N - 48° - W	椭円形	0.89 × 0.50	15	縱斜	平坦	自然	—	
4	B 3 b7	N - 0°	【椭円形】	0.84 × (0.75)	32	外傾	平坦	人為	織文土器	SK16 → 本跡 → SK5
5	B 3 b7	N - 58° - E	椭円形	1.10 × 0.88	28	縱斜	平坦	自然	—	SK4 → 本跡
6	B 4 c1	N - 37° - E	椭円形	1.00 × 0.81	11	縱斜	平坦	自然	織文土器	
7	B 3 b7	N - 79° - W	椭円形	1.09 × 0.87	49	垂直	平坦	自然	織文土器、土師器	SK23 → 本跡
8	B 3 b9	N - 88° - E	椭円形	1.51 × 1.26	60	外傾	平坦	自然	—	
10	B 4 b5	N - 46° - E	椭円形	1.98 × 1.13	24	縱斜	平坦	人為	織文土器	
12	B 3 b9	—	円形	1.23 × 1.15	35	縱斜	平坦	自然	織文土器	
13	B 3 a6	—	円形	1.24 × 1.15	62	垂直	平坦	自然	織文土器	
14	B 3 c6	N - 13° - E	椭円形	0.69 × 0.47	10	縱斜	平坦	自然	—	
15	B 3 c6	N - 19° - W	椭円形	0.80 × 0.64	15	縱斜	平坦	人為	—	
17	B 3 c9	N - 52° - E	椭円形	1.18 × 0.78	18	縱斜	平坦	人為	—	SK18 → 本跡
20	B 4 c1	N - 52° - W	椭円形	0.44 × 0.38	35	外傾	圓状	自然	織文土器	
24	A 4 j1	N - 32° - E	【椭円形】	0.90 × (0.50)	13	外傾	平坦	自然	—	本跡 → SK25

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 道 物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(輪)×短径(輪)(m)	深さ(cm)					
25	A 4 j1	N - 12° - E	楕円形	1.06 × 0.94	30	外輪	平坦	自然	織文土器	SK24 → 本跡
26	A 3 j8	N - 77° - W	不定形	1.07 × 0.84	27	外輪	平坦	人為	—	
27	A 3 j7	N - 60° - E	楕円形	1.11 × 0.97	43	外輪	平坦	人為	織文土器	SK117 → 本跡
28	A 3 j8	N - 69° - W	楕円形	1.48 × 1.15	52	外輪	平坦	人為	織文土器	
30	B 3 c8	—	円形	1.26 × 1.20	35	垂直	平坦	人為	織文土器、土師器	
31	B 3 a8	—	円形	0.95 × 0.94	69	垂直	平坦	人為	織文土器	
32	B 4 b1	—	円形	0.93 × 0.87	35	外輪	平坦	人為	織文土器	
33	B 3 a8	N - 75° - W	楕円形	1.29 × 1.03	36	外輪	平坦	自然	織文土器	SK34 → 本跡
34	B 3 a8	—	円形	1.30 × 1.30	20	外輪	平坦	自然	—	本跡 → SK33
35	A 3 j0	N - 0°	楕円形	0.49 × 0.44	24	外輪	圓状	自然	織文土器	
36	A 3 j0	N - 67° - W	不定形	1.67 × 1.18	30	外輪	凹凸	自然	織文土器	
38	B 4 b5	N - 9° - E	楕円形	1.03 × 0.91	32	外輪	凹凸	自然	織文土器	
39	B 4 a3	N - 39° - E	楕円形	1.14 × 0.81	60	縦斜	平坦	自然	織文土器	SD9 → SD8 → SK119 → 本跡
41	B 3 c6	N - 3° - W	楕円形	1.10 × 0.81	50	外輪	圓状	自然	—	
43	B 3 d6	N - 46° - W	楕円形	1.25 × 1.10	30	外輪	平坦	自然	織文土器、土師器	
44	B 3 d6	—	円形	1.22 × 1.12	40	外輪	平坦	人為	織文土器、土師器	
45	B 3 d6	N - 88° - E	楕円形	1.15 × 0.78	26	外輪	平坦	自然	織文土器、土師器	
46	B 4 a1	N - 50° - W	楕円形	0.93 × 0.80	20	外輪	平坦	自然	—	
48	A 3 j9	N - 71° - E	楕円形	1.60 × 1.27	42	外輪	平坦	自然	織文土器、土師器	SI 8 → SK73 → 本跡
51	B 4 b1	N - 25° - E	楕円形	0.93 × 0.70	25	外輪	平坦	自然	織文土器	
55	B 4 d1	N - 31° - E	楕円形	1.38 × 0.93	59	外輪	平坦	自然	織文土器、土師器	
58	B 3 c0	N - 44° - W	楕円形	0.59 × 0.48	30	外輪	平坦	自然	—	SK 1 → 本跡
60	B 3 a4	N - 70° - E	楕円形	0.93 × 0.64	17	外輪	平坦	自然	—	
61	A 3 j5	N - 7° - W	楕円形	0.97 × 0.87	43	外輪	平坦	自然	—	
62	B 3 a4	—	円形	0.66 × 0.61	28	外輪	平坦	人為	織文土器	
63	B 3 b3	N - 37° - E	楕円形	1.19 × 1.01	30	縦斜	平坦	人為	織文土器	
64	A 3 j6	N - 28° - E	楕円形	0.88 × 0.82	35	外輪	平坦	人為	織文土器	SK65 → 本跡
65	A 3 j6	N - 66° - W	〔楕円形〕	0.88 × (0.47)	33	外輪	圓状	人為	—	SK66 → 本跡 → SK64
66	A 3 j6	N - 20° - E	〔楕円形〕	1.17 × (0.75)	24	外輪	平坦	自然	—	本跡 → SK65
67	B 3 b4	—	円形	1.35 × 1.32	13	縦斜	圓状	自然	土師器	
68	B 3 b2	N - 60° - W	不定形	1.60 × 1.35	18	外輪	平坦	自然	—	
70	A 3 j4	N - 86° - E	不整椭円形	1.37 × 0.99	26	外輪	平坦	自然	—	
71	A 3 j9	N - 16° - E	楕円形	1.34 × 0.95	38	外輪	平坦	自然	織文土器	SI 8 → SK72 → 本跡
72	A 3 j9	N - 26° - E	楕円形	1.20 × 0.90	35	外輪	平坦	人為	織文土器	SI 8 → 本跡 → SK71
73	A 3 j9	N - 46° - W	楕円形	2.32 × 1.34	20	外輪	平坦	自然	—	SI 8 → 本跡 → SK48
74	B 3 c3	N - 26° - W	楕円形	1.80 × 1.40	—	—	—	—	織文土器	
76	B 4 c1	N - 70° - W	〔楕円形〕	1.14 × [0.75]	50	外輪	圓状	人為	織文土器	本跡 → SD4
77	B 4 a1	N - 65° - W	〔楕円形〕	0.75 × (0.59)	26	外輪	平坦	自然	織文土器	SK52 → 本跡 → SD1
78	A 3 j0	N - 83° - W	楕円形	1.03 × 0.90	66	外輪	平坦	人為	織文土器	SD1 → SK86-100 → 本跡 → SK87
79	A 3 j0	N - 34° - E	楕円形	0.65 × 0.48	38	外輪	平坦	人為	—	SD1 → 本跡
80	B 3 c3	N - 84° - W	〔溝丸長方形〕	3.80 × (1.95)	22	縦斜	平坦	人為	織文土器	本跡 → SX 1
81	D 2 b4	N - 12° - E	楕円形	0.79 × 0.68	19	外輪	平坦	人為	織文土器	SK121 → SK122 → 本跡
82	D 2 g5	N - 39° - E	楕円形	1.32 × 1.14	20	外輪	平坦	人為	織文土器	本跡 → SK63
83	D 2 h5	N - 7° - E	楕円形	1.20 × 1.04	34	外輪	凹凸	人為	織文土器	SK82 → 本跡
84	D 2 i5	—	円形	0.81 × 0.77	46	外輪	平坦	人為	—	
86	A 3 j0	N - 81° - E	〔楕円形〕	(0.58) × 0.54	48	縦斜	圓状	人為	—	本跡 → SK78 → SK87

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径(輪)×短径(輪)(m)	深さ(cm)					
87	A 3 j0	N - 2° - W	不定形	0.87 × 0.52	73	外傾	平坦	人為	織文土器	SK86 → SK78 → 本跡
88	C 2 h5	N - 43° - W	椭円形	1.17 × 0.70	25	縦斜	平坦	自然	—	—
89	C 2 h5	N - 57° - W	椭円形	1.55 × 0.88	26	外傾	平坦	人為	—	—
90	C 2 h4	N - 16° - W	椭円形	1.38 × 1.15	46	外傾	圓状	人為	—	—
92	C 2 h4	N - 58° - W	椭円形	1.14 × 0.95	48	外傾	平坦	自然	—	—
93	D 2 c3	N - 11° - E	椭円形	1.88 × 1.50	39	外傾	凹凸	人為	—	—
94	A 4 j2	N - 7° - E	椭円形	1.22 × 1.06	30	外傾	平坦	人為	織文土器	SI4 → SK137 → 本跡
96	E 2 a4	N - 43° - W	方形	0.80 × 0.79	55	外傾	平坦	自然	織文土器	—
97	D 2 c7	N - 70° - E	椭円形	1.14 × 0.96	20	縦斜	平坦	自然	織文土器	—
98	D 2 c6	N - 73° - W	椭円形	0.87 × 0.77	12	縦斜	圓状	自然	—	—
99	D 2 c7	N - 71° - W	椭円形	1.09 × 0.85	22	縦斜	圓状	自然	—	—
100	A 3 j0	—	—	0.82 × (0.25)	55	—	—	—	—	SD1 → 本跡 → SK78 · 106
102	D 2 c6	N - 85° - E	長方形	1.95 × 1.02	62	外傾	平坦	人為	—	—
106	A 3 j0	N - 23° - W	椭円形	0.79 × 0.70	64	外傾	平坦	—	—	SD1 → SK100 → 本跡
109	B 4 a2	N - 4° - E	【椭円形】	1.14 × (0.86)	34	縦斜	平坦	人為	織文土器	SK137 → 本跡 → SD9
110	B 3 a0	N - 33° - E	椭円形	1.47 × 1.28	45	垂直	平坦	人為	—	SI5 → 本跡
113	A 3 i8	N - 19° - E	椭円形	0.85 × 0.75	24	外傾	平坦	人為	織文土器	—
115	A 3 j7	N - 54° - E	不定形	0.54 × 0.50	40	外傾	圓状	自然	—	SK116 · 117 → 本跡
117	A 3 j7	N - 15° - W	【椭円形】	(1.35) × 1.20	29	外傾	平坦	人為	織文土器	本跡 → SK27 · 115
119	B 4 a3	N - 53° - W	【椭円形】	(2.03) × 1.20	—	—	—	—	—	SD9 → SD8 → 本跡 → SK39
120	A 3 j9	N - 53° - E	椭円形	1.19 × 1.00	59	垂直	平坦	人為	織文土器	SI10 → 本跡 → SI8
121	D 2 g3	N - 39° - E	【椭円形】	[2.14] × [1.25]	27	縦斜	平坦	自然	土師器	本跡 → SK122 → SK81
122	D 2 h3	N - 15° - E	隅丸長方形	2.20 × 1.73	35	縦斜	平坦	自然	—	SK121 → 本跡 → SK81
128	A 4 j1	N - 68° - E	不定形	1.50 × 0.95	45	垂直	凹凸	人為	織文土器	—
129	A 4 j1	N - 53° - W	不定形	1.53 × 1.50	40	外傾	平坦	人為	織文土器	—
132	A 4 j1	N - 56° - W	椭円形	1.46 × 1.09	44	垂直	平坦	人為	織文土器	—
133	A 4 i3	N - 69° - W	椭円形	0.87 × 0.78	43	外傾	平坦	人為	織文土器	—
135	A 3 j0	N - 2° - E	椭円形	0.48 × 0.40	18	外傾	圓状	自然	—	—
136	A 3 j0	N - 2° - E	【椭円形】	(0.38) × 0.34	30	外傾	平坦	—	—	本跡 → SK87
138	B 4 a2	N - 67° - E	椭円形	1.28 × 1.02	48	垂直	平坦	自然	—	—
139	B 4 c1	—	円形	1.18 × 1.17	76	垂直	平坦	人為	—	—

### (3) 溝 跡

当遺跡で最も規模の大きな第2号溝について特徴と遺物について記載する。その他の溝については、第75 · 76図、付図と土層解説及び一覧表で示す。

#### 第2号溝跡（第74図）

位置 調査区北部で、B 3 e4区～A 3 h7～A 4 j2に位置している。

重複関係 第3 · 6 · 7号住居跡、第66号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北方向(N - 23° - E)に直線的に38.5m延び、東西方向(N - 69° - W)に直角に曲がり22.5m延びている。規模は上幅46~90cm、下幅15~45cm、深さ15~52cmで、断面形は緩やかなU字状を呈している。底面は所々岩肌が見えており、壁は外傾して立ち上がっている。確認された長さは約61mで、調査区域外へ延びている。

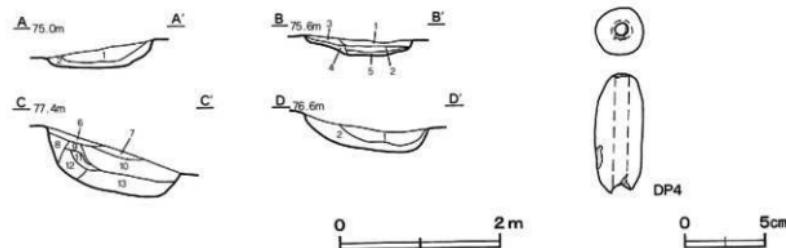
覆土 13層からなり。ロームブロックを含み不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説 (A~D)

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・白色粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子・粘土ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・砂粒微量	9	黒褐色	炭化物
3	褐色	ロームブロック・炭化物微量	10	黒褐色	炭化物・燒土粒子・砂粒微量
4	黒褐色	ローム粒子・難少量	11	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量
5	黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	12	黒褐色	砂粒少量、粘土粒子微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	13	黒褐色	砂粒少量、粘土ブロック微量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 流れ込みと考えられる縄文土器片300点(口縁部16、胴部280、底部4)、土師器片19点(环4、壳15)、土製品1(土錐)が出土している。DP4は南西部の覆土中から出土している。

所見 第6号住居跡を掘り込んでいることから、時期は古墳後期以降と考えられる。



第74図 第2号溝跡・出土遺物実測図

第2号溝跡出土遺物観察表(第74図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	管状土錐	7.4	3.1	2.9	625	土製	棒状の物に巻き付けて焼かれたと思われる抜き取り痕を確認。表面は無文である。	覆土中	PL14

その他の溝跡(第75図)

第1号溝跡土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック微量
3	褐色	ロームブロック少量

第4号溝跡土層解説

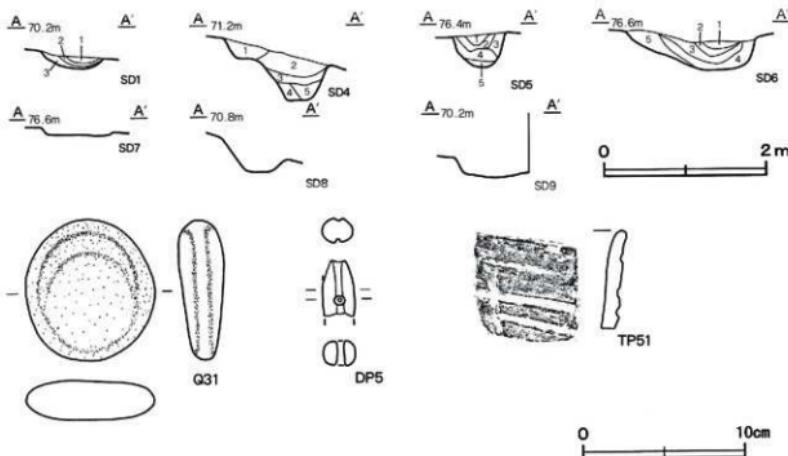
1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量

第5号溝跡土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子微量

第6号溝跡土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子微量



第75図 その他の溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q31	磨石	8.7	8.0	2.4	226.0	砂岩	表面を研削に使用	覆土中	PL17

第7号溝跡出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	文様および手法の特徴	出土位置	備考
DP5	有孔土錐	(3.5)	2.0	1.5	11.0	土製	長軸方向に溝を造らせ、中央部を穿孔している	覆土中	PL14

第8号溝跡出土遺物観察表（第75図）

番号	器種	動土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
TP51	繩文土器	深鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通 口縁部に平行して3本の沈線を施している。地文は無文である。	覆土中	PL13 流れ込み

表8 溝跡一覧表

番号	位置	走行方向	規 模			壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	時 期	備 考	
			長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)							
1	A3 jo ~ B4 b3 -A4 j2	N - 62° ~ W N - 69° ~ W	(17.6)	38 ~ 60	8 ~ 20	5 ~ 28	U字状	弧状	人為	繩文土器片	10世紀以降	SI 7 ~ 8 - 19, SK32 - 77, SD4 → 本跡 → SK78 - 79, 100 - 106 - 112
2	B3 el ~ A3 m7	N - 23° ~ E N - 69° ~ W	(51.2)	46 ~ 90	15 ~ 45	15 ~ 52	U字状	弧状	人為	繩文土器片、土師器、土製品	古墳後期以降	SI3-7 → SI6 → 本跡 → SK66
4	B4 d2 ~ B3 g6	N - 40° ~ E	22.0	28 ~ 74	8 ~ 20	19 ~ 75	U字状	弧状	人為	繩文土器片	不明	SK76 → 本跡
5	C2 B ~ D2 g6	N - 20° ~ E	5.6	38 ~ 60	8 ~ 20	5 ~ 28	U字状	弧状	人為	—	不明	
6	C2 B ~ D2 g6	N - 20° ~ E	7.6	38 ~ 60	8 ~ 20	5 ~ 28	U字状	弧状	人為	繩文土器片	不明	
7	C2 g7 ~ C2 g7	N - 10° ~ E	(1.4)	34 ~ 48	28 ~ 32	8 ~ 23	U字状	弧状	人為	土製品	不明	
8	B4 a3	N - 40° ~ E	(1.8)	20 ~ 30	15 ~ 23	20 ~ 30	逆台形型	平坦	人為	繩文土器片、土師器	不明	SD9 → 本跡 → SK39 - 119
9	B4 a3	N - 40° ~ W	3.5	40 ~ 60	25 ~ 45	20 ~ 30	逆台形型	平坦	人為	繩文土器片	不明	本跡 → SD8 → SK39 - 109 - 119

(4) 不明遺構

第1号不明遺構（第76図）

位置 調査区北部のA3g0区で、台地の斜面部に位置している。

重複関係 第80号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.28m、短径1.48mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。壁高は最大18cmで、外傾して立ち上がっている。底面は所々岩肌が見えており、東方向に向かって傾斜している。

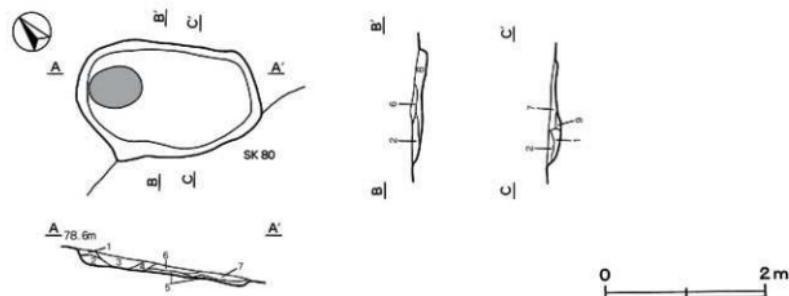
炉 北東よりに位置している。長径66cm、短径56cmの楕円形で、地床炉である。長径方向は、N-62°-Wである。

覆土 9層からなり、焼土の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

所見 時期は、出土器もなく不明である。炉があることから生活に伴う煮炊き等を行う場所であったと考えられる。



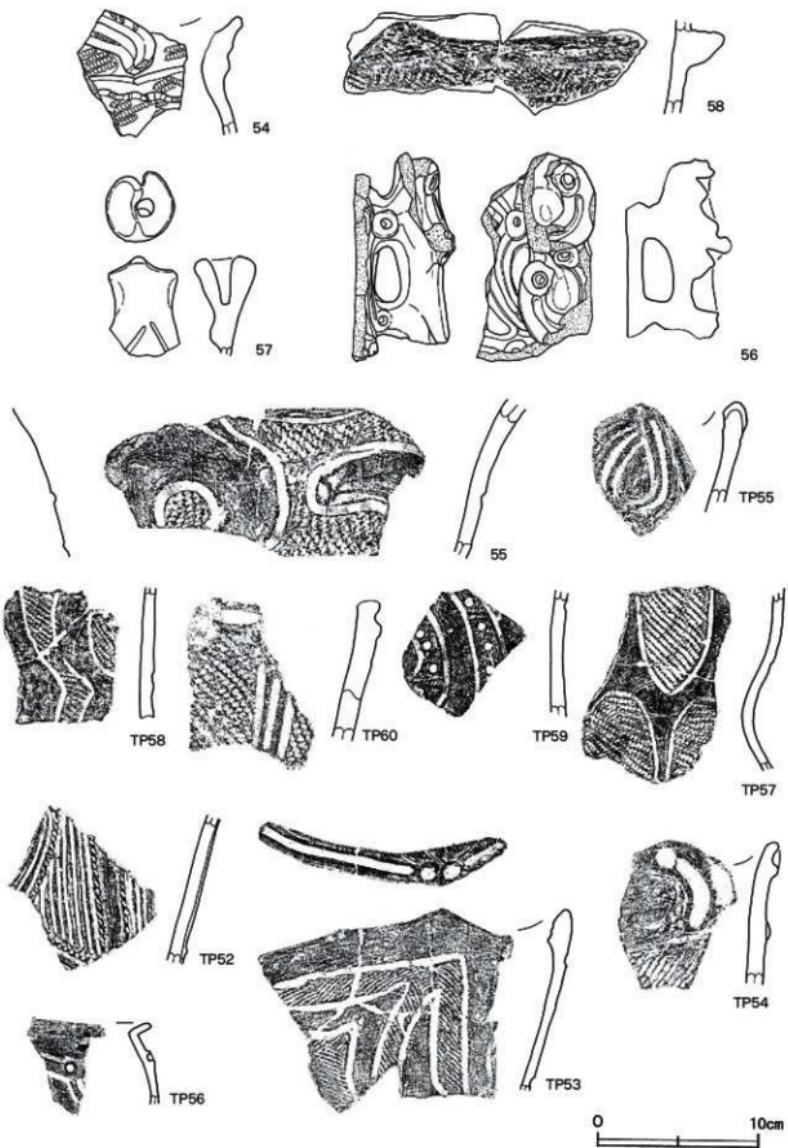
第76図 第1号不明遺構実測図

表9 不明遺構一覧表

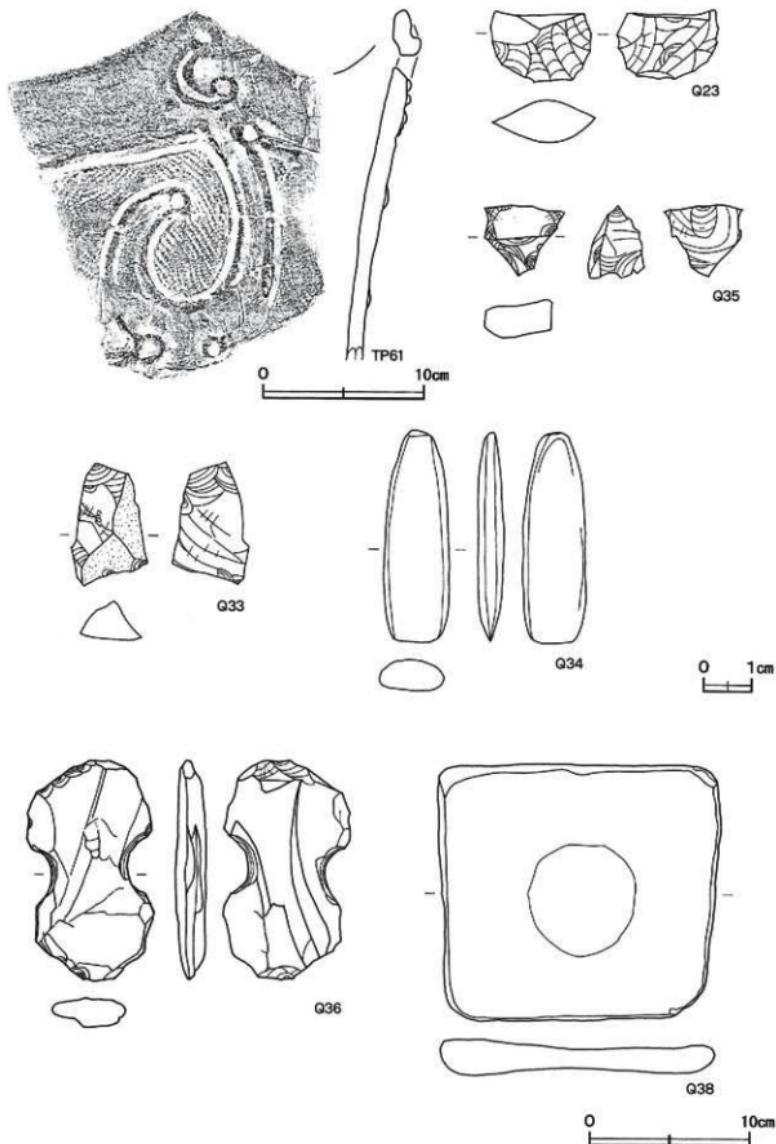
番号	位置	長径方向	平面形	規 模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
1	A3g0	N-38°-W	楕円形	2.28×1.48	18	平坦	-	-	-	1	自然	不明

(5) 遺構外出土遺物

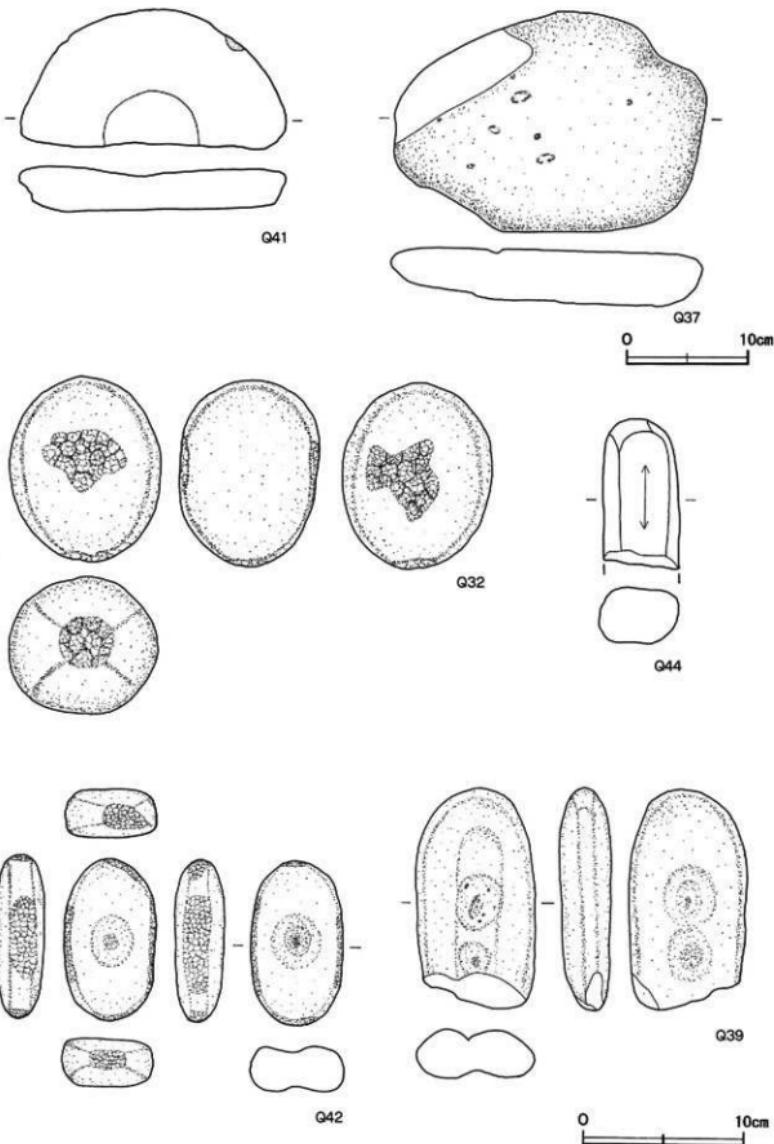
試掘、表土除去、遺構確認の段階で、遺構に伴わない旧石器時代から平安時代にかけての遺物が出土している。以下特徴的な遺物を抽出して、実測図（第77～80図）を掲載し、解説は観察表で記述する。



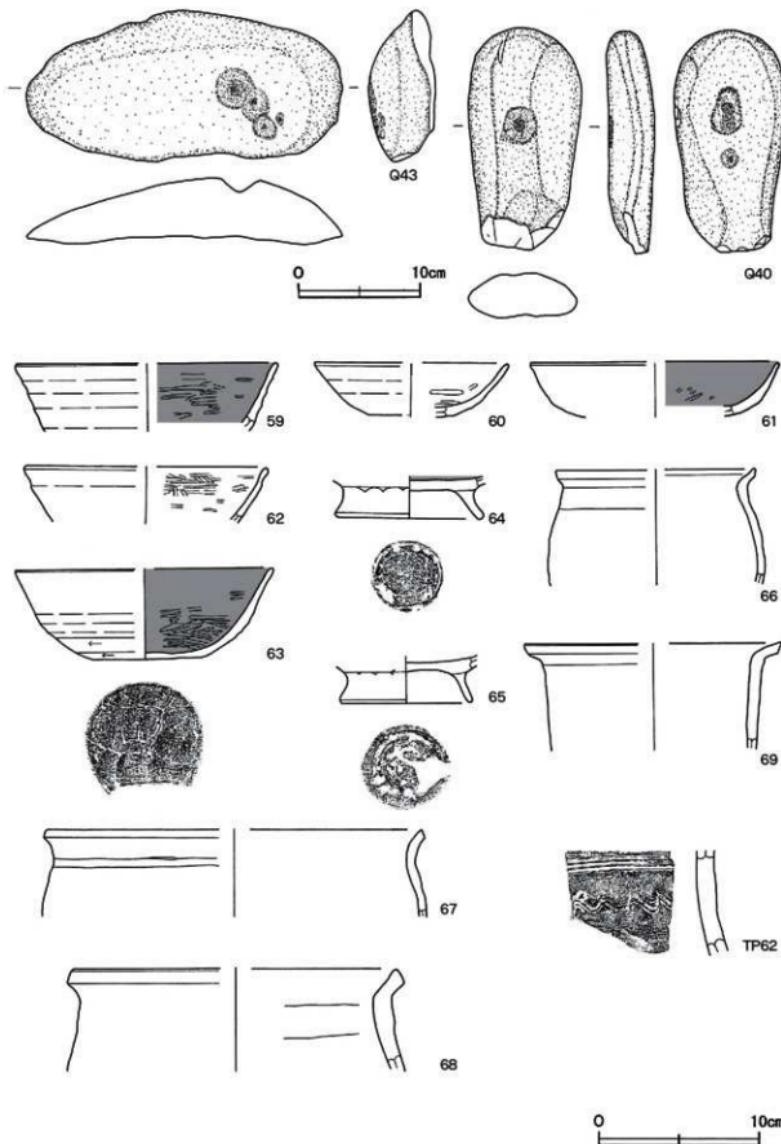
第77図 遺構外出土遺物実測図(1)



第78図 遺構外出土遺物実測図(2)



第79図 遺構外出土遺物実測図(3)



第80図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構出土遺物観察表（第77～80図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色 調	焼 成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
54	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	石英・長石	灰褐色	普通	脇部に突起状の装飾を施し、地文にLRの単脚綱文を施している。横斜に沈縫を施らしている。	トレンチ	5%	
55	縄文土器	深鉢	—	(9.9)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	地文にLRの単脚綱文を施し、沈縫で区画し区画内を崩す消し無文帶を施出している。	トレンチ	20%	
56	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	C字状文に円形刺突文が迷避しその中央部には円穴を施す、橢状の把手。	表様	5%	
57	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	波打た線で、先端部は円錐状で、中央に円形の刺突文が施されている。	表様	5%	
58	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	石英・長石・雲母	黄灰	普通	脇部に、突起を付した陰窓を貼付け、脇部にRLの単脚綱文を施している。	表様	5%	

番号	種 別	器種	胎	土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
TP52	縄文土器	深鉢	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	キザミ目を有する陰窓で脇部文様帶を区画。区画内は沈縫を充填する。	表様		
TP53	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	灰褐色	普通	口唇部に沈縫を施し、2つの刺突文を施している。口縁部は沈縫で無文帯を区画し、地文にRLの単脚綱文を施している。	表様	PL13	
TP54	縄文土器	深鉢	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	波打た線に刺突文と沈縫でC字状文を施す。口縁部には陰窓を施し無文帯を形成。地文には櫛文を施している。	表様	PL13	
TP55	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	灰褐色	普通	沈縫がある陰窓で把手を作成。	表様	PL13	
TP56	縄文土器	浅鉢	石英・雲母	黄灰	普通	口縁部が大きく外傾し、脇部には刺突文と陰窓文にLRの単脚綱文を施している。	表様	PL13	
TP57	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい橙	普通	地文にRLの単脚綱文を施している。曲縁の沈縫で無文帯を区画する。	表様	PL13	
TP58	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	地文にRLの単脚綱文を施している。曲縁の沈縫で無文帯を区画する。	表様		
TP59	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	曲縁の沈縫で文様を施し、沈縫の間に刺突文を施している。	表様	PL13	
TP60	縄文土器	深鉢	石英・長石	にぶい橙	普通	地文にRLの単脚綱文を施し、その中に沈縫を施し文様構成をする。	表様		
TP61	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	波打た線に刺突文と沈縫でC字状文を施す。脇部には平行する陰窓で丁字状文を施し、先端に押住文を施す。地文にRLの単脚綱文を施している。	表様	PL13	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q23	スケレィバー	22	1.5	0.8	2.64	黒色頁岩	達成した互交剥離により、弧状の刃部を作出している	SK9覆土中	PL15
Q32	敲 石	11.6	9.4	8.6	1.2500	石英斑岩	4ヶ所に敲打痕	表様	PL18
Q33	剥 片	2.5	1.6	0.8	2.26	黑 岩	表面に扒理面を残している 表面端部には刃こぼれ状の微細な剥離が見られる	表様	PL14
Q34	磨製石斧	4.4	1.4	0.6	7.15	緑色泥岩	刃部は両面加工	表様	PL15
Q35	剥 片	1.5	1.5	0.7	2.66	玉 磨	表面多方向から、裏面は1方向からの剥離痕からなる	表様	PL15
Q36	打製石斧	13.6	7.9	1.9	195.0	緑色泥岩	括れの深い分離型 刃部は両面加工	表様	PL15
Q37	台 石	18.1	25.9	4.3	2.8300	砂質安岩	平坦な自然面を素材	表様	PL18
Q38	石 砂	16.0	17.6	2.3	1.1600	石 砂	表面に研削痕	表様	PL18
Q39	凹 石	13.5	7.3	3.3	4.920	綠色片岩	表面に2ヶ所、裏面に2ヶ所穿孔	表様	PL17
Q40	凹 石	13.7	7.0	3.0	4.380	砂質片岩	表面に1ヶ所、裏面に2ヶ所穿孔	表様	PL18
Q41	石 砂	8.5	16.6	2.8	41.40	砂 岩	表面に1ヶ所穿孔	表様	PL18
Q42	凹 石	10.2	5.7	3.0	258.0	砂 岩	表面に1ヶ所、裏面に1ヶ所穿孔 剥離4ヶ所に歯痕	表様	PL17
Q43	凹 石	12.5	26.1	3.5	1.7700	砂 岩	表面に3ヶ所穿孔	表様	PL18
Q44	砥 石	9.4	4.7	3.4	27.5	砂 岩	砥面1面	表様	PL18

番 号	種 別	器種	口 径	器 高	底 径	胎	土	色 調	焼 成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
59	土 師 器	壺	[16.2]	(4.2)	—	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面クロナデ 体部内面ヘラ磨き後黒色処理	表様	15%	
60	土 師 器	壺	[12.0]	(3.2)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面クロナデ 体部内面ヘラ磨き	表様	20%	
61	土 師 器	壺	[15.4]	(3.4)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面火熱を受け器面剥落 体部内面ヘラ磨き後黒色処理	表様	15%	
62	土 師 器	壺	[15.0]	(3.5)	—	長石・雲母	にぶい褐色	普通	体部外面クロナデ 体部内面ヘラ磨き	表様	10%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	碗	[16.0]	5.6	7.0	長石・雲母	にぶい緑	普通 底部回転ロクロナデ	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	表様	40% PL12 墨書き器
64	土師器	油押舟	—	(2.7)	8.8	石英・長石・雲母	緑	普通 底部回転糸切り	体部内面ヘラ磨き後黒色処理 高台貼り付け後、ナデ調整	表様	20%
65	土師器	油押舟	—	(2.9)	8.0	長石	にぶい緑	普通	火熱を受け器面剥落 調整不明	表様	20%
66	土師器	甕	[12.4]	(7.2)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁内・外面横ナデ	表様	10%
67	土師器	甕	[23.4]	(5.4)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁内・外面横ナデ	表様	5%
68	土師器	甕	[20.0]	(6.3)	—	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい緑	普通	口縁内・外面横ナデ	表様	5%
69	土師器	瓶	[16.0]	(6.6)	—	石英・長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁内・外面横ナデ	表様	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP62	須恵器	甕	長石・緑	灰	普通	鶴嘴条工具による平行沈線と波状文が施されている。	表様	PL13

## 第4節まとめ

### 1はじめに

今回の調査で、縄文時代と平安時代の遺構と遺物が確認された。また、旧石器時代の遺構は確認されなかったものの、旧石器が調査区の北部で確認された。

ここでは、当遺跡の主体をなす縄文時代と平安時代の遺構と遺物及び集落の変遷について、各時代別に概略を述べるとともに、若干の考察を加えまとめとしたい。

### 2 縄文時代

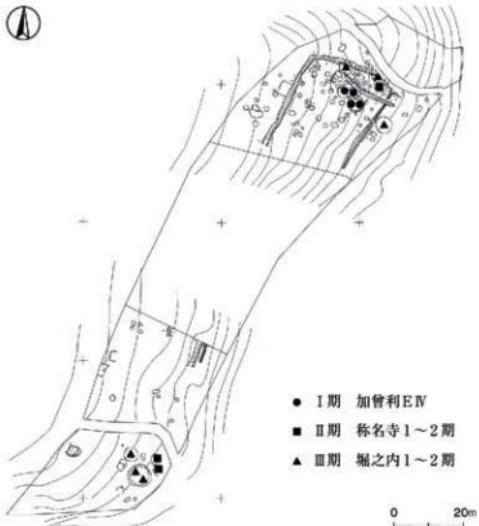
#### (1) 集落と出土土器

当遺跡の中心となる時代で、竪穴住居跡13軒、土坑28基を検出した。集落は中期後半から後期前半にかけて断続的に営まれており、出土土器から大きくⅢ期に分けることができる。Ⅰ期：中期後半（加曾利E IV式期）、Ⅱ期：後期前半（称名寺1～2式期）、Ⅲ期：後期前半（堀之内1～2式期）にしほって分けた。集落の構成要素は竪穴住居跡、土坑などであるが、ここで取り上げる遺構は、年代幅があるものや時期が明確でないものについては除外した。なお、縄文土器の編年については主に『日本土器辞典』<sup>11)</sup>に依拠し、時間軸については中期後半が加曾利E式、後期前半が称名寺式、堀之内式の編年を基準とした。

#### I期 中期後半 加曾利E IV式期（第81図）

土器は深鉢が主体で、口縁部に幅狭の無文帯が区画され、平縁と4単位の波状口縁がある。4単位の波状口縁に合わせて逆U字状文が下から迫り上がり、その間に口縁区画から、U字状文を入れ組み、断面三角形の隆起文で文様を描出している。

本期の遺構は第1・5・10・19号住居跡及び第19・46・111号土坑が相当する。住居跡は、調査区の北部中央の斜面部に、重複しながら直線上に検出された。第1号住居跡と第5号住居跡は、炉の重複状況や土層の堆積状況から建て替えの住居と考えられる。また、第1・10号住居跡は、自然縫を長方形に組んだ石窯炉が確認されている。特に第5号住居跡では、コの字形に石を組んだ石窯炉が確認されている。第1号住居跡の炉は、炉床に深鉢の土器片を敷いた石窯炉であることが確認された。また、住居の西壁から埋甕が検出されており、用途として幼児埋葬施設や胎盤収納施設などが考えられる。土坑は、住居跡を囲むように点在している。



第81図 I期・II期・III期遺構分布図

部だけが確認されただけである。土坑は、3基が確認された。調査区北部に点在している状態である。

### Ⅲ期 後期前半 堀之内1～2式期

土器は深鉢が主体で、口縁部先端を肥厚させて狭い平坦面を作出し、刺突文及び沈線を施したものや、多条の細線で入組文を描出している土器も出土している。

第2・3・7・11・12・21号住居跡が該当し、調査区の北部・南部の標高70m前後の台地の斜面部に位置し、II期の住居跡に隣接するよう点在している。第12号住居跡と第21号住居跡は炉の重複状況や土層の堆積状況から、建て替えの可能性が考えられる。また、第12号住居跡からは3基の炉が確認され、コの字形の石囲炉もほぼ中央部から検出されている。第7号住居跡と第12号住居跡から、土鍤が出土している。このことから、当時の人々の生活の様子や周辺部の環境を想定することができる。

以上のことから、当遺跡は、土鍤や鐵及び凹石等の出土から、狩猟、漁労、木の実等の採集など環境に恵まれた台地の斜面部に集落が形成されていたことが想像できる。また、周辺に遺跡が点在し、「当遺跡の台地の縁辺部の耕作地から繩文土器片を採集できる。」との地元の人の話などを含め、中期後半から後期前半にかけての集落が広がっていたものと考えられる。

#### (2) 石囲炉について

炉跡は、9軒の住居跡で確認され、地床炉が5軒と石囲炉が4軒であった。第1・10号住居跡の石囲炉は、長方形に自然礫を組み合わせて構築している。第5・21号住居跡の石囲炉は、コの字形に自然礫を組み合わせて構築している。ここでは長方形に組み合わせた石囲炉について、市内の上の内遺跡<sup>23)</sup>の出土状況と対比しながら考察してみたい。

### Ⅱ期 後期前半 称名寺1～2式期

土器は深鉢が主体で、沈線によってJ字状やO字状の区画文を施し、区画内には単節繩文を充填している。波状口縁をもつもので、波頂部にC字状の貼付文を施すものや、平縁のもので口縁部無文帯下に隆帯を巡らし舌状の突起を付した深鉢もこの時期に含まれた。

第4・15・16号住居跡及び第19・23・131号土坑が相当する。住居跡は、調査区南部の標高75m前後の斜面部に2軒、北部の標高72mほどの斜面部に1軒が検出されている。第15・16号住居跡は重複して調査区外に延び、出土遺物も少ない。第4号住居跡は、第3号住居に掘り込まれており、一

上の内遺跡は、当遺跡から北へ約3キロに位置し、縄文中期後半の加曾利E I式期から後期前半の堀之内式期に比定されている。住居跡129軒、土坑1,496基の大規模集落の遺跡である。確認されている住居跡数は異なるが、上の内遺跡と当遺跡の時期ごとの、炉の形態の変遷をみた。報告書から残存率のよい長方形（方形）の石圓炉を表にまとめた（表10）。

出土件数の傾向を見てみると、石圓炉は加曾利E II式期から断続的に用いられ、E III式期に最も多く検出され、以後減少しながら、堀之内式期にも若干ではあるが確認することができる。石圓炉に使われる石材については、上の内遺跡では自然砾や棒状・板状の石材を用いているが、加曾利E III式期からIV式期にかけては、凝灰質泥岩及び砂岩を採集・加工して使用する石圓炉が多く見られる。一方、根岸西遺跡では、砂質變岩を炉石として用いている。これらは遺跡周辺で容易に採集できるものであり、身近な石材で炉を構築していることが分かる。

以上のことから、長方形に石を組み石圓炉としたものは、縄文時代中期以降継続して用いられた炉の形態の一つであることがわかる。また、この字形の石圓炉とした事例も上の内遺跡から2例みることができ。長方形に石を囲む炉・コの字形に石を組む炉についての機能や用法の違いについて今後も引き続き検討していくたい。

### (3) 埋甕について

第1号住居跡の西壁からは、埋甕が確認された。埋甕は、中期後半の加曾利E IV式期の深鉢形土器が用いられ、正位の状態で、口縁部と胴部下端を打ち欠いて整形されしっかりと埋設されていた。桜川市の松田古墳群<sup>11)</sup>からは当遺跡と同時期の、加曾利E IV式期の深鉢形土器が住居跡の東壁付近から出土している。上の内遺跡では、4軒から出土している。いずれも加曾利E III式期のもので、正位が2軒、逆位が2軒である。そのうち第2号住居跡からは、逆位で埋設された埋甕3基が出土している。また、時期がやや異なるが、龍ヶ崎市廻り地A遺跡<sup>12)</sup>、中根台B遺跡<sup>13)</sup>、南三島遺跡<sup>14)</sup>などの出土例がある。埋甕の用途については、幼児埋葬施設や胎盤収納施設などの見解もあるが、当遺跡の事例からそれらを裏付ける根拠を見出すことはできなかった。

## 3 平安時代

### (1) 集落と構造・遺物

堅穴住居跡7軒、土坑2基が確認されている。これらは、標高75mほどの調査区内で最も高い斜面部に位置しており、調査区の北部と南部から検出されている。地形的な制約や調査区域の関係で、集落全体を明確に確認することができなかった。しかし、検出された遺構と遺物についてまとめてみたい。

住居の構築については、第8号住居跡の竈から、石製の支脚が直立した状態で出土した。また、袖部の芯材に使用されていたと考えられる棒状の中疊が、左袖部から出土した。柱穴は、6か所（建て替えの可能性有り）が確認できた。他の住居は、竈等の残存も不良で確認することができなかった。

出土した土器は、土師器が中心である。須恵器は破片の数点が出土しているだけで、周辺からの流れ込みと考えられる。土師器は、壺・椀・高台付椀・甕などで、壺は、内面に黒色処理とミガキを施し、底部

	上の内遺跡		根岸西遺跡	
	地床炉	石圓炉	地床炉	石圓炉
E I 式期	1			
E II 式期		1		
E III 式期	7	11		
E IV 式期	3	2	1	3
称名寺式期				
堀之内式期	31	2	4	1

表10 上の内遺跡・根岸西遺跡における  
炉の形態分類

下端に手持ちヘラ削りを施したものがよく見られる。甕は、「常総甕」の口縁部片の出土が目立っている。椀は、内面に黒色処理とミガキを施した口径16cmほどの大形のものが出土している。なお、遺構外であるが、体部に墨書の痕跡をうかがうことができるものも出土した。

集落の時期は、10世紀前半に限られている。縄文時代以降、生活の痕跡の無かったこの台地の斜面部に、10世紀に入り集落が形成され一時期で廃絶されたことは、10世紀以降のこの地方の社会変化をとらえていくための資料になるのではないかと考える。

#### 4 おわりに

当遺跡は、縄文時代と平安時代の複合遺跡である。縄文時代には、狩猟・漁労・採集を支える自然環境に恵まれた生活の場として、平安時代には、10世紀前半という一時期に形成された集落であることが分かった。

以上のように、発掘調査によって得られた成果をまとめてきたが、茨城県及び日立市の歴史を解明する上で、ささやかな一助となれば幸いである。

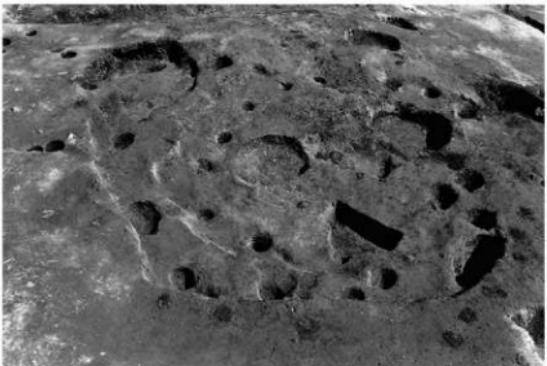
#### 註

- 1) 大川 清・工楽普通・鈴木公雄編 「日本土器辞典」 雄山閣 1996年12月
- 2) 松田政基・湯原勝美 「上の内遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第46集 1998年3月
- 3) 小川和博 「上の内遺跡発掘調査報告書」「日立市文化財調査報告」第61集 2002年3月
- 4) 横倉要次 「北関東自動車道(協和~友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書V 松田古墳群」「茨城県教育財团文化財調査報告」第226集 2004年3月
- 5) 瓦吹 堅・桜井二郎・高村 勇 「竜ヶ崎ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告書7 週り地A遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第15集 1982年3月
- 6) 山本静男 「竜ヶ崎ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告書9 仲根台B道路 町田遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第25集 1984年3月
- 7) 中根節男 「竜ヶ崎ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告書 南三島遺跡5区」「茨城県教育財团文化財調査報告」第32集 1985年3月

#### 参考文献

- ・柳澤清一 「茨城県における加曾利E4編年の検討」「茨城県考古学協会誌」 第7号 1995年5月
- ・柴田博行・吹野富美夫・宮崎修士 「伊奈・谷和原丘陵部特定土地開発整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4 前田村道路G・H・I区」「茨城県教育財团文化財調査報告」第146集 1999年3月
- ・荒井克一郎 「一般国道50号下館バイパス改良事業地内埋蔵文化財調査報告書II 堂東遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第213集 2004年3月
- ・瓦吹 堅 「茨城県における縄文時代集落の諸様相」「第1回研究集会基礎資料集 列島における縄文時代集落の諸様相」縄文時代文化研究会 2001年12月
- ・真壁町史編さん委員会 「真壁町史料 考古資料編II」 真壁町 1982年12月
- ・浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)」「研究ノート」第1号 茨城県教育財团
- ・鈴木義則 「武田石高遺跡 奈良・平安時代編」「ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財報告」第19集 2002年3月

写 真 図 版



第1・5号住居跡  
完掘状況



第1号住居跡炉  
(石窯)完掘状況



第1号住居跡  
埋甕出土状況



第3号住居跡  
完掘状況



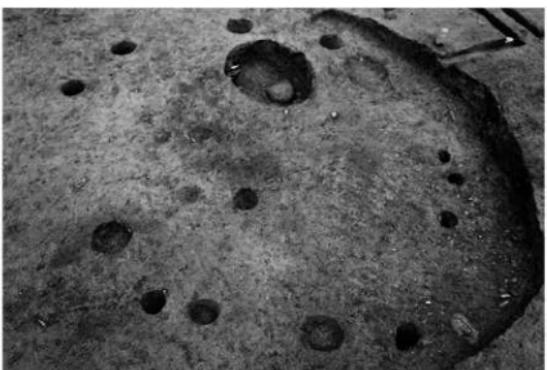
第7号住居跡  
完掘状況



第10号住居跡  
完掘状況



第 10 号住居跡  
(石窯炉) 完掘状況



第 11 号住居跡  
完掘状況



第 11 号住居跡  
遺物出土状況



第12・21号住居跡  
完掘状況



第12・21号住居跡  
遺物出土状況

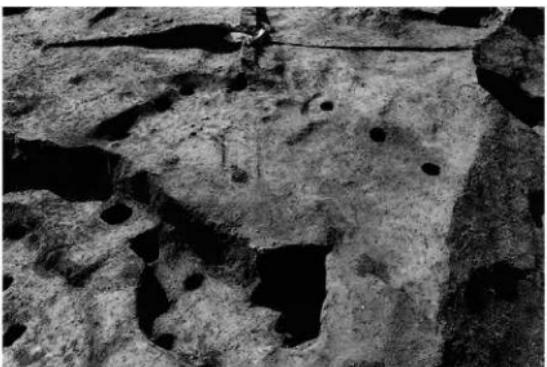


第21号住居跡炉  
(石圓炉) 完掘状況

第15・16号住居跡  
完掘状況



第19号住居跡  
完掘状況



第8号住居跡竈  
遺物出土状況





第 13 号 住居跡  
遺物出土状況



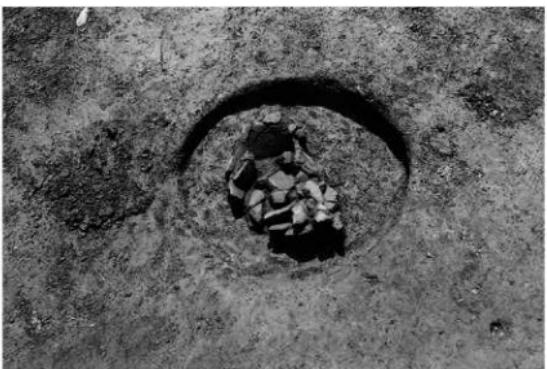
第 13 号 住居跡  
遺物出土状況



第 19 号 土坑  
遺物出土状況



第 23 号土坑  
遗 物 出 土 状 况



第 105 号土坑  
遗 物 出 土 状 况



第 107 号土坑  
遗 物 出 土 状 况



第 111 号土坑  
遺物出土狀況



第 114 号土坑  
遺物出土狀況



第 2 号溝跡  
完掘狀況



SI 2-7



SI 12-10



SI 11-9



SI 2-6



SI 1-1



SI 1-2

第 1 · 2 · 11 · 12 号住居跡出土遺物



SI 21-13



SK23-20



SK107-28



SK105-27



SI 12-12



SK19-17

第12·21号住居跡，第19·23·105·107号土坑出土遺物



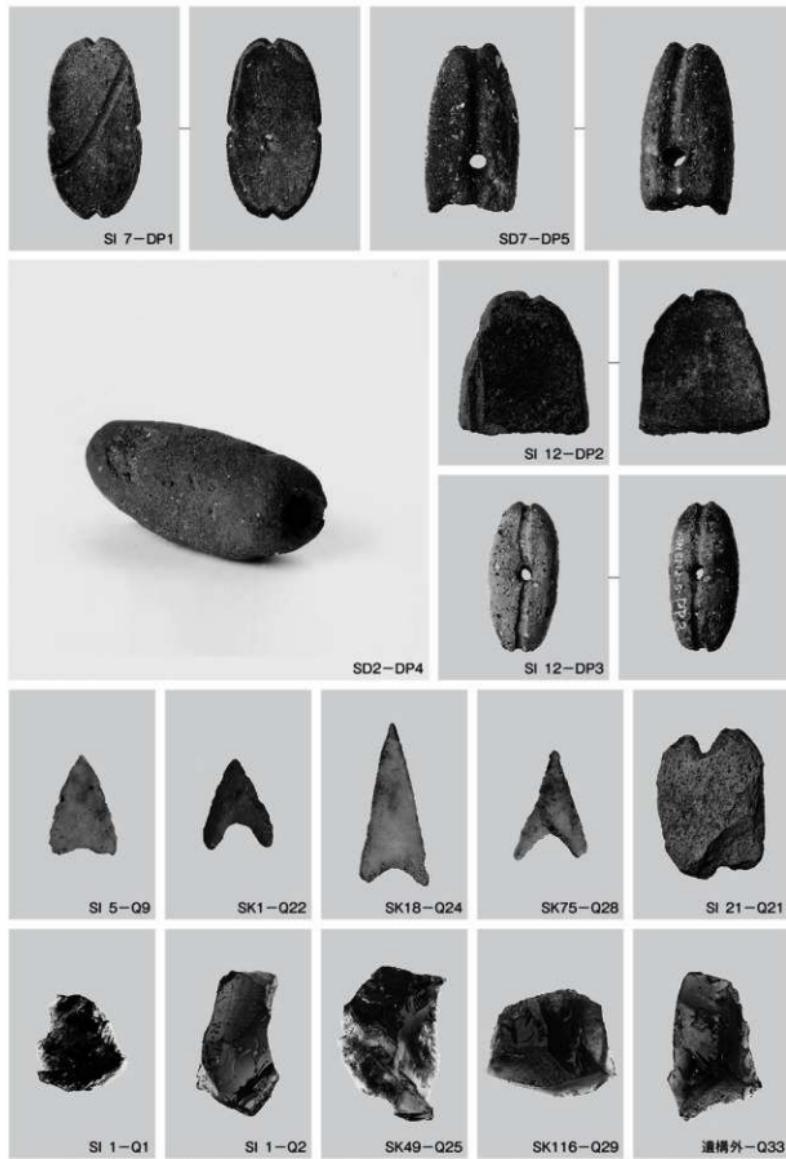
第 8 · 13 · 20 · 22 号住居跡，第 111 · 114 号土坑出土遺物



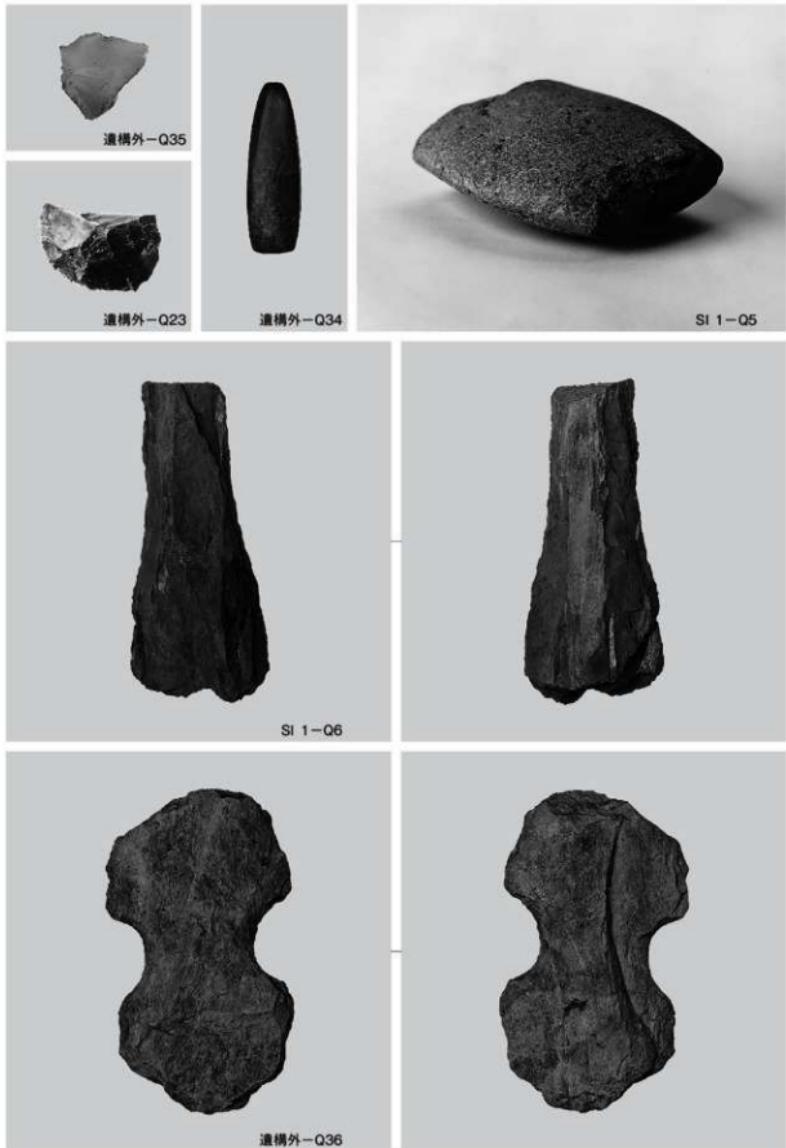
第1・3・5・7・10・11・12・21号住居跡、第101号土坑、遺構外出土土器



第21号住居跡、第52・95・131・137号土坑、第8号溝跡、遺構外出土土器



第1·5·7·12·21号住居跡、第1·18·49·75·116号土坑、第2·7号溝跡、遺構外、  
出土石器・石製品・土製品



第1号住居跡、遺構外出土石器



SI 1-Q3



SI 1-Q4



SI 1-Q7



SI 7-Q12



SI 12-Q14



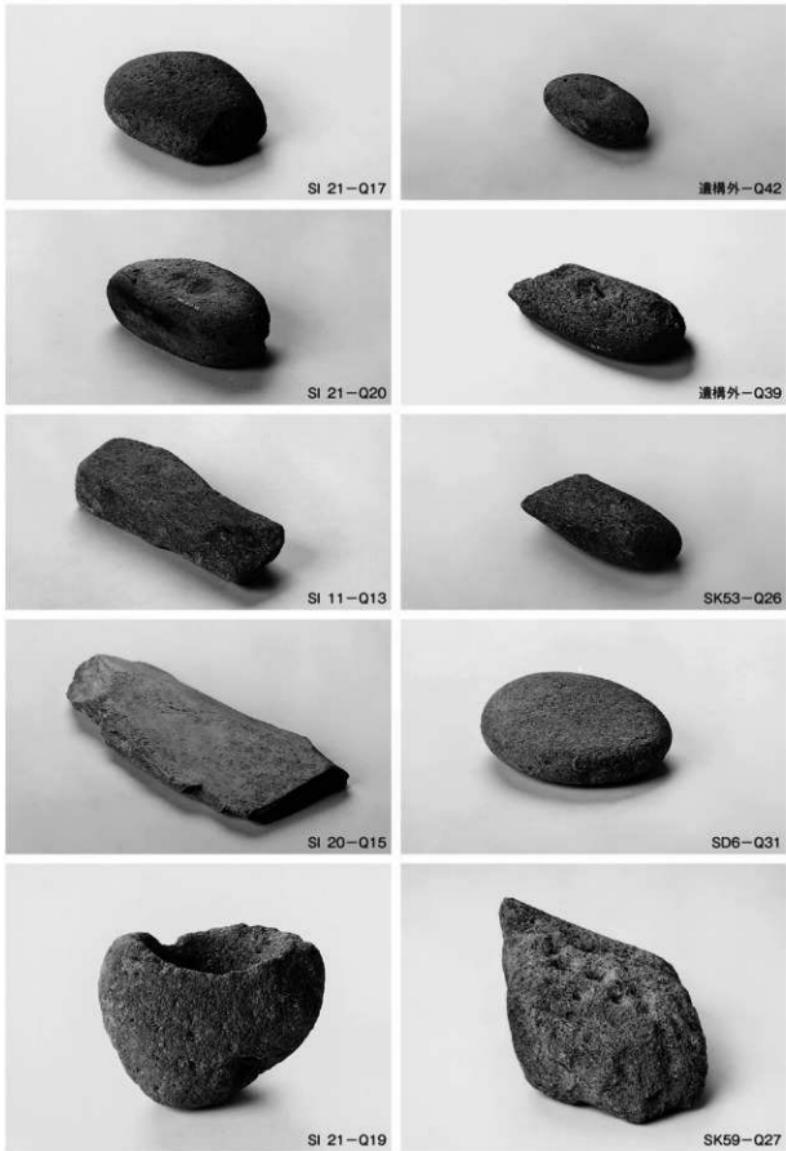
SI 21-Q18



SI 7-Q10



SI 7-Q11



第11·20·21号住居跡、第53·59号土坑、第6号溝跡、遺構外出土石器



遺構外-Q44



遺構外-Q40



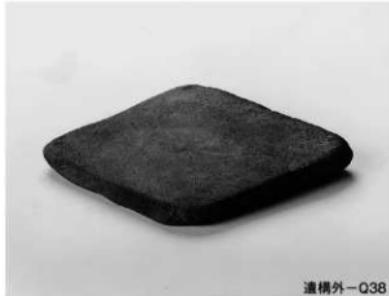
遺構外-Q41



遺構外-Q43



遺構外-Q32



遺構外-Q38



遺構外-Q37

遺構出土石器

茨城県教育財団文化財調査報告第261集

## 根岸西遺跡

主要地方道日立笠間線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成18（2006）年3月20日 印刷  
平成18（2006）年3月24日 発行

発行 財團法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 ワタヒキ印刷株式会社  
〒310-0012 水戸市城東1-5-21  
TEL 029-221-4381